

# Enterprise Vault™ Domino サーバーアーカイブ の設定

12.3

# Enterprise Vault™: Domino サーバーアーカイブの設定

最終更新日: 2018-02-08。

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100040095](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095)

## マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

[evdocs@veritas.com](mailto:evdocs@veritas.com)

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

# 目次

|       |  |    |
|-------|--|----|
| 第 1 章 | 本書について .....   | 7  |
|       | このマニュアルについて .....  | 7  |
|       | Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....                                      | 7  |
|       | Enterprise Vault トレーニングモジュール .....   | 10 |
| 第 2 章 | Domino メールボックスアーカイブの設定 .....   | 11 |
|       | Domino メールボックスアーカイブについて .....  | 11 |
|       | Domino メールボックスアーカイブの準備 .....   | 14 |
|       | Enterprise Vault の Domino サーバーの設定の確認 .....                                 | 14 |
|       | Domino メールボックスアーカイブの準備で Web 接続に対応するた<br>めの Enterprise Vault を設定 .....      | 15 |
|       | Domino メールボックスアーカイブを使うためのボルトストアグループ、<br>ボルトストア、パーティションの準備 .....            | 16 |
|       | Enterprise Vault での Domino の対象、タスク、ポリシーの設定 .....                           | 17 |
|       | Domino フォームの一覧の確認 .....  | 17 |
|       | Domino サーバーアーカイブ対象の追加 .....  | 18 |
|       | Domino メールボックスアーカイブ用のメールボックスポリシーの設定<br>.....                               | 20 |
|       | Domino メールボックスアーカイブの保持フォルダ .....   | 27 |
|       | Domino メールボックスアーカイブのデスクトップポリシーの設定 .....                                    | 28 |
|       | Domino プロビジョニングタスクの作成 .....  | 32 |
|       | Domino メールボックスタスクの作成 .....   | 33 |
|       | Enterprise Vault サイトのデフォルト設定のレビュー .....                                    | 33 |
|       | Domino メールボックスアーカイブの設定時のプロビジョニンググルー<br>プの追加 .....                          | 35 |
|       | Notes と DWA クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能のインストール<br>.....                 | 37 |
|       | Notes および DWA クライアント用の Enterprise Vault について .....                         | 37 |
|       | Notes と DWA クライアント用の Enterprise Vault クライアント拡張機<br>能のインストール .....          | 39 |
|       | EVInstall.nsf を使って Enterprise Vault Domino Gateway を設定<br>するアカウントの設定 ..... | 39 |
|       | EVInstall.nsf を使ってメールサーバーを設定するアカウントの設定<br>.....                            | 40 |

|   |    |
|---|----|
| Notes と DWA クライアントのセットアップ時に実行制御リスト権限を付与する .....                       | 41 |
| Notes および DWA クライアント拡張機能のインストール .....                                 | 42 |
| Domino メールボックスアーカイブを設定する場合に EVInstall.nsf が行う変更 .....                 | 45 |
| Notes と DWA 拡張機能をインストールした後の新しい設計でのメールファイルの更新 .....                    | 49 |
| Notes と DWA 拡張機能をインストールした後でユーザーが Enterprise Vault 検索機能にアクセスする方法 ..... | 50 |
| 内部 Notes メール受信者の識別 .....  | 51 |
| Domino メールボックスアーカイブのインストール後に自動メッセージを編集する方法 .....                      | 51 |
| Domino メールボックスアーカイブのインストール後の Welcome メッセージの編集 .....                   | 51 |
| Domino メールボックスアーカイブのインストール後にメールボックスのアーカイブを有効化 .....                   | 52 |

## 第 3 章

### オフラインユーザー用のボルトキャッシュの設定

|  |    |
|--|----|
| .....  | 55 |
| Domino ユーザーのボルトキャッシュについて .....                               | 55 |
| Domino デスクトップポリシーを使用してボルトキャッシュに対してユーザーを有効化 .....             | 56 |
| ボルトキャッシュ使用時の Enterprise Vault Domino Gateway に対する権限の設定 ..... | 57 |
| Domino デスクトップポリシーを使うによるボルトキャッシュの無効化 .....                    | 57 |
| Domino 用ボルトキャッシュ設定のトラブルシューティング .....                         | 58 |
| 新しく有効になった Domino のボルトキャッシュがポピュレートされない .....                  | 58 |

## 第 4 章

### Domino ジャーナルアーカイブの設定

|  |    |
|--|----|
| Domino ジャーナルアーカイブの準備 .....                 | 60 |
| Domino ドメインの追加 .....                       | 61 |
| Domino サーバーの追加 .....                       | 61 |
| Domino ジャーナルへのボルトストアの割り当て .....            | 61 |
| Domino ジャーナルアーカイブの作成 .....                 | 62 |
| Domino ジャーナルアーカイブへの権限の追加 .....             | 62 |
| Domino ジャーナルポリシーの作成 .....                  | 63 |
| Domino ジャーナルタスクの作成 .....                   | 63 |
| Domino ジャーナルの場所の追加 .....                   | 64 |
| 内部 Notes メール受信者の識別 .....                   | 65 |
| Domino ジャーナルアーカイブを設定する場合のクライアントの設定方法 ..... | 65 |

|   |    |
|---|----|
| Domino ジャーナルアーカイブを設定する場合の Notes クライアント<br>の使用に関する注意事項 ..... | 66 |
|---|----|

## 第 5 章

|   |           |
|---|-----------|
| <b>フィルタ処理の設定 .....</b>                        | <b>67</b> |
| フィルタについて .....                                | 67        |
| カスタムフィルタの設定 .....                             | 68        |
| Domino カスタムフィルタのレジストリ設定 .....                 | 69        |
| カスタムフィルタルールセットの概要 .....                       | 73        |
| デフォルトのカスタムフィルタの動作の制御について .....                | 75        |
| カスタムフィルタのルールセットファイルの一般的な形式について<br>.....       | 78        |
| カスタムフィルタのルール処理について .....                      | 80        |
| カスタムフィルタのメッセージ属性フィルタについて .....                | 82        |
| カスタムフィルタのルールセットファイルの例 .....                   | 94        |
| カスタムプロパティと内容カテゴリの設定 .....                     | 98        |
| Custom Properties.xml の一般的な形式について .....       | 100       |
| カスタムプロパティでの追加 Domino メッセージプロパティの定義<br>.....   | 102       |
| 内容のカテゴリについて .....                             | 104       |
| サードパーティのアプリケーションでのカスタムプロパティの表示方法<br>の定義 ..... | 108       |
| カスタムプロパティの要素と属性の概略 .....                      | 112       |

# 本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

## このマニュアルについて

このガイドでは、Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブできるように Enterprise Vault を設定する方法について説明します。

このガイドでは、次の製品の管理方法を理解していることを前提にしています。

- Windows Server
- Domino サーバー
- Notes クライアント
- Microsoft SQL Server
- Microsoft Internet Information Services (IIS)

## Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#)から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

| マニュアル                                | コメント  |
|--------------------------------------|---|
| Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ | <p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li> <li>■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。</li> </ul> |
| 導入および計画                              | Enterprise Vault の機能の概要を説明します。  |
| Deployment Scanner                   | Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。  |
| インストールおよび設定                          | Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。  |
| アップグレードの手順                           | 既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。  |
| Domino サーバーアーカイブの設定                  | Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。   |
| Exchange Server アーカイブの設定             | Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。  |
| ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定              | ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。   |
| IMAP の設定                             | Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。  |
| SharePoint Server アーカイブの設定           | Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。   |
| Skype for Business のアーカイブの設定         | Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。   |
| SMTP アーカイブの設定                        | 他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。   |



| マニュアル                                    | コメント  |
|--|---|
| Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類        | Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。   |
| Veritas Information Classifier を使用した分類   | Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。 |
| 管理者ガイド                                   | 日常的な管理を実行する方法を説明します。  |
| PowerShell コマンドレット                       | Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。   |
| 監査                                       | Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。  |
| バックアップと回復                                | システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。   |
| レポート                                     | Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。  |
| NSF 移行                                   | Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。  |
| PST 移行                                   | Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。  |
| ユーティリティ                                  | Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。   |
| レジストリ値                                   | レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。   |
| 管理コンソールのヘルプ                              | Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。   |
| Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ | Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。   |

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

# Domino メールボックスアーカイブの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino メールボックスアーカイブについて](#)
- [Domino メールボックスアーカイブの準備](#)
- [Enterprise Vault での Domino の対象、タスク、ポリシーの設定](#)
- [Notes と DWA クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能のインストール](#)
- [内部 Notes メール受信者の識別](#)
- [Domino メールボックスアーカイブのインストール後に自動メッセージを編集する方法](#)
- [Domino メールボックスアーカイブのインストール後にメールボックスのアーカイブを有効化](#)

## Domino メールボックスアーカイブについて

Enterprise Vault Domino Gateway は、Notes と Enterprise Vault 間のインターフェースを提供します。アーカイブでは Enterprise Vault Domino Gateway は使われませんが、オープン、復元、削除、検索など、アーカイブデータに対する処理は Enterprise Vault Domino Gateway によって行われます。


 **図 2-1** は、Domino メールファイルからアイテムをアーカイブする際の処理を示しています。

図 2-1 アイテムのアーカイブ

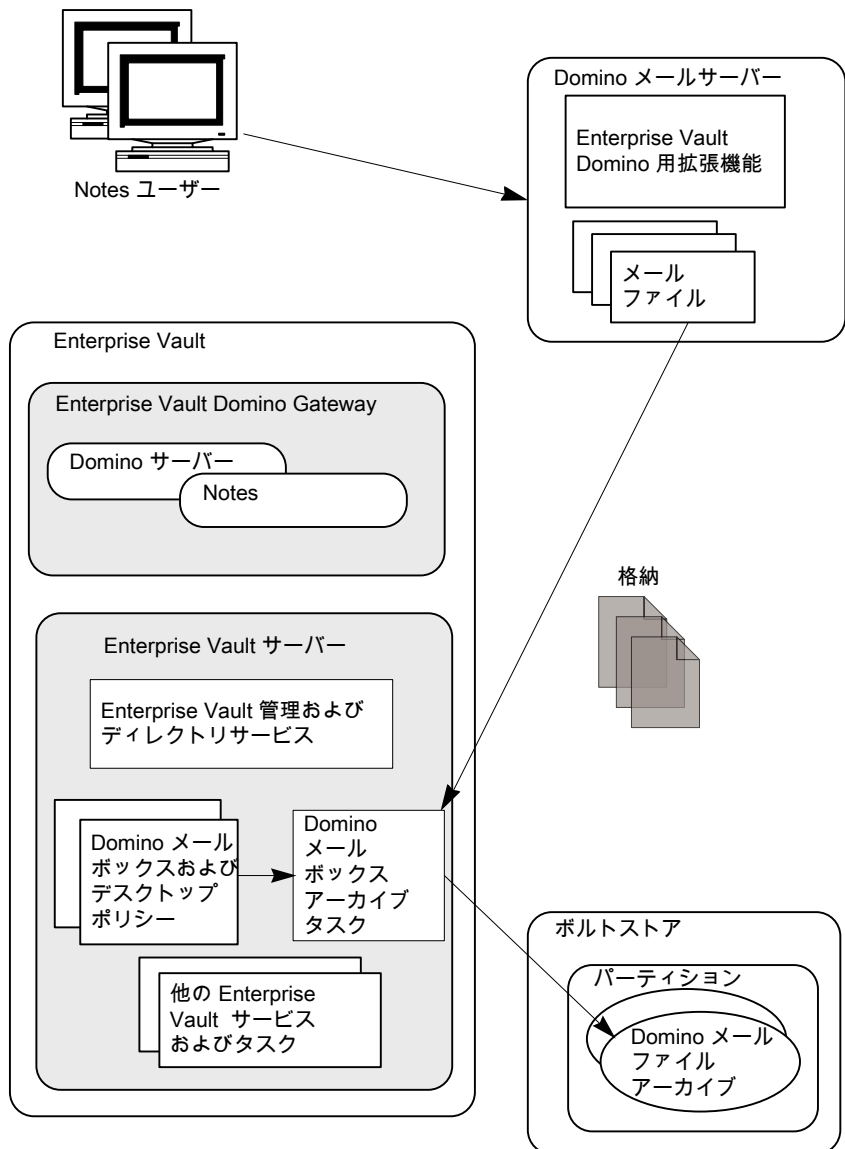
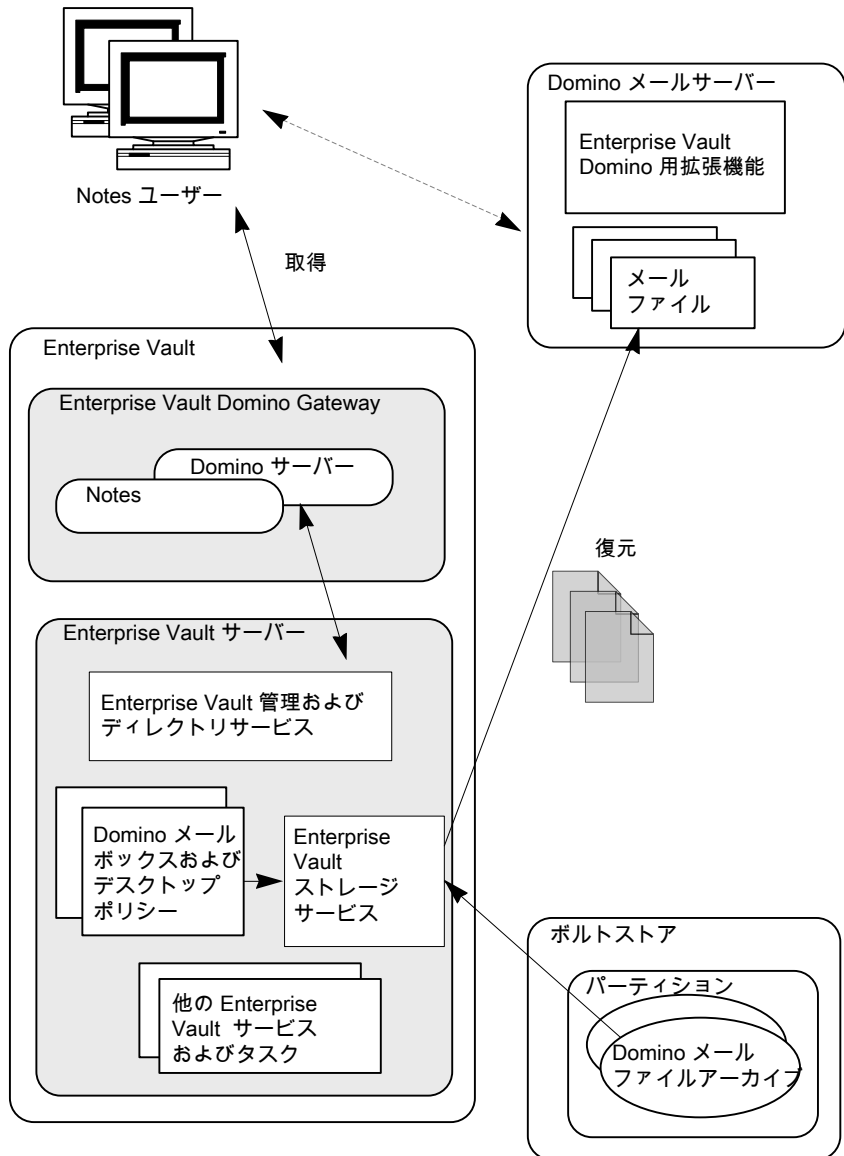


図 2-2 はアーカイブ済みアイテムを表示または復元する際の処理を示しています。

図 2-2 アーカイブ済みアイテムの取り込みまたは復元



Enterprise Vault によって Enterprise Vault Domino Gateway にインストールされる Enterprise Vault 拡張マネージャは、Enterprise Vault Domino Gateway の主な機能を提供します。Enterprise Vault 拡張マネージャは、Notes および DWA クライアントからの要求を処理して Enterprise Vault に渡すサーバー側の拡張機能です。拡張マネー

ジャが Enterprise Vault データに対して無制限のアクセス権を持つため、Domino サーバーはボルトサービスアカウントの下で実行する必要があります。

## Domino メールボックスアーカイブの準備

先に進む前に、次の処理を行ったことを確認します。

- ソフトウェアの前提条件が満たされていることを確認しました。
- Enterprise Vault Domino Gateway コンピュータ上に Domino サーバーをインストールして設定しました。
- Enterprise Vault をインストールして設定ウィザードを実行しました。

これらのタスクを実行する方法について詳しくは『インストール/設定』を参照してください。

## Enterprise Vault の Domino サーバーの設定の確認

Enterprise Vault Domino Gateway 上で Domino サーバーの設定に対して行われた変更を確認できます。

Enterprise Vault では、次のバイナリファイルが Domino のプログラムディレクトリにインストールされます。

- EVDominoTrace.dll
- EVNoteStream.dll
- EVRT.dll
- nEVDominoEM.dll
- nEVDominoHousekeeping.exe

Enterprise Vault では、次のメールテンプレートファイルとデータベースファイルが Domino のデータディレクトリにインストールされます。

- EVAttach.ntf
- EVinstall.nsf
- EV¥EVDomino.nsf

Enterprise Vault の設定ウィザードで、Domino のプログラムディレクトリにある notes.ini ファイルを編集します。このファイルには、次のエントリが含まれている必要があります。

```
ExtMgr_Addins=EvDominoEM.dll
```

```
ServerTasks= ... ,EVDominoHousekeeping
```

ここで、Enterprise Vault Domino Gateway で Domino サーバーを起動します。Enterprise Vault ディレクトリサービスが実行中の場合は、起動時に次の行がコンソールに表示されます。

```
Veritas Enterprise Vault Extension Manager: SERVER
```

```
...
```

```
EV Housekeeping: Initialization complete.
```

```
Veritas Enterprise Vault Extension Manager: HTTP
```

## Domino メールボックスアーカイブの準備で Web 接続に対応するための Enterprise Vault を設定

Notes ユーザーがアーカイブ検索を開始すると、Enterprise Vault Domino Gateway との Web 接続が確立されます。この接続をサポートするには、このセクションで説明する設定タスクを実行する必要があります。

ユーザーがアーカイブ検索を実行する場合、Enterprise Vault アーカイブへのユーザーアクセスの認証に、EnterpriseVaultDomino と呼ばれる新しい IIS 仮想ディレクトリが使われます。この仮想ディレクトリは Enterprise Vault¥WebApp フォルダに関連付けされており、匿名アクセスが有効になっています。セキュリティのため、この仮想ディレクトリには Web アカウントが必要です。Web アクセス専用のアカウントを作成することを推奨します。

仮想ディレクトリの名前 (EnterpriseVaultDomino) は変更しないでください。

Exchange Server OWA アクセス用のアカウントがすでに設定されている場合は、Domino メールボックスアーカイブにも同じアカウントを使う必要があります。

Enterprise Vault データアクセスアカウントとして使う Windows ドメインユーザーアカウントを作成します。このアカウントは、この目的のために特別に作成する基本ドメインアカウントにする必要があります。ローカルコンピュータアカウントは使えません。アカウントはどの管理グループにも属していない必要があります。

### Enterprise Vault データアクセスアカウントを設定する方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault Domino Gateway コンピュータにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理コンソールを起動します。
- 3 ツリーを展開して、[ディレクトリ]コンテナを右クリックします。
- 4 [プロパティ]を選択します。
- 5 [ディレクトリプロパティ]ウィンドウで、[データアクセスアカウント]タブをクリックします。
- 6 [アカウント]フィールドで、Enterprise Vault データアクセスアカウントを選択します。

7 アカウントのパスワードを入力し、確認します。

8 [OK]をクリックします。

仮想ディレクトリ **EnterpriseVaultDomino** が作成され、匿名アクセス権が、指定したアカウントに自動的に付与されます。

#### データアクセスアカウントの設定を確認する方法

1 ドメインコントローラではないコンピュータで、[管理ツール]の[ローカルセキュリティポリシー]を開きます。[セキュリティの設定]を開きます。

2 [ローカルポリシー] > [ユーザー権限の割り当て]の順にクリックします。

3 次の権限が設定されている必要があります。

ネットワーク経由でコンピュータへアクセス (**SeNetworkLogonRight**)。

走査チェックのバイパス (**SeChangeNotifyPrivilege**)。

バッチジョブとしてログオン (**SeBatchLogonRight**)。

ローカルログオンの許可 (**SeInteractiveLogonRight**)。

4 **Enterprise Vault** データアクセスアカウントを含む次のレジストリ値も作成されます。これにより、このユーザーのみが、**Domino** ユーザーからアクセス可能なアーカイブの一覧を取得できるようになります。

```
HKEY_CURRENT_USER
  ¥Software
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥AnonymousUser
```

**HKEY\_CURRENT\_USER** は、ボルトサービスアカウントです。この設定の値は、匿名ユーザーの **Windows** ドメインを含むフルパス名 (mydomain¥DomAnonUser など) です。

## Domino メールボックスアーカイブを使うためのボルトストアグループ、ボルトストア、パーティションの準備

メールボックスのアーカイブを有効にするには、ボルトストアグループ、ボルトストア、ボルトストアのパーティションが存在する必要があります。アーカイブ対象のメールボックスを有効にすると、**Enterprise Vault** によって選択したボルトストアに各メールボックスのアーカイブが自動的に作成されます。

**Domino** サーバーまたはプロビジョニンググループのデフォルトボルトストアを設定できます。



---

**メモ:** ボルトストアはローカルな Enterprise Vault ストレージサービスによって管理されます。

---

『インストール/設定』ガイドのストレージの設定に関する章を参照してください。

## Enterprise Vault での Domino の対象、タスク、ポリシーの設定

管理コンソールを使って Enterprise Vault ディレクトリの Domino メールボックスのアーカイブを設定できます。次の一覧に、タスクの概要を示します。タスクについて詳しくは以降のセクションで説明します。

- メールボックスからアーカイブするアイテムに対して、利用可能な Domino フォームの一覧が正しいことを確認します。
- 対象の Domino ドメインを追加します。
- アーカイブ対象のメールボックスをホストする Domino サーバーを追加します。管理コンソールで最初の対象 Domino サーバーを追加するときに、任意で、Domino プロビジョニングタスクとメールボックスタスクを追加することができます。
- Domino メールボックスポリシーを設定し、Enterprise Vault で対象の Domino サーバーメールボックスをアーカイブする方法を定義します。
- Notes クライアントで使用できる Enterprise Vault 機能を制御するように Domino デスクトップポリシーを設定します。
- Enterprise Vault サイトの設定を確認します。
- 対象メールボックスのプロビジョニンググループを作成します。

### Domino フォームの一覧の確認

Domino サーバーメールボックスからアーカイブできるアイテムの種類は、Domino フォームまたはフォームエイリアスを使って定義されます。利用可能なフォームの一覧は、[ディレクトリプロパティ]に表示されます。Domino メールボックスポリシーでアーカイブ対象のアイテムのフォームを選択します。

#### 利用可能なフォームの一覧を確認する方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールを起動します。
- 2 ツリーを展開して、[ディレクトリ] コンテナを右クリックします。
- 3 [プロパティ] を選択します。

- 4 [プロパティ]ウィンドウで、[Domino フォーム] タブを選択します。
- 5 アーカイブ対象の文書の種類に必要なフォームがすべて一覧に含まれていることを確認します。必要に応じて、[追加] を使ってフォームを一覧に追加します。

## Domino サーバーアーカイブ対象の追加

管理コンソールで、Domino ドメインとアーカイブする Domino サーバーを追加する必要があります。

### Domino ドメインの追加

Enterprise Vault 管理コンソールで対象の Domino ドメインを設定できます。

#### Domino ドメインを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[対象]コンテナを展開します。
- 2 [Domino]を右クリックし、ショートカットメニューを[新規作成]、[Domino ドメイン]の順にクリックします。

新規 Domino ドメインウィザードが起動します。

- 3 ウィザードに従って操作します。

次の情報を指定するように求められます。

- Domino ドメインへのアクセスに使う ID ファイルの名前とパスワード。通常は、作成した Domino アーカイブユーザーの ID を使います。
- 追加するドメイン内の任意の Domino サーバーの完全な識別名。

- 4 ID ファイルを次の場所にコピーします。

- Domino メールボックスアーカイブタスクを実行するすべての Enterprise Vault サーバー。
- すべての Enterprise Vault Domino ゲートウェイ。

各 ID ファイルのファイル名は各サーバーで同じである必要があります。

### 対象の Domino メールサーバーの追加

次に、Enterprise Vault 管理コンソールで対象の Domino メールサーバーを追加します。1 つの Domino メールボックスアーカイブタスクで、ドメイン内の複数の対象 Domino メールボックスをアーカイブできます。

セカンダリ Domino サーバーを使ってユーザーのメールファイルのレプリカを保存する場合は、メールサーバーの代わりにこのセカンダリサーバーからアーカイブできます。多数のメールサーバーが存在し、セカンダリサーバーが少数である場合は、この方法によって設定を簡略化できます。この方法を使う場合は、メールサーバーの代わりにセカンダリサーバーを追加します。

### 対象の Domino メールサーバーを追加するには

- 1 管理コンソールの左ペインの[対象]コンテナを展開します。
- 2 [Domino]を展開します。
- 3 サーバーを追加する Domino ドメインを展開します。
- 4 Domino サーバーコンテナを右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成]、[Domino サーバー]の順にクリックします。  
[新規 Domino サーバー]ウィザードが起動します。
- 5 ウィザードに従って操作します。

このウィザードでは、次を選択できます。

- アーカイブする Domino サーバー。ウィザードの[アーカイブする Domino サーバーを選択してください]の下にあるドロップダウンボックスを選択すると、ドメイン内のすべての Domino サーバーが一覧表示されます。
- クラスタのオプション。追加するサーバーが Domino クラスタ内に含まれている場合は、クラスタ内のすべてのサーバーを Enterprise Vault サイトに追加することができます。また、優先サーバーに追加するサーバーを設定することもできます。アーカイブタスクはメールボックスからのアーカイブ時に優先サーバーを使います (可能な場合)。メールボックスが別のサーバーにある場合はメールボックスをこの優先サーバーにレプリケートして、アーカイブタスクがこのサーバーを使ってアーカイブできるようにする必要があります。メールボックスがこの優先サーバーにレプリケートされない場合、タスクはメールボックスをホストするサーバーからアーカイブします。
- 必要な Enterprise Vault タスクが作成されました。必要に応じて、Domino メールサーバーを追加した後にこれらを追加できます。作成できる Domino メールボックスタスクは、各 Enterprise Vault サーバーに 1 つのみです。Domino ドメインごとに、Domino プロビジョニングタスクが 1 つのみ存在する必要があります。
- サイト内の別の Enterprise Vault サーバーにタスクを作成する場合は、Enterprise Vault サーバーの名前が必要になります。
- Domino メールサーバーにアクセスする際に使用する ID とパスワード (ドメインへのアクセスに使用される ID と異なる場合)。通常は、作成した Domino アーカイブユーザーの ID を使います。

- 6 Enterprise Vault ディレクトリに Domino ドメインが追加されて、ツリーに表示されます。これで、Enterprise Vault でアーカイブする Domino メールサーバーを追加できるようになりました。
- 7 レプリカメールファイルをアーカイブするためのセカンダリサーバーを追加した場合は、プロビジョニングタスクを実行する Enterprise Vault サーバー上で DominoHubServers レジストリ値も定義する必要があります。  
  
DominoHubServers レジストリ値の作成方法について詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

## Domino メールボックスアーカイブ用のメールボックスポリシーの設定

Domino メールボックスポリシーは Enterprise Vault で対象の Domino サーバーメールボックスをアーカイブする方法を定義します。異なるメールボックスのグループを異なるポリシー設定を使ってアーカイブする場合は、複数のポリシーを作成できます。必要に応じて、プロビジョニンググループごとにカスタムメールボックスポリシーを作成できます。

デフォルトの Domino メールボックスポリシーは、設定ウィザードによって管理コンソールで作成されます。

### デフォルトの Domino メールボックスポリシーのプロパティを表示、修正する方法

- 1 Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]、[Domino]、[メールボックス] の順にクリックします。
- 3 右側のペインで [デフォルトの Lotus Domino メールボックスポリシー] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。必要に応じて、このポリシーのプロパティを変更したり、新しいポリシーを作成したりすることもできます。

### 新しい Domino メールボックスポリシーを作成する方法

- 1 管理コンソールで、Enterprise Vault サイトを展開し、[ポリシー]、[Domino]、[メールボックス] の順にクリックします。
- 2 [メールボックス] コンテナを右クリックし、[新規作成]、[ポリシー] の順に選択して、新しいポリシーウィザードを起動します。
- 3 新しいポリシーが右側のペインに表示されます。
- 4 ポリシーのプロパティを調整するには、ポリシーを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

## [全般]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

表 2-1 に、[全般]タブの設定の一覧を示します。これらの設定で、ポリシーの名前と説明を入力します。

表 2-1 Domino メールボックスポリシーの[全般]タブの設定

| 設定 | 説明                       | デフォルト値 |
|----|--------------------------|--------|
| 名前 | ポリシーの名前。                 | なし。    |
| 説明 | ポリシーの任意の説明。必要に応じて変更できます。 | なし。    |

## [アーカイブルール]タブ(Domino メールボックスアーカイブ)

表 2-2 に、[アーカイブルール]タブの設定を一覧表示します。これらの設定を使ってアーカイブ戦略を制御します。

表 2-2 Domino メールボックスポリシーの[アーカイブルール]タブの設定

| 設定                     | 説明   | デフォルト値                      |
|------------------------|--|-----------------------------|
| 新しいアイテム                | アイテムのアーカイブが可能な最小期限   | 2 週間。                       |
| 大きいアイテム                | 小さいアイテムの前に大きいアイテムをアーカイブするかどうかを設定します。設定する場合は優先する最小サイズのアイテムを指定します。                           | 選択されていません。                  |
| アーカイブ戦略                | 残りのアイテムをアーカイブする戦略。アイテムが修正されてからの期間で判断されます。  | 6 カ月間修正しなかったアイテムがアーカイブされます。 |
| 添付ファイル付きのメッセージのみをアーカイブ | 他のすべてのアーカイブ基準が満たされているとして、添付ファイルがある場合にのみアイテムをアーカイブします。<br><br>これは、添付ファイルのみをアーカイブするのとは異なります。 | 選択されていません。                  |

| 設定                | 説明  | デフォルト値     |
|-------------------|---|------------|
| 暗号化されたメッセージをアーカイブ | 暗号化されたメッセージをアーカイブします。<br><br>Enterprise Vault は暗号化メッセージをインデックス付けできません。これは、アーカイブ済みの暗号化メッセージの本文を表示できないので検索するときに本文のテキストを見つけられないか、または表示できないことを意味します。ただし、ショートカットから取り込んだり復元した暗号化メッセージは通常どおりに表示できます。 | 選択されていません。 |

## [アーカイブ処理]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

表 2-3 で、[アーカイブ処理]タブの設定について説明します。この設定を使って、メールボックスのアイテムを削除してショートカットを作成するか、未読アイテムをアーカイブするかどうかを設定します。

表 2-3 Domino メールボックスポリシーの[アーカイブ処理]タブの設定

| 設定                              | 説明                                       | デフォルト値     |
|---------------------------------|--|------------|
| アーカイブ後、元のアイテムを削除する              | アーカイブした後に元のアイテムはメールボックスから削除されます。         | 選択されています。  |
| アーカイブ後、アーカイブ済みアイテムのショートカットを作成する | アーカイブした後にメールボックス内のアイテムはショートカットに置き換えられます。 | 選択されています。  |
| 未読アイテムをアーカイブする                  | 未読であっても、メールボックスのアイテムをアーカイブします。           | 選択されていません。 |

## [ショートカットの内容]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

表 2-4 で、[ショートカットの内容]タブの設定について説明します。これらの設定は、ショートカットに含める内容を設定する場合に使います。

Enterprise Vault では、アーカイブされたカレンダーアイテムまたは To Do アイテムのショートカットは作成されないことに注意してください。これらのアイテムはそのまま保管されますが、カレンダーの添付ファイルを削除するようにメールボックスアーカイブポリシーを設定することができます。

p.25 の「[詳細]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)」を参照してください。

表 2-4 Domino メールボックスポリシーの[ショートカットの内容]タブの設定

| 設定        | 説明  | デフォルト値                             |
|-----------|---|------------------------------------|
| 受信者情報を含める | ショートカットに受信者情報(宛先と CC の詳細)を保存するかどうかを設定します。<br><br>通常、ショートカットには差出人と件名の情報が含まれます。   | ショートカットに受信者情報を含めます。                |
| ショートカット本文 | ショートカットに保存するメッセージ本文の量。設定値に関係なく、メッセージ全体(添付ファイルを含む)をアーカイブに保存します。<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ なし。メッセージテキストはショートカットに保存されません。</li> <li>■ メッセージ本文を使用。ショートカットにメッセージ本文のすべてのテキストを含めますが、添付ファイルは含めません。</li> <li>■ カスタマイズ。ショートカットに含めるテキストとリンクの量を選択します。</li> </ul> <p>p.26 の「<a href="#">Domino メールボックスアーカイブのためのカスタマイズされたショートカットの使用</a>」を参照してください。</p> | メッセージ本文の最初の 1000 文字をショートカットに保存します。 |

カスタマイズしたショートカットを設定する場合は、LotusShortcutText.txt ファイルが必要です。このファイルは、無題の添付ファイルの標準ショートカットを処理する場合にも使うことができます。

p.26 の「[Domino メールボックスアーカイブのためのカスタマイズされたショートカットの使用](#)」を参照してください。

## [フォーム]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

この一覧には、ポリシーが適用されるときにアーカイブされるアイテムの種類が表示されます。

必要に応じて、Domino フォームのチェックボックスにチェックマークを付けたり、はずしたりします。

利用可能なフォームの一覧を編集する必要がある場合は、[ディレクトリプロパティ]の [Domino フォーム] タブに移動します。

[ショートカットの削除]タブ(Domino メールボックスアーカイブ)

[ショートカットの削除]では次の操作が行われます。

- このページで指定した日数を経過したショートカットを削除します。Enterprise Vault はショートカットの経過時間を判断するために更新日かアーカイブされた日付を使います。[サイトプロパティ]の[ストレージの有効期限]タブでどの日付を使うかを指定できます。
- 孤立したショートカットを削除します。これらはもはや対応するアーカイブ済みアイテムがないショートカットです。通常ユーザーかストレージの有効期限によってアーカイブ済みアイテムは削除されています。
- 保持期間が経過したショートカットを削除します。ストレージの有効期限によって対応するアーカイブ済みアイテムが削除されることがあります。アーカイブ済みアイテムを削除しないでショートカットを削除することが可能です。

Domino メールボックスアーカイブタスクはショートカット削除を実行します。[今すぐ実行]を使ってタスクを実行する場合、ショートカット処理を含む実行モードを選択できます。

表 2-5 に、利用可能な設定を示します。

表 2-5                      ショートカットの削除の設定

| 設定         | 説明  | デフォルト値     |
|------------|---|------------|
| ショートカットの削除 | 指定した日数を経過したショートカットを Enterprise Vault が削除するには、このオプションを選択します。このオプションは対応するアーカイブ済みアイテムには影響しません。ユーザーは引き続きアーカイブ済みアイテムを検索できます。<br><br>たとえば、12 カ月より古いすべてのショートカットを削除するように選択した場合でも、アーカイブ済みアイテムは数年間保持できます。 | 選択されていません。 |



| 設定             | 説明  | デフォルト値     |
|----------------|---|------------|
| 孤立したショートカットを削除 | <p>対応するアーカイブ済みアイテムが削除された場合に、Enterprise Vault でメールボックスのショートカットを削除するには、このオプションを選択します。</p> <p>元のメッセージからのテキストがショートカットに含まれる場合、アーカイブ済みアイテムが削除されてもこれらのショートカットが役立つ場合があります。ただし、大量のショートカットを削除すると、メールファイルの記憶容量を解放できます。</p> | 選択されていません。 |

## [詳細]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

表 2-6 で、[詳細]タブの設定について簡単に説明します。これらの設定でアーカイブ動作を詳細に変更できます。各詳細設定については、『管理者ガイド』を参照してください。

表 2-6 Domino メールボックスポリシーの [詳細] タブの設定

| 設定          | 説明  |
|-------------|---|
| 一覧表示する設定の種類 | <p>一覧に表示される設定のカテゴリを制御します。存在するカテゴリは 1 つのみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [アーカイブ全般]。アーカイブ動作を制御する設定。たとえば、アーカイブする前にカレンダーアイテムや To Do アイテムから添付ファイルを削除するようにアーカイブタスクを設定できます。</li> </ul> <p>各設定については、『管理者ガイド』を参照してください。</p> |
| すべてをリセット    | このオプションを選択すると、一覧内のすべての設定がデフォルト値に戻ります。すべての値をリセットするかどうかを尋ねる確認メッセージが表示されます。  |
| 修正          | このオプションを使うと、選択した設定の値を修正できます。また、設定をダブルクリックして修正することもできます。   |
| 説明          | 各設定が制御する内容についての簡潔な説明。   |

## [対象]タブ (Domino メールボックスアーカイブ)

後で、プロビジョニンググループを作成してアーカイブ対象としてメールボックスを追加する場合、必要な Domino メールボックスポリシーを各グループに割り当てます。これにより、関連付けされたプロビジョニンググループがポリシーの [対象] ページに表示されます。

## Domino メールボックスアーカイブのためのカスタマイズされたショートカットの使用

カスタムショートカットを使って、ショートカットに表示される情報を変更できます。

新しい Enterprise Vault インストール環境では、デフォルトのショートカットには、次の情報が保存されます。

- 差出人と件名情報
- 受信者情報: 宛先、CC、BCC
- すべてのアーカイブ済みアイテムへのリンクを含むバナー
- メッセージ本文の最初の 1000 文字
- 添付ファイルの一覧または添付ファイルへのリンクは保存されません

ショートカットの設定を変更して、必要な情報を保存できます。

設定の変更は、今後生成されるショートカットにだけ適用され、すでに作成されているショートカットには適用されません。

カスタムショートカットの内容の詳細は、Enterprise Vault フォルダ (たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にある LotusShortcutText.txt ファイルに保存されます。新規インストールでは、このファイルの英語版が Enterprise Vault フォルダに配置されます。このファイルの言語バージョンは、言語フォルダの Languages\ShortcutText にあります。

### カスタムショートカットの内容を定義する方法

- 1 LotusShortcutText.txt ファイルの必要な言語バージョン (Languages\ShortcutText の下) を検索します。
- 2 Windows のメモ帳を使って LotusShortcutText.txt を開き、ファイルに必要な変更を行います。  
  
p.27 の「[Domino メールボックスアーカイブ用の LotusShortcutText.txt のレイアウト](#)」を参照してください。
- 3 ファイルを Unicode ファイルとして保存します。
- 4 Enterprise Vault プログラムフォルダ (たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にファイルをコピーします。
- 5 Enterprise Vault サイトに配置されている他のすべての Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダにファイルをコピーします。
- 6 Domino メールボックスタスクがすでに作成され、実行されている場合は、変更を適用するために再起動する必要があります。

## 変更した内容を新しいショートカットに適用する方法

- 1 管理コンソールを起動し、[Domino メールボックスポリシー]プロパティの[ショートカットの内容]タブに移動します。
- 2 [ショートカット本文の内容]の横にあるフィールドで、[カスタマイズ]を選択し、必要なオプションを指定します。詳しくは[ショートカット]タブの[ヘルプ]をクリックしてください。

## Domino メールボックスアーカイブ用の LotusShortcutText.txt のレイアウト

LotusShortcutText.txt は、標準的な Windows の .ini ファイルのレイアウトになっています。

```
[Section]
Item1="value1"
Item2="value2"
```

ファイルに含まれる値は、すべて変更できます。各値は、引用符で囲んでください。

LotusShortcutText.txt 内のセクションは次のとおりです。

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>[Archived text]</b>    | <p>このセクションのエントリは、ショートカットの最上部のバナーに表示されます。</p> <p>ショートカットに使われるエントリは、アーカイブ済みアイテムの Domino フォームまたはフォームエイリアスのエントリです。</p> <p>このセクションのすべての値には、閉じる引用符の前に空白があります。この空白により、テキストとリンクテキストが区切られます。</p>  |
| <b>[Link text]</b>        | <p>このセクションのエントリは、アーカイブ済みアイテムへのリンクが表示されるバナーのテキストを指定します。</p>   |
| <b>[Attachment table]</b> | <p>このセクションの <b>Title</b> エントリは、添付ファイルの一覧のすぐ上に表示されるテキストを指定します。</p> <p><b>OLERemoved</b> エントリを使って、組み込み <b>OLE</b> オブジェクトが削除された場合にショートカットに表示する文字列を定義できます。デフォルトエントリでは、文字列のプレースホルダ <b>{0}</b> は削除された <b>OLE</b> オブジェクトの数に置き換えられます。<b>OLE</b> オブジェクトの合計サイズも表示されます。</p> |

## Domino メールボックスアーカイブの保持フォルダ

保持フォルダ機能を使うと、単一のフォルダまたはフォルダの階層をユーザーのメールファイルに自動的に作成できます。Enterprise Vault は割り当てられたポリシーに従って、これらのフォルダをアーカイブします。ユーザーが保持フォルダ階層内のフォルダを削除した場合、Enterprise Vault はそれらを自動的に再作成します。

保持フォルダとその保持カテゴリを保持計画に指定します。必要な数の保持計画を作成することができます。

---

**注意:** これらの保持計画は、Enterprise Vault 12 で導入された Enterprise Vault 保持計画機能を使って作成できる保持計画と異なります。この機能を使うと、分類ポリシーなどの複数の他の設定に保持カテゴリに関連付ける保持計画を設定し、それらすべてを 1 つ以上のアーカイブに適用することができます。このセクションに記載された保持計画では、動作が異なります。

---

Enterprise Vault 保持計画機能について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

---

Enterprise Vault プロビジョニンググループを使って保持計画をメールファイルに適用します。したがって、各ユーザーは、適切な保持カテゴリを含む異なる保持フォルダを持つことができます。また、特定の計画が定義されていないすべてのユーザーに対して Enterprise Vault によって適用されるデフォルトの保持計画を定義することもできます。

ユーザーが保持フォルダを削除すると、フォルダ内に保持計画の設定が維持されなくなります。今後アーカイブされるアイテムは、新しい場所のフォルダに適用されるポリシーに従ってアーカイブされます。すでにフォルダからアーカイブされているアイテムに影響はなく、元の保持カテゴリが維持されます。

ユーザーが保持フォルダ内にサブフォルダを作成した場合、このサブフォルダは保持フォルダの設定を継承します。たとえば、「Projects」フォルダを作成すると、ユーザーは各プロジェクトのサブフォルダを作成できるようになります。サブフォルダは親の「Projects」フォルダ内の保持フォルダの設定を自動的に使うようになります。

保持計画を定義する XML ファイルを作成します。次に、EVDominoRetentionPlans コマンドラインツールを使って XML ファイルを Enterprise Vault にアップロードします。

Domino の保持計画を作成する方法について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドの「Domino の保持計画ツール」を参照してください。

## Domino メールボックスアーカイブのデスクトップポリシーの設定

Domino デスクトップポリシーによって、Enterprise Vault Notes クライアントを使うときのエンドユーザーの使用範囲を定義します。この設定には、クライアントが提供する

Enterprise Vault の機能を決定する設定が含まれています。異なるプロビジョニンググループで異なるポリシー設定を使用する場合は、複数のポリシーを作成できます。必要に応じて、プロビジョニンググループごとにカスタムデスクトップポリシーを作成できます。

デスクトップポリシーの設定には、次のようなオプションがあります。

- [検索]、[格納]、[復元]、[削除]などの Enterprise Vault メニューオプションを表示または非表示にします。
- ボルトキャッシュの可用性や最大サイズを制御します。
- ボルトキャッシュの詳細設定を制御します。

デフォルトの **Domino** デスクトップポリシーは、設定ウィザードによって管理コンソールで作成されます。

**Domino** メールボックスアーカイブを設定した後にデスクトップポリシーを修正した場合は、**Domino** プロビジョニングタスクプロパティの[同期]タブのボタンを使って、メールボックスを同期する必要があります。

デフォルトの **Domino** デスクトップポリシーのプロパティを表示、修正する方法

- 1 Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー] > [Domino] > [デスクトップ] の順に選択します。
- 3 右側のペインで[デフォルトの Lotus Domino デスクトップポリシー]を右クリックして、[プロパティ]を選択します。必要に応じて、このポリシーのプロパティを変更したり、新しいポリシーを作成したりすることもできます。

新しい **Domino** デスクトップポリシーを作成する方法

- 1 管理コンソールで Enterprise Vault サイトを展開し、[ポリシー] > [Domino] > [デスクトップ]の順にクリックします。
- 2 [デスクトップ]コンテナを右クリックし、[新規作成] > [ポリシー]の順に選択して、新しいポリシーウィザードを起動します。
- 3 新しいポリシーが右側のペインに表示されます。
- 4 ポリシーのプロパティを調整するには、ポリシーを右クリックし、[プロパティ]を選択します。

[全般]タブ (Domino デスクトップポリシー)

表 2-7 に、[全般]タブの設定の一覧を示します。これらの設定で、ポリシーの名前と説明を入力します。

表 2-7 Domino デスクトップポリシーの[全般]タブ設定

| 設定 | 説明                          | デフォルト値 |
|----|-----------------------------|--------|
| 名前 | ポリシーの名前。                    | なし。    |
| 説明 | 必要に応じて何回でも変更できる、ポリシーの任意の説明。 | なし。    |

[オプション]タブ (Domino デスクトップポリシー)

[オプション]タブの設定を使うと、**Domino** クライアントで Enterprise Vault メニューオプションを使用できるかどうかを制御できます。

[有効化]チェックボックスは、機能がメニューオプションとして表示されるかどうかを制御します。

表 2-8 で、このタブの設定について説明します。これらの設定の影響について詳しくは、デスクトップポリシープロパティのヘルプを参照してください。

表 2-8 Domino デスクトップポリシーの[オプション]タブの設定

| 設定       | 説明   | デフォルト値 |
|----------|--|--------|
| 検索       | [Enterprise Vault Search]メニューオプションを表示または非表示にすることにより、クライアントユーザーがアーカイブ済みアイテムを検索できるかどうかを制御します。  | 有効。    |
| 格納とキャンセル | クライアントユーザーが手動アーカイブを実行したり、保留中の操作をキャンセルしたりできるかどうかを制御します。[Enterprise Vault によるアーカイブ]および[Enterprise Vault によるキャンセル]メニューオプションを表示または非表示にします。 | 有効。    |
| 復元       | [Enterprise Vault による復元]メニューオプションを表示または非表示にすることにより、クライアントユーザーがアイテムを復元できるかどうかを制御します。  | 有効。    |
| 削除       | [Enterprise Vault による削除]メニューオプションを表示または非表示にすることにより、クライアントユーザーがアーカイブ済みアイテムとそれに対応するショートカットを削除できるかどうかを制御します。                              | 有効。    |

## [ボルトキャッシュ]タブ (Domino デスクトップポリシー)

表 2-9 で、[ボルトキャッシュ]タブの設定について説明します。これらの設定によって、ボルトキャッシュの可用性、最大サイズ、利用可能な機能を制御します。

表 2-9 Domino デスクトップポリシーの[ボルトキャッシュ]タブの設定

| 設定                       | 説明   | デフォルト値  |
|--------------------------|--|---|
| ボルトキャッシュをユーザーに対して利用可能にする | <p>この Enterprise Vault サイトでボルトキャッシュを利用可能にするには、このオプションを選択します。この設定をクリアすると、新しいボルトキャッシュは作成されません。ユーザーは既存のボルトキャッシュにアクセスできますが、アイテムは追加されません。</p> <p>ボルトキャッシュを利用可能にした場合は、追加設定によって次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オフラインユーザー用のボルトキャッシュを自動的に有効化します。</li> <li>■ [ツール]ボタン上と、[アクション]の[ツール]メニュー上の[ボルトキャッシュを有効化]オプションを表示して、ユーザーがボルトキャッシュを有効化できるようにします。</li> </ul> | <p>ボルトキャッシュは使用できません。新しいボルトキャッシュは作成されません。ユーザーは既存のボルトキャッシュにアクセスできますが、アイテムは追加されません。</p> <p>ボルトキャッシュを利用可能にした場合、デフォルトでボルトキャッシュを自動的に有効化します。</p> |
| ボルトキャッシュの限度サイズ           | <p>これらの設定を使って、未使用ディスク領域の割合 (動的に計算)、または MB 単位のサイズとして、ボルトキャッシュのサイズを制限します。</p> <p>ボルトキャッシュが指定されたサイズに達すると、最も古いアイテムが自動的に削除され、新しいアイテムが入る余地を確保します。領域は必要になるまで割り当てられません。</p>  | 未使用ディスク領域の 10%。   |

## [詳細]タブ (Domino デスクトップポリシー)

表 2-10 で、[詳細]タブの設定について簡潔に説明します。このタブではポリシーの詳細設定が行えます。各詳細設定について詳しくは『管理者ガイド』に説明されています。

表 2-10 Domino デスクトップポリシーの[詳細]タブの設定

| 設定          | 説明  |
|-------------|---|
| 一覧表示する設定の種類 | 一覧に表示される設定のカテゴリを制御します。カテゴリは次の 1 つのみです。<br>■ ボルトキャッシュ<br>各詳細設定について詳しくは『管理者ガイド』に説明されています。 |
| すべてをリセット    | このオプションを選択すると、一覧内のすべての設定がデフォルト値に戻ります。すべての値をリセットするかどうかを尋ねる確認メッセージが表示されます。                |
| 修正          | このオプションを使うと、選択した設定の値を修正できます。また、設定をダブルクリックして修正することもできます。                                 |
| 説明          | 各設定が制御する内容についての簡潔な説明。   |

## [対象]タブ (Domino デスクトップポリシー)

後で、プロビジョニンググループを作成してアーカイブ対象としてメールボックスを追加する場合、必要な Domino デスクトップポリシーを各グループに割り当てます。これにより、関連付けされたプロビジョニンググループがポリシーの[対象]ページに表示されます。

## Domino プロビジョニングタスクの作成

新規 Domino サーバーウィザードで、Enterprise Vault に対して Domino プロビジョニングタスクを作成するように指定しなかった場合は、このセクションで説明する手順に従ってタスクを手動で作成できます。各ドメインに対して個別のプロビジョニングタスクが必要です。

### Domino プロビジョニングタスクを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインのサイト階層を展開し、[Enterprise Vault サーバー] コンテナを表示します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー] コンテナを展開します。
- 3 Domino プロビジョニングタスクを追加するサーバーの名前を展開します。
- 4 [タスク] を右クリックし、ショートカットメニューを [新規作成]、[Domino プロビジョニングタスク] の順にクリックします。  
新規 Domino プロビジョニングタスク ウィザードが起動します。
- 5 ウィザードに従って操作します。



## Domino メールボックスタスクの作成

新規 Domino サーバーウィザードで、Enterprise Vault に対して Domino メールボックスタスクを作成するように指定しなかった場合は、このセクションで説明する手順に従ってタスクを手動で作成できます。

作成できる Domino メールボックスタスクは、各 Enterprise Vault サーバーに 1 つのみです。1 つのタスクで、異なる Domino ドメインにある複数の Domino サーバーを処理できます。

1 つの Domino サーバーは、別々の Enterprise Vault サーバーの複数の Domino メールボックスタスクで処理できます。その場合、Domino メールボックスアーカイブは、複数のボルトストアに配布されます。

### Domino メールボックスタスクを追加する方法

- 1 管理コンソールの左側のペインのサイト階層を展開し、[Enterprise Vault サーバー] コンテナを表示します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー] コンテナを展開します。
- 3 Domino メールボックスタスクを追加するサーバーの名前を展開します。
- 4 [タスク] を右クリックし、ショートカットメニューを[新規作成]、[Domino メールボックスアーカイブタスク]の順にクリックします。

新規 Domino メールボックスタスクウィザードが起動します。

- 5 ウィザードに従って操作します。

## Enterprise Vault サイトのデフォルト設定のレビュー

Enterprise Vault サイトのプロパティに設定されているデフォルト設定を確認します。

サイトのプロパティには次の設定が含まれます。これらの一部は、下位レベルで上書きできます。たとえば、タスクプロパティでスケジュールを設定することによって、特定のタスクのサイトアーカイブスケジュールを上書きできます。

表 2-11 サイトプロパティ

| タブ | 設定   |
|----|--|
| 全般 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボルトサイトエイリアスと説明。</li> <li>■ Web Access アプリケーションで使うプロトコルとポート。</li> <li>■ Web Access アプリケーションのユーザーのシステムメッセージ (必要な場合)。</li> <li>■ PST 保留領域詳細のサイトプロパティ設定は Exchange Server アーカイブにのみ適用されます。</li> <li>■ 管理者用のメモ (必要な場合)。</li> </ul> |

| タブ         | 設定   |
|------------|--|
| アーカイブの設定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルトの保持カテゴリ。</li> <li>■ ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性がある処理を実行したときに更新を許可するかどうか。</li> <li>■ アーカイブ内のアイテムの削除をユーザーに許可するかどうか。</li> <li>■ ユーザーが削除したアイテムを回復できるかどうか。</li> <li>■ 削除済みアイテムが回復に利用可能である期間。</li> </ul> |
| ストレージの有効期限 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ストレージの有効期限機能を実行するためのスケジュール。この設定に従って、割り当てられた保持期間よりも古いすべてのアイテムがアーカイブから削除されます。</li> <li>■ 有効期限の計算をアイテムの変更日、またはアーカイブ日から開始するか設定。</li> </ul>  |
| サイトスケジュール  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動バックグラウンドアーカイブを実行するためのスケジュール。</li> </ul>   |
| アーカイブの使用限度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必要に応じて、アーカイブサイズの限度を設定できます。</li> </ul>   |
| インデックス     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インデックスレベル: [簡略]または[完全]。</li> <li>■ Disclaimer など、インデックス付けすべきではない電子メールの内容。</li> <li>■ インデックスサブタスクが削除されるまでの保留期間。</li> </ul>   |
| 詳細         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault サイト内での Enterprise Vault のインデックス付け動作の調整に使える詳細設定。<br/><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、[インデックス]設定は変更しないでください。</li> </ul>  |
| 監視         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault を監視するためのパフォーマンスカウンタ。</li> </ul>  |

### Enterprise Vault サイトのデフォルト設定をレビューする方法

- 1 管理コンソールで、Enterprise Vault サイトが表示されるまで、左側のペインの内容を展開します。
- 2 Enterprise Vault サイトを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。  
  
代わりに、サイトを選択し、ツールバーの[サイトプロパティを確認]ボタンをクリックすることもできます。
- 3 詳しい情報を参照するには、[サイトプロパティ]タブの[ヘルプ] をクリックします。

## Domino メールボックスアーカイブの設定時のプロビジョニンググループの追加

プロビジョニンググループは次のすべてに Domino メールボックスポリシーと Domino デスクトップポリシーを適用することを可能にします。

- 個々のユーザー
- Domino メールボックスユーザーのグループ
- メールインデータベース

会社の階層全体で構成される 1 つのプロビジョニンググループを設定することも、複数のプロビジョニンググループを設定 (ユーザーのグループごとに異なるポリシーを割り当てる場合) することもできます。

次の任意の種類の対象を選択してプロビジョニンググループと関連付けできます。

- ディレクトリグループ
- メールボックス
- メールインデータベース
- 組織単位
- 社内階層

---

**メモ:** メールボックスからアイテムをアーカイブするには、メールボックスをプロビジョニンググループに追加し、プロビジョニンググループのメールボックスを Domino プロビジョニングタスクで設定し、有効にする必要があります。

---

---

**メモ:** ボルトキャッシュはメールインデータベースでは利用可能ではありません。Enterprise Vault はメールインデータベースの場合にはボルトキャッシュのポリシー設定を無視します。

---

多数のメールボックスが存在する場合、プロビジョニンググループに対してメールボックスの自動有効化が設定されていないと、有効化するために Enterprise Vault でメールボックスが利用可能になるのに時間がかかる可能性があります。待てない場合は、強制的に更新できます。強制的に更新するには、Domino サーバーコンソールで次のコマンドを実行します。

```
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($Users)"
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($ServerConfig)"
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($VIMGroups)"
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($VIMPeople)"
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($PeopleGroupsCorpHier)"
LOAD UPDALL NAMES.NSF -T "($Certifiers)"
```

## プロビジョニンググループを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[対象]を展開します。
- 2 追加した Domino ドメインを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成]、[プロビジョニンググループ]の順にクリックします。

新規プロビジョニンググループウィザードが起動します。

- 4 ウィザードの手順に従ってプロビジョニンググループを追加します。

次の情報が必要です。

- アーカイブする Domino サーバーを含むドメイン。
- 適用する Domino デスクトップポリシー。
- 適用する Domino メールボックスポリシー。
- メールボックスからアーカイブする場合に適用するデフォルトの保持カテゴリと保持計画。必要に応じて、ウィザードを使って新しい保持カテゴリや保持計画を作成できます。

- Enterprise Vault によってメールボックスアーカイブが作成されるデフォルトのボルトストア。プロビジョニンググループ内のメールボックスのアーカイブが自動的に有効にされている場合、その後プロビジョニンググループに追加されるメールボックスには、このボルトストアが使われます。

プロビジョニンググループのボルトストアが明示的に設定されていない場合、Domino サーバープロパティからデフォルトのボルトストア設定が継承されます。

- Domino プロビジョニングタスクで新しいメールボックスのアーカイブを自動的に有効にするかどうか。

新しいメールボックスとは、Enterprise Vault で新しいメールボックスです。

Enterprise Vault を初めて使うときに、すべてのメールボックスが新しいメールボックスになります。自動有効化を設定すると、Domino プロビジョニングタスクが次に実行されるときに、既存のすべてのメールボックスが有効になります。その後には作成されるすべてのメールボックスも有効になり、関連付けされたアーカイブが自動的に作成されます。

自動有効化が選択されていない場合は、メールボックスの有効化ウィザードを使ってメールボックスのアーカイブを有効にします。メールボックスの無効化ウィザードを使うと、個々のメールボックスを明示的に無効にできます。これにより、そのメールボックスは自動的に有効にならず、ユーザーがメールボックスの有効化を選択するまで、メールボックスはアーカイブされません。

p.52 の「[Domino メールボックスアーカイブのインストール後にメールボックスのアーカイブを有効化](#)」を参照してください。

## Domino メールボックスアーカイブの設定時にプロビジョニンググループを順序付けする

複数のプロビジョニンググループを作成する場合は、リストの順番が重要です。グループはリストの上から下に順番に処理されます。複数のプロビジョニンググループに表示されるメールボックスでは、そのメールボックスが表示されている先頭のグループの設定が使われます。

最も限定的なグループを一覧の一番上にして、最も限定されないグループを一覧の一番下にします。

プロビジョニンググループの順序を並べ替えるには

- 1 管理コンソールツリーで、[プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックして[プロパティ]を選択します。
- 2 グループを並べ替えるには[上に移動]ボタンと[下に移動]ボタンを使います。

# Notes と DWA クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能のインストール

このセクションでは、Notes および DWA ユーザーが使用できる Enterprise Vault クライアント機能と、要求されている機能を提供するために必要なメールファイル設計テンプレートのインストール方法について説明します。

## Notes および DWA クライアント用の Enterprise Vault について

Notes および DWA 用の Enterprise Vault 機能は、メールファイルの設計変更によって実現されています。これらの設計の変更は改訂されたメールテンプレートを使って適用されます。

Domino メールファイルでは、次の Enterprise Vault クライアント機能を設定することができます。

- Notes 用の Enterprise Vault 拡張機能  
ユーザーが Enterprise Vault クライアント機能を使用するには、すべての対象 Domino メールサーバーに Notes 用の Enterprise Vault 拡張機能をインストールする必要があります。
- DWA 用 Enterprise Vault 拡張機能。  
DWA クライアントで完全な Enterprise Vault クライアント機能をユーザーが利用できるようにする場合、DWA 用 Enterprise Vault 拡張機能をすべての対象 DWA サーバーにインストールする必要があります。

## Notes 用の Enterprise Vault 拡張機能

Enterprise Vault Notes 拡張機能には次の機能があります。

- すべてのフォルダおよびビューは、アイテムのアーカイブ完了状態を示す新しい列が追加されて更新されています。
- アーカイブ済みアイテムをダブルクリックすると、その内容が取得されます。ただし、関連付けされた **Enterprise Vault** メールボックスポリシーが、この処理を許可するように設定されている必要があります。
- アーカイブ済みアイテムに添付ファイルがある場合、すべてのビューとフォルダにクリップのアイコンが表示されます。

次のオプションが **Notes** の[詳細]アクションバーに追加されます。

- **Enterprise Vault** 検索。利用可能なアーカイブ内のアイテムを検索します。
- **Enterprise Vault** によるアーカイブ。選択されたアイテムに、次のアーカイブ実行中にアーカイブするためのマークを付けます。
- **Enterprise Vault** キャンセル。アイテムのアーカイブプロセス中に **Enterprise Vault** を停止します。
- **Enterprise Vault** 復元。選択したアイテムをメールファイルに復元します。
- **Enterprise Vault** 削除。選択したアイテムの削除が許可されている場合は、削除します。ショートカットのみを削除するのか、それともショートカットとアーカイブ済みアイテムを両方をも削除するのかを選択するよう求めるメッセージが表示されます。
- **Enterprise Vault** ヘルプ。画面のヘルプを表示します。
- **Enterprise Vault** について。バージョン情報およびテクニカルサポート情報を表示します。

それぞれの処理は 1 つまたは複数のアイテムに実行できます。

ショートカットに応答するかまたはショートカットを転送する場合、指定すればアーカイブ済みアイテムの内容が含まれます。

[メモにコピー]、[カレンダーアイテム]または[タスク]アイテムをショートカット文書から使う場合、ショートカットではなくアーカイブされた内容がコピーされます。

## Enterprise Vault DWA クライアント機能

**Enterprise Vault DWA** クライアントは **Notes** 用の **Enterprise Vault** 拡張機能と似た機能を提供します。

署名済みまたは暗号化されたアーカイブ済み **MIME** アイテムをユーザーが開けるように、**Enterprise Vault Domino Gateway** への **SSL** 接続が必要です。

そのような接続がない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Unable to complete the current operation.
SSL is required for secure mail,
```

but is not enabled on Domino Server.  
Please notify your administrator.

## Notes と DWA クライアント用の Enterprise Vault クライアント拡張機能のインストール

完全な Enterprise Vault 機能を Notes または DWA クライアントで利用できるようにする場合、Enterprise Vault クライアント拡張機能をそれぞれの対象 Domino メールサーバーと DWA サーバーにインストールする必要があります。

クライアント拡張機能は、Notes アプリケーションの Veritas Enterprise Vault *version - Domino* インストーラ (Notes データベースのファイル名は EVinstall.nsf) を使ってインストールします。Enterprise Vault インストール中、Enterprise Vault Domino Gateway の Domino サーバーの Domino データディレクトリにこのデータベースがインストールされます。

Enterprise Vault Domino Gateway とメールサーバーの両方とも、言語パックがインストールされる場合には、そのサポートに必要な変更が EVInstall.nsf によってインストールされます。

## EVInstall.nsf を使って Enterprise Vault Domino Gateway を設定するアカウントの設定

Enterprise Vault Domino Gateway で EVInstall.nsf を実行するアカウントには、このセクションで説明するように、多くのファイルでの権限が必要です。Domino のバージョンによっては、すべてのファイルがあるとは限りません。

Enterprise Vault Domino Gateway で EVInstall.nsf を実行するには、そのアカウントに Enterprise Vault Domino Gateway についての次の権限が必要です。

- サーバー文書の [セキュリティ] タブでの次の権限
  - エージェントを呼び出すユーザーとして実行するエージェントを署名。この設定が空白の場合は、デフォルトでこの権限が付与されています。設定を空白にしない場合は、アカウントの名前を追加します。
  - データベースとテンプレートの作成。この設定が空白の場合は、デフォルトでこの権限が付与されています。設定を空白にしない場合は、アカウントの名前を追加します。([フルアクセスアドミニストレーション] オプションを選択した場合は不要)
  - マスターテンプレートの作成 ([フルアクセスアドミニストレーション] オプションを選択した場合は不要)
- 次のいずれかです。
  - Enterprise Vault Domino Gateway の管理者 (フルアクセス)
  - 次のファイルへの管理者アクセス権

- Mail9.ntf
- Mail85.ntf
- Mail8.ntf
- EVAttach.ntf
- EV¥EVDomino.nsf
- EVinstall.nsf
- Domino Web Access フォームファイルを変更するオプションを選択する場合には、次のファイルへの管理者アクセス権も必要です。
  - Forms9.nsf
  - Forms85.nsf
  - Forms8.nsf

EVinstall.nsf によって、次のアクセス制御リスト (ACL) に LocalDomainAdmins グループが管理者アクセス権付きで自動的に追加されます。

- EVAttach.ntf
- EVOOffline.ntf
- EV¥EVDomino.nsf
- EVinstall.nsf

## EVinstall.nsf を使ってメールサーバーを設定するアカウントの設定

EVinstall.nsf を使ってメールサーバーを設定するアカウントには、このセクションで説明するように、多くのファイルでの権限が必要です。Domino のバージョンによっては、すべてのファイルがあるとは限りません。

EVinstall.nsf を使ってメールサーバーを設定するには、そのアカウントにメールサーバーについての次の権限が必要です。

- サーバー文書の[セキュリティ]タブで設定する次の権限
  - エージェントを呼び出すユーザーとして実行するエージェントを署名
  - マスターテンプレートの作成 ([フルアクセスアドミニストレーション]オプションを選択した場合は不要)
- 次のいずれかです。
  - メールサーバーの管理者 (フルアクセス)
  - 次のファイルへの管理者アクセス権
    - Mail9.ntf



- Mail85.ntf
- Mail8.ntf
- Domino Web Access フォームファイルを変更するオプションを選択する場合には、次のファイルへの管理者アクセス権も必要です。
  - Forms9.nsf
  - Forms85.nsf
  - Forms8.nsf

## Notes と DWA クライアントのセットアップ時に実行制御リスト権限を付与する

ユーザーが Enterprise Vault クライアントを使うときに実行セキュリティ警告を受け取らないように ECL 権限を付与する必要があります。

次のアカウントに権限を付与する必要があります。

- EVInstall.nsf を実行するために使うアカウント  
p.41 の「[EVInstall.nsf を実行するアカウントへの権限の付与](#)」を参照してください。
- Enterprise Vault Domino Gateway サーバーアカウント  
p.42 の「[Enterprise Vault Domino Gateway サーバーアカウントへの権限の付与](#)」を参照してください。
- Domino アーカイブユーザーアカウント (NSF 移行を実行する場合)  
p.42 の「[アーカイブユーザーアカウントへの権限の付与](#)」を参照してください。
- ボルトキャッシュを使う各ユーザーアカウント  
p.42 の「[Vault Cache のユーザーに権限を付与する](#)」を参照してください。

### EVInstall.nsf を実行するアカウントへの権限の付与

EVInstall.nsf を実行するアカウントには次の機能が必要です。

- データをエクスポートする機能
- 他のデータベースを修正する機能
- 他のデータベースを読み込む機能
- メールを送信する機能
- 現在のデータベースへのアクセス
- 環境変数へのアクセス
- 外部コードへのアクセス
- ファイルシステムへのアクセス

## Enterprise Vault Domino Gateway サーバーアカウントへの権限の付与

Enterprise Vault Domino Gateway サーバーアカウントには次の機能が必要です。

- 現在のデータベースへのアクセス

## アーカイブユーザーアカウントへの権限の付与

NSF 移行と保持フォルダでは、Domino アーカイブユーザーアカウントに次の機能が必要です。

- 現在のデータベースへのアクセス

## Vault Cache のユーザーに権限を付与する

次の ECL 権限を Vault Cache ユーザーに付与する必要があります。

- 現在のデータベースへのアクセス
- 環境変数へのアクセス
- 他のデータベースを読み込む機能
- 他のデータベースを修正する機能
- 外部コードへのアクセス

## Notes および DWA クライアント拡張機能のインストール

これで、このセクションで説明するように、Notes と DWA 拡張機能を Enterprise Vault と対象の Domino メールサーバーにインストールすることができます。

EVInstall.nsf を実行するには、Notes の正しいクライアントバージョンを使う必要があります。Notes クライアントのバージョンは、Enterprise Vault Domino Gateway と Domino メールサーバーにインストールされているバージョンと同じか、それより新しいものである必要があります。

Domino ソフトウェアのサポートされているバージョンと必要な Hotfix について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

---

**メモ:** フォームデータベースでレプリケーションが有効になっていると、EVInstall が行う変更は、すべての Domino メールサーバーにレプリケートされます。他のメールサーバーにレプリケートしないようにするには、EVInstall.nsf を実行する前に Forms8.nsf、Forms85.nsf、および Forms9.nsf データベースのレプリケーションを無効にします。

---

## EVInstall.nsf を実行して標準メールテンプレートを設定する方法

- 1 EVInstall.nsf を実行するユーザー ID で Notes にログインします。
- 2 Forms\*.nsf ファイルのバックアップコピーを作成します。
- 3 EVInstall.nsf を実行します。
- 4 Veritas Enterprise Vault *version* - Domino インストーラアプリケーション (EVInstall.nsf)を開きます。
- 5 アプリケーションのページで、Enterprise Vault Domino Gateway と対象の Domino メールサーバーを選択します。
- 6 ブラウザベースの Enterprise Vault 検索機能を使っている場合、または iNotes (DWA) が必要な場合は、[Domino Web Access フォームファイルの修正]を選択します。
- 7 [Veritas Enterprise Vault *version* データベース設計テンプレートのインストール]をクリックし、処理を開始します。  
このアプリケーションは Enterprise Vault テンプレートの作成に数分かかります。
- 8 更新が完了したら、ウィンドウ下部のペインにあるログの行をそれぞれダブルクリックし、エラーが報告されていないことを確認します。
- 9 テンプレートを以前にカスタマイズしている場合は、それらのテンプレートがまだ存在し、Enterprise Vault メールテンプレートで適切に機能することを確認します。
- 10 Domino 9.0 メールサーバーまたは Domino 9.0 Enterprise Vault Domino Gateway にインストールした場合には、次のエントリを notes.ini ファイルに追加します。

```
iNotes_WA_FormsFiles=iNotes/ev_Forms9.nsf
```

notes.ini を修正した後に HTTP サーバーを再起動します。

- 11 バージョンが異なる Domino Server がインストールされているメールサーバーも対象となる場合は、対象のメールサーバーすべてにテンプレートが配備されるまで、次の手順を実行します。
  - EVInstall.nsf を再度実行します。
  - アプリケーションページで、Enterprise Vault Domino Gateway の選択を解除します。
  - 対象の Domino メールサーバーを選択します。
  - iNotes/DWA が必要な場合は、[Domino Web Access フォームファイルの修正]を選択します。
  - [Veritas Enterprise Vault *version* データベース設計テンプレートのインストール]をクリックし、処理を開始します。

このアプリケーションで新しい Enterprise Vault テンプレートを作成するには数分かかります。

- Domino 9.0 メールサーバーにインストールした場合には、次のエントリを `notes.ini` ファイルに追加します。

```
iNotes_WA_FormsFiles=iNotes/ev_Forms9.nsf
```

`notes.ini` を修正した後に HTTP サーバーを再起動します。

- 12 必要に応じて、カスタマイズされたテンプレートに Enterprise Vault のカスタマイズを追加するために `EVInstall.nsf` を使うことができるようになりました。

p.44 の「[カスタマイズされたデータベースのテンプレートかメールインデータベースのテンプレートを修正するため EVInstall.nsf を実行する方法](#)」を参照してください。

カスタマイズされたデータベースのテンプレートかメールインデータベースのテンプレートを修正するため `EVInstall.nsf` を実行する方法

- 1 カスタマイズされたテンプレートを修正するために Enterprise Vault を実行する前に、標準のメールテンプレートを設定するために先に `EVInstall.nsf` を実行している必要があります。

p.43 の「[EVInstall.nsf を実行して標準メールテンプレートを設定する方法](#)」を参照してください。

- 2 `EVInstall.nsf` を実行するユーザー ID で Notes にログインします。
- 3 Veritas Enterprise Vault *version* - Domino インストーラアプリケーション (`EVInstall.nsf`)を開きます。
- 4 [Mail Template Customization]タブをクリックします。
- 5 [Domino mail server]リストでは、修正するテンプレートを備えているサーバーを選択します。
- 6 [Template file name]の隣に、テンプレートの名前を入力します。利用可能なテンプレートの一覧から選択する場合は、[参照]をクリックします。
- 7 [Original mail template on which this template is based]リストで、選択したテンプレートを作成するために最初に使われたテンプレートの種類を選択します。たとえば、テンプレートが `mail8.ntf` から作成されている場合は、`mail8.ntf` を選択します。
- 8 [Original server version of base template]リストで、元のメールテンプレートが来たサーバーの Domino のバージョンを選択します。たとえば元のテンプレートが Domino 8.0.1 サーバーにあったら、8.0.1 を選択します。
- 9 選択したテンプレートに Enterprise Vault のカスタマイズを適用するために[Add Enterprise Vault Customizations]をクリックします。

## Domino メールボックスアーカイブを設定する場合に EVInstall.nsf が行う変更

このセクションでは、EVInstall.nsf によって加えられる変更について説明します。

### Domino 9.0 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf による変更

表 2-12 では、Domino 9.0 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf により加えられる変更について説明します。

**表 2-12** Domino 9.0 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf による変更

| [ファイル]          | コメント   |
|-----------------|--|
| EVDGMail.ntf    | これはアイテムの取り込み処理時に Enterprise Vault Domino Gateway サーバーの EV フォルダ内に作成される一時的なデータベースによって使用されるテンプレートです。<br><br>EVDGMail.ntf のマスターテンプレート名は EVDGMail です。                           |
| ev_Forms9.nsf   | これは、Domino 9.0 サーバー用のフォームファイルです。これは、Enterprise Vault 拡張を含む新しいデータベースです。<br>Forms9.nsf が変更されずにまだ存在します。   |
| ev_Forms9_x.nsf | これは、Enterprise Vault 拡張が追加される Domino 9.0 サーバー用の iNotes フォームの拡張ファイルです。フォームの拡張データベースがない場合には、フォームの拡張ファイルテンプレート Forms9_x.ntf から新しく拡張データベースが作成され、次に Enterprise Vault 拡張が追加されます。 |
| evattach.ntf    | Enterprise Vault インストールによってインストールされます。ユーザーがショートカット内のリンクをクリックしたときに、アーカイブされた添付ファイルを別のウィンドウに表示する場合に使われます。<br>このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。           |
| EVOOffline.ntf  | これは、Enterprise Vault でボルトキャッシュデータベースの作成に使われるテンプレートです。このファイルは EVInstall.nsf を実行するとき自動的にインストールされます。このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。                    |

| [ファイル]          | コメント  |
|-----------------|---|
| domcfg.nsf      | Domino Web Server 設定データベース (domcfg.nsf) は、シングルサインオンを使っているときに表示される、カスタマイズしたログオンフォームを格納できるデータベースです。このデータベースは、カスタマイズしたログオンフォームを Domino メールボックスアーカイブの検索で表示できるように、Enterprise Vault Domino Gateway サーバーに作成されます。 |
| EV\evdomino.nsf | Enterprise Vault インストールによってインストールされます。このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。  |

## Domino 8.5 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf による変更

表 2-13 では、Domino 8.5 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf により加えられる変更について説明します。

**表 2-13** Domino 8.5 Enterprise Vault Domino Gateway の EVInstall.nsf による変更

| [ファイル]        | コメント  |
|---------------|---|
| EVDGMail.ntf  | これはアイテムの取り込み処理時に Enterprise Vault Domino Gateway サーバーの EV フォルダ内に作成される一時的なデータベースによって使用されるテンプレートです。<br><br>EVDGMail.ntf のマスターテンプレート名は EVDGMail です。                  |
| Forms85.nsf   | これは、Domino 8.5 サーバーで使われる iNotes/DWA フォームデータベースです。このデータベースでは、Enterprise Vault での変更は既存のデータベースに挿入されます。新しいフォームデータベースは作成されません。   |
| Forms85_x.nsf | これは Domino 8.5.1 以降のサーバーによって使われる iNotes/DWA のフォームの拡張データベースです。Enterprise Vault の変更は既存の iNotes/DWA フォームの拡張データベースが存在すれば、そこに挿入されます。フォームの拡張データベースがない場合には、新しいものが作成されます。 |
| evattach.ntf  | Enterprise Vault インストールによってインストールされます。ユーザーがショートカット内のリンクをクリックしたときに、アーカイブされた添付ファイルを別のウィンドウに表示する場合に使われます。このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。      |

| [ファイル]          | コメント  |
|-----------------|---|
| EVOOffline.ntf  | これは、Enterprise Vault でボルトキャッシュデータベースの作成に使われるテンプレートです。このファイルは EVInstall.nsf を実行するとき自動的にインストールされます。このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。   |
| domcfg.nsf      | Domino Web Server 設定データベース (domcfg.nsf) は、シングルサインオンを使っているときに表示される、カスタマイズしたログオンフォームを格納できるデータベースです。このデータベースは、カスタマイズしたログオンフォームを Domino メールボックスアーカイブの検索で表示できるように、Enterprise Vault Domino Gateway サーバーに作成されます。 |
| EV¥evdomino.nsf | Enterprise Vault インストールによってインストールされます。このファイルには署名が必要です。EVInstall.nsf には署名を実行するオプションが用意されています。  |

## Domino 9.0 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

表 2-14 では、Domino 9.0 メールサーバー上で EVInstall.nsf により加えられる変更について説明します。

表 2-14 Domino 9.0 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

| [ファイル]          | コメント  |
|-----------------|---|
| ev_mail9.ntf    | これは、Domino 9.0 サーバー用のメールテンプレートです。このテンプレートは新しいデータベーステンプレートです。<br>mail9.ntf はまだ存在しており、以前に行った mail9.ntf へのカスタマイズは ev_mail9.ntf に適用されます。<br><br>ev_mail9.ntf のマスターテンプレート名は EVR9Mail です。 |
| ev_Forms9.nsf   | これは、Domino 9.0 サーバー用のフォームファイルです。これは、Enterprise Vault 拡張を含む新しいデータベースです。<br>Forms9.nsf が変更されずにまだ存在します。  |
| ev_Forms9_x.nsf | これは、Enterprise Vault 拡張が追加される Domino 9.0 サーバー用の iNotes フォームの拡張ファイルです。フォームの拡張データベースがない場合には、フォームの拡張ファイルテンプレート Forms9_x.ntf から新しく拡張データベースが作成され、次に Enterprise Vault 拡張が追加されます。          |

## Domino 8.5 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

表 2-15 では、Domino 8.5 メールサーバー上で EVInstall.nsf により加えられる変更について説明します。

表 2-15 Domino 8.5 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

| 【ファイル】        | コメント   |
|---------------|--|
| ev_mail85.ntf | これは、Domino 8.5 サーバー用のメールテンプレートです。このテンプレートは新しいデータベーステンプレートです。<br>mail85.ntf はまだ存在しており、以前に行った mail85.ntf へのカスタマイズは ev_mail85.ntf に適用されます。<br><br>ev_mail85.ntf のマスターテンプレート名は EVR85Mail です。 |
| Forms85.nsf   | これは、Domino 8.5 サーバーで使われる iNotes/DWA フォームデータベースです。このデータベースでは、Enterprise Vault での変更は既存のデータベースに挿入されます。新しいフォームデータベースは作成されません。  |
| Forms85_x.nsf | これは Domino 8.5.1 以降のサーバーによって使われる iNotes/DWA のフォームの拡張データベースです。Enterprise Vault の変更は既存の iNotes/DWA フォームの拡張データベースが存在すれば、そこに挿入されます。フォームの拡張データベースがない場合には、新しいものが作成されます。                        |

## Domino 8 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

表 2-16 では、Domino 8 メールサーバー上で EVInstall.nsf により加えられる変更について説明します。

表 2-16 Domino 8 メールサーバーの EVInstall.nsf による変更

| ファイル         | コメント  |
|--------------|---|
| ev_mail8.ntf | これは、Domino 8 サーバー用のメールテンプレートです。このテンプレートは新しいデータベーステンプレートです。<br>mail8.ntf はまだ存在しており、以前に行った mail8.ntf へのカスタマイズは ev_mail8.ntf に適用されます。<br><br>ev_mail8.ntf のマスターテンプレート名は EVR8Mail です。 |
| Forms8.nsf   | これは、Domino 8 サーバーで使われる DWA フォームデータベースです。このデータベースの場合、Enterprise Vault での変更は既存のデータベースに挿入されます。新しいフォームデータベースは作成されません。   |



## Notes と DWA 拡張機能をインストールした後の新しい設計でのメールファイルの更新

Enterprise Vault クライアントのすべての機能をユーザーに提供する最後のタスクとして、ユーザーのメールファイルの設計を適切な Enterprise Vault メールテンプレートに置き換えます。使用するテンプレートは、ユーザーが使っているメールテンプレートのバージョンと、iNotes/DWA を使っているかどうかによって異なります。

- Domino 9.0 IBM Notes と iNotes の場合、ユーザーは、EV\_Mail9.ntf を使うことになります。
- Domino 8.5 では、Notes および iNotes ユーザーは EV\_Mail85.ntf を使う必要があります。
- Domino 8.0 では、Notes および DWA ユーザーは EV\_Mail8.ntf を使う必要があります。

設計の置換には 2 つの方法があります。

- 少数のメールファイルを更新する場合は、管理クライアントで[ファイル]、[データベース]、[設計の置換]の順にクリックします。
- 多数のメールファイルを更新する場合は、メールルーターを停止してから、Domino サーバータスク Convert を使います。  
Convert サーバータスクはリソースを大量に消費するため、混雑していない時間帯に実行することを推奨します。大規模なメールサーバーでは、すべてのメールファイルの変換に数時間かかることがあります。

メールルーターを停止するには、Domino サーバーコンソールで次のコマンドを入力します。

```
tell router quit
```

Convert の使い方は、同じメールファイルテンプレートをすべてのユーザーに適用する場合が最も簡単です。次のコマンド例では、EVR8mail がすべてのユーザーに適用されます。

```
Load convert mail¥*.nsf * ev_mail8.ntf
```

existingtemplatename 引数にアスタリスクを使うには注意が必要です。これは、注意せずに使うと、誤ったテンプレートにユーザーを変換してしまう可能性があるためです。

Convert タスクについて、すべての構文を確認するには、Domino サーバーコンソールで次のように入力します。

```
load convert -?
```

---

**メモ:** Enterprise Vault Notes 拡張機能を使って各メールファイル内の既存のユーザー作成フォルダをアップグレードするには、Convert ユーティリティの **-s** および **-u** パラメータを使うか、メールファイルで[Actions]および[Upgrade Folder Design]を選択します。

---

次の手順を行うと、後続の新規ユーザーの設定が簡単になります。これらの変更では、新しいメールファイルへのアクセス権が汎用 Domino アーカイブユーザーに自動的に付与され、メールファイルに適切なメールテンプレートが使われるようになります。

- **Enterprise Vault** メールテンプレートのアクセス制御リストに、編集者アクセス権と、「文書の削除」権限および「共有フォルダ/表示の作成」権限を持つ汎用 Domino アーカイブユーザーを追加します。ユーザーの入力では、その名前を角カッコで囲みます。こうすることで、そのユーザーが確実に、テンプレートから作成されたすべてのメールファイルの **ACL** に自動的に追加されます。
- 新規ユーザーの登録時に管理者が適切なメールテンプレートを使うようにするために、管理設定でデフォルトのメールテンプレートを変更します。  
デフォルトのメールテンプレートを変更するには、次の操作を実行します。
  - **Domino Administrator** クライアントから、[ファイル]、[環境設定]、[システム管理]の順に選択します。
  - [登録]タブをクリックしてから、[メールオプション]をクリックします。
  - メールファイルテンプレートを適切な **Enterprise Vault** メールテンプレートに変更し、[OK]を 2 回クリックして設定を保存します。

## Notes と DWA 拡張機能をインストールした後でユーザーが Enterprise Vault 検索機能にアクセスする方法

Enterprise Vault では複数のブラウザベースの機能を利用でき、クライアントユーザーはこれらの機能によりアーカイブ済みアイテムを検索、表示、復元できます。これらの機能にアクセスするには、Domino シングルサインオン (SSO) を設定する必要があります。検索は、仮想ディレクトリ /EnterpriseVaultDomino を使って行われます。この仮想ディレクトリは、匿名認証と特別な匿名ユーザーアカウントを使うように設定されます。

Enterprise Vault による検索を開始するには、Notes または iNotes/DWA で[Enterprise Vault による検索]オプションを選択します。オプションは [詳細]メニュー上にあります。SSO ログオンボックスが表示されます。ユーザーは Notes ユーザー名 (一般的な名前または階層的なフルネーム) およびインターネットパスワードを入力する必要があります。インターネットパスワードはユーザーの個人文書内で定義されていて、Notes ユーザー ID パスワードと同じにできる場合があります。Enterprise Vault による検索にログオンするにはインターネットパスワードが必要です。

アーカイブ済みの内容を検索すると、Enterprise Vault Domino Gateway で Enterprise Vault による検索アプリケーションが実行されます。

Domino メールボックスアーカイブでは、Enterprise Vault による検索は同じ Domino ドメインの Domino メールボックスアーカイブを検索するときのみ使えます。

## 内部 Notes メール受信者の識別

Enterprise Vault で特定の Notes ドメインに対するローカルアドレスルックアップが必ず実行されるように指定できます。ローカルルックアップによって、代替電子メールアドレスにアドレス指定されたメッセージの Notes ユーザー名を Enterprise Vault で識別できます。ローカルルックアップの結果を、Web アプリケーション、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator での検索に役立てることができます。

ローカルアドレスルックアップが必要なドメインを指定するために、ジャーナルタスクとアーカイブタスクを実行する Enterprise Vault サーバーのレジストリを編集する必要があります。

NotesDomains レジストリキーについて詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

## Domino メールボックスアーカイブのインストール後に自動メッセージを編集する方法

Enterprise Vault は、メールボックスのアーカイブが有効になっているユーザーに自動メッセージを送信します。

省略可能なオプションとして、ユーザーのアーカイブが最大サイズに達したとき(限度を設定している場合)に自動警告を送信するように Enterprise Vault を設定できます。

メッセージのサンプルがインストールされていますが、企業のニーズに合わせて内容をカスタマイズする必要があります。

## Domino メールボックスアーカイブのインストール後の Welcome メッセージの編集

Enterprise Vault でメールボックスのアーカイブを有効にすると、そのメールボックスに Welcome メッセージが自動的に送信されます。Welcome メッセージには、ヘルプの表示方法と使える機能に関する情報が含まれます。このメッセージを送信する前に、Enterprise Vault の設定を反映するために編集する必要があります。

Enterprise Vault をインストールすると、Welcome メッセージはたとえば次の Enterprise Vault プログラムフォルダに格納されます。

```
C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Languages\Mailbox  
Messages\lang
```

*lang* は使っている言語を表します。

Welcome メッセージは、EVMessages.nsf という名前のファイル内にあります。

**Welcome メッセージを設定するには**

- 1 使用する EVMessages.nsf の言語を決定し、ファイルを検索します。
- 2 必要に応じて、適切なユーザー ID を使ってファイルに署名します。この ID は、ファイルを編集するコンピュータの実効制御リストでの [カレント・データベースへのアクセス] 権限が必要です。このような目的で設定された既存の ID がある場合は、その ID を使うことができます。
- 3 Notes がインストールされているコンピュータの Windows エクスプローラで、EVMessages.nsf ファイルをダブルクリックして、Welcome メッセージを編集します。
- 4 テキストをレビューし、必要な変更を行います。
- 5 ファイルを保存します。
- 6 サイトに配置されているすべての Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダ (C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault など) に、EVMessages.nsf をコピーします。

## Domino メールボックスアーカイブのインストール後にメールボックスのアーカイブを有効化

Enterprise Vault で新しいメールボックスは、Domino プロビジョニングタスクによって設定され、アーカイブが有効化されます。[プロビジョニンググループプロパティ] で [メールボックスを自動的に有効化] オプションを選択した場合、Domino プロビジョニングタスクは実行時にメールボックスを設定し、自動的に有効にします。このオプションを選択しない場合、Domino プロビジョニングタスクの実行時に新しいメールボックスが設定されますが、手動で有効にする必要があります。

ユーザーのメールボックスが有効になり、そのユーザーがメールボックスを再度開くまで、Enterprise Vault のメニューオプションは Notes に表示されません。したがって、ユーザーのメールボックスが有効になるまでは、Notes 用 Enterprise Vault 拡張機能をロールアウトすることができます。

Domino メールボックスを有効にすると、プロビジョニンググループに対して指定されているポルトストアに、メールボックスの新しいアーカイブが作成されます。アーカイブには課金用に使われる関連付けされたアカウントがあり、1 人以上のユーザーがそのアーカイブに格納された情報にアクセスできます。

特定の Domino メールボックスユーザーに対して Enterprise Vault アーカイブへのアクセスを拒否するには、レジストリ設定 DominoProvisioningACLSyncFilters にユーザーを指定します。この設定について詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

プロビジョニング処理の一環として、Domino プロビジョニングタスクはクライアントが使う Enterprise Vault Domino Gateway をメールファイルに設定します。Enterprise Vault

Domino Gateway と、アーカイブを管理する Enterprise Vault ストレージサービスが同じコンピュータ上にある場合、割り当てられた Enterprise Vault Domino Gateway がユーザーアーカイブに対してローカルになります。Enterprise Vault Domino Gateway が、アーカイブを管理する Enterprise Vault ストレージサービスと同じコンピュータ上に存在しない場合、Domino プロビジョニングタスクは Enterprise Vault Domino Gateway をランダムに選択します。

メールボックスを有効にするには、タスク制御サービスと Domino プロビジョニングタスクが起動している必要があります。デフォルトでは、タスク制御サービスを起動するとタスクが自動的に起動されます。システムのデフォルトでは、Domino プロビジョニングタスクは 1 日に 1 回実行されます。タスクのプロパティで、1 日に 2 回、指定した時刻にタスクが実行されるようにスケジュールを設定できます。また、プロビジョニンググループに追加された新しいメールボックスを処理するために、強制的に実行することもできます。

レポートモードと標準モードのどちらかで実行した場合にも、レポートが生成されるように Domino プロビジョニングタスクを設定できます。ポートは、Enterprise Vault¥Reports¥Domino Provisioning フォルダに作成されます。タスクのプロパティで、レポートレベルが必要なレベルであることを確認します。

完全レポートでは、次の内容が一覧表示されます。

- 処理される各メールボックス
- プロビジョニンググループ
- 割り当てられたメールボックスポリシー
- メールボックスに関連付けされているユーザー名
- 実行する処理
- エラーの詳細

レポートの最後には、タスクの実行に関する概略の統計情報が含まれます。

#### タスク制御サービスと Domino プロビジョニングタスクを起動する方法

- 1 管理コンソールの左側のペインの [Enterprise Vault サーバー] コンテナを展開します。
- 2 タスク制御サービスを追加するコンピュータを展開し、[サービス] をクリックします。
- 3 右側のペインで、[Enterprise Vault Task Controller Service] を右クリックし、ショートカットメニューの [開始] をクリックします。
- 4 左ペインで、[タスク] をクリックし、Domino プロビジョニングタスクが開始されていることを確認します。

- 5 タスクは、スケジュール設定した時刻に自動的に実行されます。[今すぐ実行]オプションを使って、強制的にプロビジョニングを実行することもできます。このオプションは、[スケジュール]プロパティと、タスクを右クリックしたときに表示されるメニューから利用できます。
- 6 タスクの実行後、Domino プロビジョニングレポートを確認します。

#### **Domino プロビジョニングタスクで強制的にメールボックスを処理する方法**

- 1 管理コンソールの左側のペインで、[Enterprise Vault サーバー]を展開し、Enterprise Vault サーバーを展開します。
- 2 [タスク]をクリックします。
- 3 右側のペインで、Domino プロビジョニングタスクを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 4 レポートレベルが必要なレベルであることを確認します。
- 5 右側のペインで、Domino プロビジョニングタスクを右クリックし、[今すぐ実行]を選択します。
- 6 タスクをレポートモードまたは標準モードのどちらで実行するかを選択します。このタスクによって、プロビジョニンググループ内のメールボックスの処理が開始されます。
- 7 タスクの実行後、Domino プロビジョニングレポートを確認します。
- 8 メールボックスのアーカイブを自動的に有効にするオプションが選択されている場合は、Domino プロビジョニングタスクの実行時にもメールボックスが有効になります。  
  
新しいメールボックスを自動的に有効にするオプションが選択されていない場合は、それらを手動で有効にする必要があります。

#### **1 つまたは複数のメールボックスを手動で有効にする方法**

- 1 管理コンソールの[ツール]メニューの[メールボックスの有効化]をクリックする、またはツールバーの[アーカイブ対象メールボックスを有効化]アイコンをクリックします。  
  
メールボックスの有効化ウィザードが起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、詳しくはウィザードの[ヘルプ]をクリックしてください。
- 3 有効にするメールボックスが表示されない場合は、Domino プロビジョニングレポートを参照して、対象のメールボックスが Domino プロビジョニングタスクで処理されていることを確認します。

# オフラインユーザー用のボルトキャッシュの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino ユーザーのボルトキャッシュについて](#)
- [Domino デスクトップポリシーを使用してボルトキャッシュに対してユーザーを有効化](#)
- [Domino デスクトップポリシーを使うによるボルトキャッシュの無効化](#)
- [Domino 用ボルトキャッシュ設定のトラブルシューティング](#)

## Domino ユーザーのボルトキャッシュについて

ボルトキャッシュは、アーカイブ済みアイテムのローカルキャッシュを提供します。ボルトキャッシュには次の特徴があります。

- ユーザーは、企業内ネットワークに接続していない場合でも、アーカイブ済みアイテムへ簡単にアクセスできます。
- 通常のオンラインアーカイブの追加として使われます。
- ノートパソコンを使うモバイルユーザーに便利です。

さらに、帯域幅を削減したり、パフォーマンスを向上させる必要がある場合は通常の職場でも役立ちます。アーカイブ済みアイテムの取り込みがローカルコンピュータで行われるため、パフォーマンスが向上します。

ボルトキャッシュがアーカイブに対して有効になっている場合、**Enterprise Vault** はアイテムのコピーをユーザーのコンピュータのボルトキャッシュデータベースにダウンロードします。

**Enterprise Vault** は 1 日に 1 回ボルトキャッシュをアーカイブに自動的に同期させます。新しいアイテムがアーカイブに追加されている場合、これらのコピーはボルトキャッシュに

ダウンロードされます。アーカイブに接続されていない場合は、次回接続が検出されると、自動的に同期が行われます。

ボルトキャッシュにダウンロードする必要があるアイテムの数を最小限に抑えるために、すぐにアーカイブされることになっているアイテムはボルトキャッシュに自動的に追加されます。この機能を **事前コピー**と呼びます。

オフラインで作業しているユーザーが **Notes** でショートカットを開くと、ボルトキャッシュデータベースのローカルコピーが開かれます。

新しいアイテムをボルトキャッシュデータベースにダウンロードする必要がある場合は、アイテムのコピーをまとめて収集し、ボルトキャッシュに一時的に保持してから、ユーザーのボルトキャッシュにダウンロードします。

---

**メモ:** ボルトキャッシュはメールインデータベースでは利用可能ではありません。Enterprise Vault はメールインデータベースの場合には管理コンソールのボルトキャッシュのポリシー設定を無視します。

---

## Domino デスクトップポリシーを使用してボルトキャッシュに対してユーザーを有効化

Domino デスクトップポリシーの[ボルトキャッシュ]タブの設定を使ってボルトキャッシュの動作を制御できます。

### ボルトキャッシュに対してユーザーを有効にする方法

- 1 ボルトキャッシュに対して有効にするユーザーに権限を付与します (まだ付与していない場合)。
 

p.42 の「[Vault Cache のユーザーに権限を付与する](#)」を参照してください。
- 2 Domino デスクトップポリシーのプロパティを開き、[ボルトキャッシュ]タブをクリックします。
- 3 [ボルトキャッシュをユーザーに対して利用可能にする]を選択します。
- 4 次のいずれかを選択します。
  - [自動的に有効化]。すべてのオフラインユーザー用にボルトキャッシュを自動的に有効にするには、このオプションを選択します。
  - [ユーザーによる決定を許可]。ユーザーがツールメニューから[Enterprise Vault キャッシュオプション]を選択してボルトキャッシュを有効にすることができるようにするには、このオプションを選択します。
- 5 必要に応じて、他のボルトキャッシュの設定を修正します。



- 6 [OK]をクリックしてポリシーのプロパティを閉じます。
- 7 メールボックスを同期します。Domino プロビジョニングタスクを実行してメールボックスを同期することができます。次のいずれかの操作を実行できます。
  - プロビジョニングタスクのプロパティの[同期]タブにある[個々のメールボックスを同期]を使います。この方法では、同期するメールボックスを選択する必要があります。
  - プロビジョニングタスクのプロパティの[スケジュール]タブにある[今すぐ実行]を使います。[今すぐ実行]では、Domino ドメイン内のすべてメールボックスが処理されますが、他のポリシーに関連付けされているメールボックスも処理されるため、この処理に時間がかかる場合があります。

レプリカベースのローカルメールを作成または更新すると、ボルトキャッシュが利用可能になります。

## ボルトキャッシュ使用時の Enterprise Vault Domino Gateway に対する権限の設定

ボルトキャッシュに対して有効になっているすべてのユーザーが Enterprise Vault Domino Gateway にデータベースを作成する権限を持っていることを確認する必要があります。

### Enterprise Vault Domino Gateway に対する権限を設定する方法

- 1 Enterprise Vault Domino Gateway に関する Domino サーバー文書を開きます。
- 2 [セキュリティ]タブをクリックします。
- 3 下方向にスクロールして[データベースとテンプレートの作成]設定を表示します。
- 4 [データベースとテンプレートの作成]に必要な値を次のように設定します。
  - すべてのユーザーが Enterprise Vault Domino Gateway にデータベースを作成できるようにするには、[データベースとテンプレートの作成]を空白のままにします。
  - データベースの作成をボルトキャッシュに対して有効になっているユーザーに制限するには、すべてのユーザーまたはユーザーグループを指定します。
- 5 [保存して閉じる]をクリックして変更を保存します。

## Domino デスクトップポリシーを使うによるボルトキャッシュの無効化

ボルトキャッシュを無効にする必要がある場合は、管理コンソールのデスクトップポリシーを編集してから、ローカルメールデータベースをレプリケートする必要があります。この手

順によって、ポリシーが適用されるすべてのユーザーに対してボルトキャッシュが無効になります。

個々のユーザーに、[Enterprise Vault キャッシュオプション]の[ボルトキャッシュを有効化]をクリアしてボルトキャッシュを無効にするオプションがあります。

#### ボルトキャッシュを無効にする方法

- 1 管理コンソールで **Domino** デスクトップポリシーをダブルクリックして、そのプロパティを表示します。
- 2 [ボルトキャッシュ]タブをクリックします。
- 3 [ボルトキャッシュをユーザーに対して利用可能にする]をクリアします。
- 4 [OK]をクリックしてポリシーのプロパティを閉じます。
- 5 新しいポリシー設定を適用するプロビジョニングタスクを実行します。
- 6 サーバーのメールデータベースを使ってローカルメールレプリカデータベースをレプリケートします。

#### ボルトキャッシュが無効になっていることを確認する方法

- 1 ローカルメールレプリカデータベースを開きます。
- 2 [ツール]をクリックしてから、[Enterprise Vault バージョン情報]をクリックします。
- 3 ボルトキャッシュが無効になっていることを確認します。

## Domino 用ボルトキャッシュ設定のトラブルシューティング

このセクションでは、ボルトキャッシュの設定に関するトラブルシューティング情報について説明します。

### 新しく有効になった Domino のボルトキャッシュがポピュレートされない

ボルトキャッシュが **Notes** クライアントに対して有効になると、**Notes** エージェントはローカルメールレプリカをスキャンし、メッセージをボルトキャッシュにダウンロードします。**Notes** エージェントは「Process Request」と「Trawler」です。これらのエージェントを実行できない **Notes** クライアント設定の場合、**Notes** アイテムはボルトキャッシュにポピュレートされません。

ボルトキャッシュにポピュレートされない場合は、次の手順を実行します。

- 1 ユーザー設定で[定期ローカルエージェントの有効化]が選択されていることを確認します。
  - [Notes]メニューから[ファイル]、[ツール]、[ユーザー設定]の順に選択します。

- [起動時オプション]で、[定期ローカルエージェントの有効化]を選択します。
- **Notes** を終了し、再起動します。

詳しくは、IBM の記事「[Locally Scheduled Agents Do Not Run on Schedule](#)」を参照してください。

**2** **Notes** クライアントを再起動します。

**3** メールレプリカデータベースでデータベースプロパティ[バックグラウンドエージェント不可]が選択されていないことを確認してください。

- [ファイル]、[データベース]、[プロパティ]の順に選択して[インフォボックス]を表示します。
- [バックグラウンドエージェント不可]が選択されていないことを確認します。

詳しくは、IBM の記事「[Background Agents Are Not Running in a Particular Database](#)」を参照してください。

**4** それでも問題が解決しない場合はnotes.ini ファイルに Log\_AgentManager = 1 を設定し、**Agent Manager (amgr)** イベントがローカルの log.nsf に記録されるようにしてください。

# Domino ジャーナルアーカイブの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino ジャーナルアーカイブの準備](#)
- [Domino ドメインの追加](#)
- [Domino サーバーの追加](#)
- [Domino ジャーナルへのボルトストアの割り当て](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブの作成](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブへの権限の追加](#)
- [Domino ジャーナルポリシーの作成](#)
- [Domino ジャーナルタスクの作成](#)
- [Domino ジャーナルの場所の追加](#)
- [内部 Notes メール受信者の識別](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブを設定する場合のクライアントの設定方法](#)

## Domino ジャーナルアーカイブの準備

先に進む前に、次の処理を行ったことを確認します。

- ソフトウェアの前提条件が満たされていることを確認しました。
- 必要に応じて、Enterprise Vault で Domino ジャーナルデータベースを設定しました。

- Domino ドメイン、サーバー、ジャーナルの場所への適切なアクセス権が設定されている Notes ID ファイルを準備しました。

これらのタスクを実行する方法については、『インストール/設定』ガイドを参照してください。

## Domino ドメインの追加

Enterprise Vault 管理コンソールで対象の Domino ドメインを設定できます。

### Domino ドメインを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの [アーカイブ対象] コンテナを展開します。
- 2 [Domino] を右クリックし、ショートカットメニューを [新規作成]、[Domino ドメイン] の順にクリックします。  
新規 Domino ドメイン ウィザードが起動します。
- 3 ウィザードに従って操作します。

## Domino サーバーの追加

次に、Enterprise Vault 管理コンソールで対象の Domino サーバーを設定します。

### Domino サーバーを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの [アーカイブ対象] コンテナを展開します。
- 2 [Domino] を展開します。
- 3 サーバーを追加する Domino ドメインを右クリックして、ショートカットメニューを [新規作成]、[Domino サーバー] の順にクリックします。  
新規 Domino サーバー ウィザードが起動します。
- 4 ウィザードに従って操作します。

## Domino ジャーナルへのボルトストアの割り当て

Domino ジャーナルアーカイブは、他のアーカイブの種類でも使用される既存のボルトストアに保持できます。代わりに、アーカイブに対する新しいボルトストアの作成が必要になることがあります。新しいボルトストアを使用する場合、Domino ジャーナルの場所を追加する前にボルトストアとパーティションを作成します。

管理コンソールから [新規ボルトストア] ウィザードを開始します。管理コンソールでこれを実行するには、ボルトストアコンテナを右クリックし、ショートカットメニューで [新規作成] をクリックしてから [ボルトストア] をクリックします。あるいは、ツールバーで [新しいボルトストア]

アを作成]アイコンをクリックします。ウィザードの指示に従います。詳しくはウィザードの[ヘルプ]をクリックしてください。

次の情報を指定する必要があります。

- SQL Server の名前
- ボルトストアデータベースファイルの場所

ジャーナルのセーフコピー設定は無視されます。Enterprise Vault は、ジャーナル時にすぐにセーフコピーを削除します。

新しいボルトストアに指定する名前には、次の文字のいずれかしか含められません。

- アルファベット (A から Z)
- 数字 (0 から 9)
- スペース

ボルトストアが作成されるとき、ウィザードによってパーティションを作成できます。

ボルトストア、パーティション、アーカイブのプロパティを表示してカスタマイズするには、管理コンソールツリーでオブジェクトコンテナを右クリックし、[プロパティ]を選択します。各オブジェクトのプロパティについて詳しくは、管理コンソールのオンラインヘルプを参照してください。

## Domino ジャーナルアーカイブの作成

このセクションでは、Domino ジャーナルアーカイブを作成する方法について説明します。

### Domino ジャーナルアーカイブを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインのサイト階層を展開し、[アーカイブ] コンテナを表示します。
- 2 [アーカイブ] コンテナを展開します。
- 3 [Domino ジャーナル] を右クリックし、ショートカットメニューを[新規作成]、[アーカイブ] の順にクリックします。

新規 Domino ジャーナルアーカイブ ウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

## Domino ジャーナルアーカイブへの権限の追加

ジャーナルメールボックスからアーカイブされたアイテムにアクセスできるようにする必要のあるユーザーに対して、権限を追加する必要があります。

ユーザーに与えることができるアーカイブへのアクセス権限は、次のとおりです。

- [読み取り]。アーカイブのアイテムの表示と取り込みを行うことができます。監査役など、ジャーナルメールボックスからアーカイブされたアイテムを検索する必要があるユーザーは、読み取りアクセス権限以上の権限が必要です。
- [書き込み]。これは、Domino ジャーナルアーカイブの場合、無視されます。
- [削除]。ユーザーはアーカイブからアイテムを削除できます。  
ここで削除権限を付与しても、[サイトプロパティ]ダイアログボックスの[アーカイブ設定]タブで[ユーザーはアーカイブからアイテムを削除できる]オプションが選択されていない場合は、ユーザーはアーカイブから削除できません。

#### ジャーナルアーカイブへの権限を追加する方法

- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[アーカイブ]を表示します。
- 2 [アーカイブ]を展開します。
- 3 [Domino ジャーナル]をクリックします。
- 4 右側のペインで、権限の一覧を修正するアーカイブをダブルクリックします。  
アーカイブのプロパティが表示されます。
- 5 [権限]タブをクリックします。

## Domino ジャーナルポリシーの作成

このセクションでは、Domino ジャーナルポリシーを作成する方法について説明します。

#### Domino ジャーナルポリシーを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインのサイト階層を展開し、[ポリシー] コンテナを表示します。
- 2 [ポリシー] コンテナを展開します。
- 3 [Domino ジャーナル] を右クリックし、ショートカットメニューを [新規作成]、[ポリシー] の順にクリックします。  
新規 Domino ジャーナルポリシー ウィザードが起動します。
- 4 ウィザードに従って操作します。

## Domino ジャーナルタスクの作成

このセクションでは、Domino ジャーナルタスクを作成する方法について説明します。

### Domino ジャーナルタスクを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインのサイト階層を展開し、[Enterprise Vault サーバー] コンテナを表示します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー] コンテナを展開します。
- 3 Domino ジャーナルタスクを追加するサーバーの名前を展開します。
- 4 [タスク] を右クリックし、ショートカットメニューを [新規作成]、[Domino ジャーナルタスク] の順にクリックします。  
新規 Domino ジャーナルタスク ウィザードが起動します。
- 5 ウィザードに従って操作します。

## Domino ジャーナルの場所の追加

デフォルトでは、Enterprise Vault は StdMailJournaling テンプレートを使い、サブフォルダ内にあるすべての Domino ジャーナルデータベースからアーカイブを行います。レジストリ値を使うと、他のテンプレートを使うように指定できます。

### Domino ジャーナルの場所を追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[アーカイブ対象]コンテナを展開します。
- 2 [Domino]を展開します。
- 3 場所を追加するサーバーが属している Domino ドメインを展開します。
- 4 場所を追加する Domino サーバーを展開して、ショートカットメニューを [新規作成]、[Domino ジャーナルの場所] の順にクリックします。  
新しい Domino ジャーナルの場所ウィザードが起動します。
- 5 ウィザードに従って操作します。



### 他のジャーナルテンプレートを指定する方法

- 1 Domino ジャーナルタスクを実行する Enterprise Vault サーバーで、DominoJournalingTemplates と呼ばれる新しい文字列レジストリ値を次の場所に作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Agents
```

- 2 DominoJournalingTemplates の値として、使用するジャーナルテンプレートのカンマ区切りの一覧を指定します。
- 3 Domino ジャーナルタスクを再起動して、新しい設定を適用します。

## 内部 Notes メール受信者の識別

Enterprise Vault で特定の Notes ドメインに対するローカルアドレスルックアップが必ず実行されるように指定できます。ローカルルックアップによって、代替電子メールアドレスにアドレス指定されたメッセージの Notes ユーザー名を Enterprise Vault で識別できます。ローカルルックアップの結果を、Web アプリケーション、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator での検索に役立てることができます。

ローカルアドレスルックアップが必要なドメインを指定するために、ジャーナルタスクとアーカイブタスクを実行する Enterprise Vault サーバーのレジストリを編集する必要があります。

NotesDomains レジストリキーについて詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

## Domino ジャーナルアーカイブを設定する場合のクライアントの設定方法

クライアントコンピュータの Web ブラウザを使うと、アーカイブ済みアイテムを検索できます。検索結果内のアーカイブ済みアイテムは、HTML 形式で常にプレビューできます。ただし、項目の代替の形式が利用可能かどうかユーザーのコンピュータでインストールされるソフトウェアによって決まります。

Enterprise Vault がクライアントコンピュータに送信するアイテムに使う形式は、WebApp.ini 初期化ファイルの設定によって異なります。この初期化ファイルによって、Web Access アプリケーションの動作が制御されます。

表 4-1 に、必要条件と対応する WebApp.ini の設定を示します。

表 4-1 Domino 用の WebApp.ini の設定

| ダウンロード形式                               | 必要条件  | WebApp.ini の設定 |
|--|---|----------------|
| HTML ファイル。クライアントコンピュータの Web ブラウザで開きます。 | なし。   | HTMLNotMSG=1   |
| EML ファイル。クライアントで開くことができます。             | ユーザーのコンピュータで Outlook Express または Outlook が使える状態になっている必要があります。 | 設定は必要なし        |

Domino ジャーナルアーカイブを設定する場合の Notes クライアントの使用に関する注意事項

アーカイブされた Domino サーバーメッセージを表示するのに Notes クライアントを使うことはできません。

Enterprise Vault サーバーにインストールされている Notes クライアントは、Enterprise Vault ユーザーによって使われます。他のユーザーは使うことができません。Enterprise Vault の実行中にこのクライアントを起動することはできません。

# フィルタ処理の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [フィルタについて](#)
- [カスタムフィルタの設定](#)

## フィルタについて

フィルタによって、**Enterprise Vault** アーカイブタスクによるアーカイブ実行時のアイテムの処理方法を詳細に制御できます。

---

**メモ:** 作成したフィルタ設定は、開発サーバーで実際のデータを使ってテストしてから、実働サーバーに実装することが重要です。

---

**Enterprise Vault** には、次のフィルタ処理機能があります。

- カスタムフィルタ。この機能により高度なフィルタ処理が提供されます。電子メールアドレス、件名、メッセージの方向、特定のメッセージプロパティの値などの 1 つ以上の属性を照合してメッセージを選択するルールを作成します。

ルールには、選択したメッセージを **Enterprise Vault** が処理する方法についての指示も含めます。これには、メッセージのアーカイブ、特定の保持カテゴリの割り当て、指定したアーカイブへのメッセージの格納、メッセージの削除またはマーク付けを含めることができます。

**Domino** サーバーメッセージをフィルタ処理する場合、メッセージの添付ファイルを削除するオプションは、まだ利用可能ではありません。

どのフィルタルールにも一致しないアイテムはデフォルトではアーカイブされます。ルールと一致するアイテムのみアーカイブされるようにフィルタルールを設定できます。

p.73 の「[カスタムフィルタルールセットの概要](#)」を参照してください。

- カスタムプロパティ。この機能は、カスタムフィルタの拡張機能です。カスタムフィルタによって選択されたメッセージの追加のプロパティをインデックス付けするように **Enterprise Vault** を設定できます。これらのプロパティは、デフォルトの **Enterprise Vault** システムではインデックス付けされない標準プロパティか、他社アプリケーションによって独自にメッセージに追加されたプロパティなどです。  
 カスタムプロパティでは、「内容のカテゴリ」という概念も導入されています。この概念は、ルールに一致するメッセージに適用する設定をグループ化する場合に使われます。これらの設定には、割り当てる保持カテゴリ、使用するアーカイブ、インデックス付けする追加のプロパティを含めることができます。  
 カスタムプロパティ機能はカスタムフィルタへの拡張機能を提供します。カスタムフィルタを使っている場合に有効になり、また、カスタムフィルタの設定を共有します。

# カスタムフィルタの設定

カスタムフィルタでは、**Domino** サーバーアーカイブに対して高度なフィルタ処理が提供されます。たとえば、特定の件名、送信者、または受信者に該当するアイテムを別のアーカイブに送ったり、社内で送信されたメッセージに専用の保持カテゴリ「**Internal**」を設定したりすることができます。

カスタムフィルタを有効にするすべてのアーカイブタスクに適用されるデフォルトのフィルタを設定できます。さらに、特定の **Domino** プロビジョニンググループのための別のカスタムフィルタを作成してそのグループがプロビジョニングするすべてのメールボックスをフィルタ処理したり、個々の **Domino** ジャーナルの場所のためのカスタムフィルタを作成できます。

カスタムプロパティがアイテムに追加されている場合、選択アイテムに対してこれらのプロパティにインデックスを付けることができます。カスタムフィルタを拡張してカスタムプロパティ機能を使う方法についての説明があります。

p.98 の「[カスタムプロパティと内容カテゴリの設定](#)」を参照してください。

表 5-1                      カスタムフィルタの設定手順

| 手順   | 処理                            | 関連情報  |
|------|-------------------------------|---|
| 手順 1 | カスタムフィルタを有効にするようにレジストリを設定します。 | p.69 の「 <a href="#">Domino カスタムフィルタのレジストリ設定</a> 」を参照してください。 |

| 手順   | 処理   | 関連情報  |
|------|--|---|
| 手順 2 | 必要に応じて、1 つ以上の XML ルールセットファイルにフィルタルールと処理を作成します。ルールセットファイルは、Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダに格納する必要があります。 | <p>p.73 の「<a href="#">カスタムフィルタルールセットの概要</a>」を参照してください。</p> <p>p.78 の「<a href="#">カスタムフィルタのルールセットファイルの一般的な形式について</a>」を参照してください。</p> <p>p.80 の「<a href="#">カスタムフィルタのルール処理について</a>」を参照してください。</p> <p>p.82 の「<a href="#">カスタムフィルタのメッセージ属性フィルタについて</a>」を参照してください。</p> <p>p.94 の「<a href="#">カスタムフィルタのルールセットファイルの例</a>」を参照してください。</p>   |
| 手順 3 | カスタムフィルタを有効にしたアーカイブタスクを再起動します。   | <p>Domino サーバーアーカイブタスクが開始すると、次のメッセージが Enterprise Vault イベントログに送信されます。</p> <pre>EventID = 41086 Description = External Filter The Lotus custom filter 'KVS.EnterpriseVault. LotusDomino.CustomFilter' has started.</pre> <p>Domino サーバーアーカイブタスクが停止すると、次のメッセージが Enterprise Vault イベントログに送信されます。</p> <pre>EventID = 41087 Description = External Filter 'KVS.EnterpriseVault. LotusDomino.CustomFilter' stopped.</pre> |

## Domino カスタムフィルタのレジストリ設定

カスタムフィルタは、レジストリ値の設定によって、Domino メールボックスのアーカイブ用と Domino ジャーナルのアーカイブ用に別々に有効にすることができます。このセクションの手順は、これらの各機能を有効にするために必要なレジストリの設定と、カスタムフィルタの動作を調整する追加オプションのレジストリ値について説明します。

---

**メモ:** これらのレジストリ値に対する変更は、Domino アーカイブタスクを再開するまで反映されません。

---

## Domino メールボックスのカスタムフィルタを有効にする

このセクションの手順は、Domino メールボックスのカスタムフィルタを有効にする方法を説明します。

### Domino メールボックスのカスタムフィルタを有効にするには

- 1 Domino メールボックスのアーカイブタスクを実行するコンピュータで、ボルトサービスアカウントを使用してログインします。
- 2 次のレジストリキーの下に、Lotus Archiving という名前の新しいレジストリキーを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥Software
  ¥Wow6432Node
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥External Filtering
```

- 3 Lotus Archiving の下に、1 という名前のレジストリの文字列値を作成し、次の形式のデータ値を割り当てます。

```
dll_name!class_name
```

それぞれの内容は次のとおりです。

*dll\_name* は KVS.EnterpriseVault.LotusDominoCustomFilter です

*class\_name* は KVS.EnterpriseVault.LotusDomino.CustomFilter です

- 4 他の Enterprise Vault で Domino メールボックスアーカイブタスクを実行する場合は、これらの各サーバーでこの手順を繰り返します。

## Domino ジャーナルのカスタムフィルタを有効にする

このセクションの手順は、Domino ジャーナルのカスタムフィルタを有効にする方法を説明します。

### Domino ジャーナルのカスタムフィルタを有効にするには

- 1 Domino ジャーナルのアーカイブタスクを実行するコンピュータで、ボルトサービスアカウントを使用してログインします。
- 2 存在しない場合は、次のレジストリキーの下に、Lotus Journaling という名前の新しいレジストリキーを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥Software
  ¥Wow6432Node
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥External Filtering
```

- 3 Lotus Journaling の下に、1 という名前のレジストリの文字列値を作成し、次の形式のデータ値を割り当てます。

```
dll_name!class_name
```

それぞれの内容は次のとおりです。

`dll_name` は `KVS.EnterpriseVault.LotusDominoCustomFilter` です

`class_name` は `KVS.EnterpriseVault.LotusDomino.CustomFilter` です

- 4 他の Enterprise Vault で Domino ジャーナルアーカイブタスクを実行する場合は、これらの各サーバーでこの手順を繰り返します。

## MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE のマーク付き再処理アイテム

カスタムフィルタは、個々のアイテムに **MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE** のマークを付け、これらがアーカイブされないようにすることができます。デフォルトでは、アイテムがこのようにマークされた後、Domino アーカイブタスクの以降の実行は、定義済みのルール下のアイテムを再検査しません。

Override レジストリ値を使用してこの動作を強制変更し、**MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE** とマークされたものも含め、Domino アーカイブタスクの以降の実行がすべてのメッセージを再検査するようにすることができます。

Domino メールボックスのアーカイブタスクと Domino ジャーナルのアーカイブタスクの両方を使用してこれらのアイテムを再処理する場合は、次のレジストリキーの下に、Override というレジストリ値を作成してください。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥Software
  ¥Wow6432Node
    ¥KVS
```

¥Enterprise Vault  
¥External Filtering

Domino メールボックスのアーカイブまたは Domino ジャーナルのアーカイブのデフォルトの動作を強制変更する場合、Override レジストリ値は、Lotus Archiving または Lotus Journaling の下にも作成できます。

### MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE のマーク付きアイテムを再処理するには

- 1 設定するアーカイブタスクを実行するコンピュータで、ボルトサービスアカウントを使用してログインします。
- 2 適切なレジストリキーの下に、Override という名前のレジストリ DWORD 値を作成し、1 の値を割り当てます。
- 3 他の Enterprise Vault で Domino アーカイブタスクのデフォルトの動作を設定する場合は、これらの各サーバーでこの手順を繰り返します。

## デフォルトのフィルタールの欠如を無視する

以降のセクションは、メールアイテムのカスタムフィルタを制御する設定ファイルと、カスタムメールのプロパティがインデックス付けされる方法を説明します。ルールに一致しないメールアイテムのデフォルトのアクションの設定と、カスタムプロパティのインデックス付け中に適用されるデフォルトのコンテンツのカテゴリを含みます。

デフォルトのアクションおよびコンテンツのカテゴリを適用せず、ルールに一致するアイテムにだけアクションとコンテンツのカテゴリを適用する場合は、IGNORENODEFAULT レジストリ値を設定する必要があります。これにより、デフォルトのアクションおよびコンテンツのカテゴリを検索できない場合に、Domino アーカイブタスクによるエラーの生成を防ぎます。

IGNORENODEFAULT は、Domino メールボックスのアーカイブ用と Domino ジャーナルのアーカイブ用に別々に作成してください。たとえば、両方のデフォルトの欠如を無視する場合は、Lotus Archiving および Lotus Journaling の両方の下に IGNORENODEFAULT を作成する必要があります。

### デフォルトのフィルタールールおよびデフォルトのコンテンツのカテゴリの欠如を無視するには

- 1 設定するアーカイブタスクを実行するコンピュータで、ボルトサービスアカウントを使用してログインします。
- 2 適切なレジストリキーの下に、KVS.EnterpriseVault.LotusDomino.CustomFilter という名前の新しいレジストリキーを作成します。



- 3 KVS.EnterpriseVault.LotusDomino.CustomFilter の下に、IGNORENODEFAULT という名前の新しい DWORD 値を作成し、1 の値を割り当てます
- 4 他の Enterprise Vault で Domino アーカイブタスクを設定する場合は、これらの各サーバーでこの手順を繰り返します。

## カスタムフィルタルールセットの概要

カスタムフィルタのルールおよび処理は、XML のルールセットファイルで定義されます。各ルールセットファイルは関連付けられた処理を用いる 1 つ以上のルールを含んでいます。

各ルールには次の内容が含まれます。

- アーカイブタスクが処理する各アイテムを評価するための、1 つ以上の属性フィルタのセット。すべての属性フィルタが評価されるため、ルールでの属性フィルタの順序は重要ではありません。
- ルールのすべての属性フィルタに一致するアイテムに適用される処理。特定の保持カテゴリを適用したり、指定されたアーカイブにアイテムを格納したりといった処理があります。一致するアイテムには複数の処理を適用できます。

ルールでの属性フィルタの順序は重要ではありませんが、ルールセットファイルでのルールの順序は重要です。ルールはファイルに出現する順序で評価されます。最初に一致したルールに関連付けされている処理がアイテムに適用され、そのアイテムではその他のルールは評価されません。アイテムに一致するルールがない場合、デフォルトの処理はアイテムのアーカイブです。

デフォルトでは、ルールと一致しないアイテムは、メールボックスアーカイブタスクまたはジャーナルアーカイブタスクによってアーカイブされます。ルールに一致するアイテムのみをアーカイブする場合は、最後のルールとしてルールセットファイルに「catch-all」ルールを作成します。この最後のルールに「MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE」処理を割り当てます。

フィルタの開発およびテスト実行中、ルールに「MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE」処理を割り当てることを推奨します。実働環境で使う処理に変更する前に、ルールが想定どおりに適用されていることを確認します。

すべてのルールセットファイルは、カスタムフィルタを有効にするアーカイブタスクを管理するコンピュータのメイン Enterprise Vault フォルダ（たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault）にあるフォルダ Custom Filter Rules に配置される必要があります。

Enterprise Vault がインストールされた後、このフォルダには次の XML ファイルが格納されます。

- Example Filter Rules.xml。フィルタルールの例を提供します。

- ruleset schema.xdr。XML ルールセットファイルの妥当性を検証するための XML スキーマが含まれます。
- Example Custom Properties.xml。custom properties.xml ファイルのエントリ例を提供します。  
p.100 の「[Custom Properties.xml の一般的な形式について](#)」を参照してください。
- customproperties.xsd。カスタムプロパティ XML ファイルの妥当性を検証するための XML スキーマが含まれます。

ルールセットファイルを作成したり、既存のルールセットファイルを修正する場合、変更が反映される前に関連付けられたアーカイブタスクを再起動してください。分散環境では、カスタムフィルタを有効にしたタスクのある各コンピュータに更新済みのファイルをコピーしてから、各コンピュータで関連付けされたタスクを再起動する必要があります。

---

**メモ:** 特殊文字を含んでいる名前と一致するルールを作成する場合、Unicode のエンコードを用いる XML のルールセットファイルを保存してください。

---

## カスタムフィルタのデフォルトのフィルタルールファイルについて

Domino アーカイブタスクは、Default Filter Rules.xml で定義されたルールを、すべてのプロビジョニンググループおよびジャーナルの場所のデフォルトとして使用します。ただし、Default Filter Rules.xml は必須ではなく、名前付きルールセットファイルだけ作成することを選択できます。こうすると、Domino ジャーナルタスクは特定のプロビジョニンググループまたはジャーナルの場所に適用されます。

p.75 の「[個々の Domino プロビジョニンググループとジャーナルの場所の名前付きルールセットについて](#)」を参照してください。

Default Filter Rules.xml を使用しない場合は、IGNORENODEFAULT レジストリ値を設定してください。

p.72 の「[デフォルトのフィルタルールの欠如を無視する](#)」を参照してください。

この方法では、カスタムフィルタは、名前付きのルールセットファイルで明示的に定義された対象場所のみに適用されます。

カスタムプロパティ機能を実装し、アーカイブタスクが処理するすべてのアイテムに同じ処理を適用する場合（つまり、一致する属性で処理するように特定のアイテムが選択されていない場合）は、ルールセットファイルをすべて無効にし、ファイル custom properties.xml でデフォルトの内容のカテゴリを定義できます。

次のセクションでは、内容のカテゴリと custom properties.xml ファイルについて説明しています。

p.98 の「[カスタムプロパティと内容カテゴリの設定](#)」を参照してください。

## 個々の Domino プロビジョニンググループとジャーナルの場所の名前付きルールセットについて

特定の Domino プロビジョニンググループ、または特定の Domino ジャーナルの場所に対するフィルタリングを実装するには、追加のルールセットファイルを作成できます。関連付けられた名前のルールファイルを持つ各アーカイブターゲットは、ルールセットファイル内の規則に従って処理されます。

たとえば、「セールス」という名前のプロビジョニンググループによってプロビジョニングされたすべてのメールボックスをフィルタリングするために、Sales.xml という名前のルールセットファイルを作成することができます。追加のルールセットファイルを作成する場合、他のプロビジョニンググループのメールボックスは Default Filter Rules.xml のルールを使用してフィルタ処理されます。

Domino ジャーナルのアーカイブの場合、Domino サーバーごとに 1 つだけジャーナルの場所を持っている可能性がある場合には、Default Filter Rules.xml のみを使用し、これらのデフォルトルールがジャーナルの場所に適用できるようにすることができます。

ただし、サーバーに複数のジャーナルの場所がある場合は、個々のプロビジョニンググループの場合と同様に名前付きルールセットファイルを作成できます。

たとえば、管理コンソールで「Marketing/\*」と表示される Domino ジャーナルの場所をフィルタ処理する場合、Marketing.xml というルールセットファイルを作成します。追加のルールセットファイルを作成しない場合は、他のジャーナルの場所は Default Filter Rules.xml のルールを使用してフィルタ処理されます。

## デフォルトのカスタムフィルタの動作の制御について

Enterprise Vault アーカイブタスクのフィルタ処理が有効である場合、アーカイブ時の処理は次のさまざまな設定エンティティの存在によって決まります。

- Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダの XML ルールセットファイル
- XML ルールセットファイル Default Filter Rules.xml
- XML カスタムプロパティファイル Custom Properties.xml
- Custom Properties.xml の内容のカテゴリのエントリ

一部の設定エンティティが定義されていない場合、追加の設定オプションである IGNORENODEFAULT レジストリエントリを使ってアーカイブタスクの動作を変更できます。

さまざまな設定と各設定に伴うアーカイブタスクの動作を、表 5-2 と表 5-3 に示します。

## カスタムフィルタのデフォルト動作の概略

表 5-2 に、カスタムフィルタとカスタムプロパティの 10 種類の異なる設定を示します。

ケースごとにアーカイブタスクが実行する処理については、表 5-3 で説明しています。

いずれの場合も、適切なレジストリ設定が行われ、カスタムフィルタ用にアーカイブタスクが有効であることを前提としています。次の設定エンティティが考慮されます。

- Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダの名前付き XML ルールセットファイル。示されている例の場合、Marketing.xml および Sales.xml は、それぞれマーケティンググループとセールスグループのプロビジョニングのための名前付きルールセットファイルです。

このセクションの例では、プロビジョニングの名前付きルールセットファイルを示します。また、特定の Domino ジャーナルの場所の名前付きのルールセットファイルを作成できます。

p.73 の「カスタムフィルタルールセットの概要」を参照してください。

- すべての種類のアーカイブのデフォルトルールセットファイル Enterprise Vault¥Custom Filter Rules¥Default Filter Rules.xml。
- インデックス付けを行うカスタムプロパティが定義されたカスタムプロパティファイル Enterprise Vault¥Custom Filter Rules¥Custom Properties.xml。
- Custom Properties.xml ファイルの内容のカテゴリのエントリ。
- 値が 1 のレジストリ設定 IGNORENODEFAULT。

表 5-2 カスタムフィルタとカスタムプロパティの設定の例

| ケース | カスタムプロパティファイルが存在する | デフォルトの内容のカテゴリが定義されている | 名前付きルールセットファイルが存在する: Marketing.xml | 名前付きルールセットファイルが存在する: Sales.xml | デフォルトのルールセットファイルが存在する | IGNORENODEFAULT が設定されている |
|-----|--------------------|-----------------------|------------------------------------|--------------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 1   | いいえ                | いいえ                   | いいえ                                | いいえ                            | いいえ                   | いいえ                      |
| 2   | いいえ                | いいえ                   | いいえ                                | いいえ                            | いいえ                   | はい                       |
| 3   | いいえ                | いいえ                   | はい                                 | いいえ                            | いいえ                   | いいえ                      |
| 4   | いいえ                | いいえ                   | はい                                 | いいえ                            | いいえ                   | はい                       |
| 5   | いいえ                | いいえ                   | はい                                 | いいえ                            | はい                    | いいえ                      |
| 6   | いいえ                | いいえ                   | はい                                 | いいえ                            | はい                    | はい                       |
| 7   | はい                 | いいえ                   | いいえ                                | はい                             | いいえ                   | いいえ                      |
| 8   | はい                 | いいえ                   | いいえ                                | はい                             | いいえ                   | はい                       |

| ケース | カスタムプロパティファイルが存在する | デフォルトの内容のカテゴリが定義されている | 名前付きルールセットファイルが存在する:<br><b>Marketing.xml</b> | 名前付きルールセットファイルが存在する:<br><b>Sales.xml</b> | デフォルトのルールセットファイルが存在する | <b>IGNORENODEFAULT</b> が設定されている |
|-----|--------------------|-----------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|
| 9   | はい                 | はい                    | いいえ  | はい                                       | いいえ                   | いいえ                             |
| 10  | はい                 | はい                    | いいえ  | はい                                       | いいえ                   | はい                              |

表 5-3 設定例に伴う処理

| ケース | 発生する処理   |
|-----|--|
| 1   | カスタムフィルタは有効だが、ルールセットファイルもカスタムプロパティファイルも存在しないため、エラーがイベントログに書き込まれ、アーカイブタスクは停止します。  |
| 2   | 存在しないデフォルト設定は無視され、両方のメールボックスはデフォルトのメールボックスポリシーに従ってアーカイブされます。   |
| 3   | セールスプロビジョニンググループに対してエラーが報告されました。デフォルトのルールセットファイルまたはカスタムプロパティファイルが存在しません。   |
| 4   | マーケティングのメールボックスは Marketing.xml のルールに従ってアーカイブされ、セールスのメールボックスはデフォルトのメールボックスのポリシーに従ってアーカイブされます。存在しないデフォルト設定は無視されます。                                       |
| 5   | マーケティングのメールボックスは Marketing.xml のルールに従ってアーカイブされ、セールスのメールボックスは Default Filter Rules.xml のルールに従ってアーカイブされます。<br><br>カスタムプロパティはインデックス付けされません。内容のカテゴリは使えません。 |
| 6   | ケース 5 と同様。IGNORENODEFAULT の設定による影響はありません。  |
| 7   | マーケティングのメールボックスに対してエラーが報告されました。適切な名前付きのルールセットファイルまたはデフォルトのルールセットファイルが存在しません。   |
| 8   | マーケティングのメールボックスはデフォルトのメールボックスポリシーのルールに従ってアーカイブされます。セールスのメールボックスは Sales.xml のルールに従ってアーカイブされます。  |
| 9   | マーケティングのメールボックスのすべてのメッセージがアーカイブされ、カスタムプロパティがインデックス付けされます。メッセージは Sales.xml のルールに従ってセールスのメールボックスからアーカイブされます。   |
| 10  | ケース 9 と同様。IGNORENODEFAULT の設定による影響はありません。  |

## カスタムフィルタのルールセットファイルの一般的な形式について

このセクションでは、XML ルールセットファイルに要求される全体の形式について説明します。

すべてのルールセットファイルは、カスタムフィルタを有効にするアーカイブタスクを管理するコンピュータのメイン **Enterprise Vault** フォルダ (たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にあるフォルダ Custom Filter Rules に配置される必要があります。

ルールセットファイルの一般的な形式は、次のとおりです。

```
<?xml version="1.0"?>
<RULE_SET xmlns="x-schema:ruleset schema.xdr">

  <RULE [NAME="rule_name"] [ACTION="match_action"]
    [CONTENTCATEGORY="content_category"]
    [RETENTION="retention_category"]
    [ARCHIVEID="archiveid"]>

    <message_attribute [attribute_value_operators]>
      <attribute_value>
        [<attribute_value>]
      </message_attribute>

      [<message_attribute>... </message_attribute>]

    </RULE>

  [<RULE> ... </RULE>]
</RULE_SET>
```

ルールセットには、1 つ以上のルールを含めることができます。ルールに名前を付ける指定 (NAME="rule\_name") は、省略可能です。文書化するためと、トレース出力でルールを識別するために、ルールの名前付けを含めることを推奨します。

各ルールには、メッセージを評価するための 1 つ以上のメッセージ属性フィルタが含まれます。現在、Domino サーバーフィルタでは添付ファイルフィルタを利用できません。

表 5-4 に、メッセージの選択に使うことができるメッセージ属性を示します。

表 5-4 カスタムフィルタのためのメッセージ属性

| メッセージの属性 | 関連情報  |
|----------|---|
| Author   | p.83 の「カスタムフィルタのメッセージの作成者と受信者のフィルタ」を参照してください。 |

| メッセージの属性   | 関連情報   |
|------------|--|
| Recipients | p.83 の「カスタムフィルタのメッセージの作成者と受信者のフィルタ」を参照してください。    |
| Direction  | p.90 の「カスタムフィルタのメッセージ方向でのフィルタ」を参照してください。         |
| 件名テキスト     | p.91 の「カスタムフィルタのメッセージの件名でのフィルタ」を参照してください。        |
| 名前付きプロパティ  | p.92 の「カスタムフィルタの Domino 名前付きプロパティフィルタ」を参照してください。 |

属性値の一致では、大文字と小文字が区別されます。ルールすべてのメッセージ属性フィルタがメッセージに適用されるため、ルールにおけるメッセージ属性フィルタの順序は重要ではありません。メッセージがルールに含まれるすべてのメッセージ属性フィルタに一致するときに、メッセージはそのルールに一致します。メッセージがルールに一致すると、**ACTION=** で指定された処理がメッセージに適用されます。

各ルールには、関連付けされたメッセージ処理を設定します。**ACTION="match\_action"** は、メッセージがルールに一致するときにメッセージに適用される処理を定義します。たとえば、アイテムを評価済みとしてマーク付けしても、アーカイブしないように処理することができます (**ACTION="MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE"**)。アイテムをアーカイブする処理の場合は、追加の処理を指定できます。たとえば、特定の保持カテゴリを割り当てたり (**RETENTION="retention\_category"**)、アイテムを特定のアーカイブに格納したり (**ARCHIVEID="archive\_ID"**) することができます。処理が指定されない場合のデフォルトは、**"ARCHIVE\_ITEM"** です。

ルールに一致するメッセージがアーカイブされる方法を指定する場合は、内容のカテゴリを割り当てることを推奨します。内容のカテゴリは、アーカイブ済みアイテムに適用される設定のグループです。保持カテゴリ、アーカイブ ID、Enterprise Vault でインデックスが付けられる追加プロパティの一覧を含めることができます。内容のカテゴリはファイル `custom properties.xml` で定義します。

p.104 の「[内容のカテゴリについて](#)」を参照してください。

---

**メモ:** ルールセットファイルの各ルールがファイルに出現する順序で評価され、最初に一致したルールだけが実行されます。このため、優先度の最も高いルールを先頭に配置することが重要です。

---

## カスタムフィルタの XML ルールセットファイルの妥当性の検証について

カスタムフィルタを有効にしたアーカイブタスクは、アイテムのアーカイブを開始するときに、スキーマ `ruleset schema.xdr` に対してルールセットの XML の妥当性を検証しま

す。無効な XML がある場合はタスクが停止するので、エラーを修正してからタスクを再開する必要があります。

構文エラーによるタスクの中断を回避するため、タスクがアクセスする前に、XML ファイルの妥当性を検証することを推奨します。Liquid XML Studio の GUI の XML エディタなど、他社のツールを使うことができます。

<http://www.liquid-technologies.com/XmlStudio/Free-Xml-Editor.aspx>

このツールを使う場合、次のように名前空間を指定します。

```
x-schema:ruleset schema.xdr
```

スキーマファイル `ruleset schema.xdr` は、Custom Filter Rules フォルダに含まれています。どのルールセットファイルでも、次のようにファイルの先頭でスキーマを参照する必要があります。

```
<?xml version="1.0"?>  
<RULE_SET xmlns="x-schema:ruleset schema.xdr">
```

ファイルに非 ANSI 文字が含まれる場合は、最初の行で適切なエンコーディングが設定されていることと、ファイルが適切なエンコーディングで保存されていることを確認してください。

---

**メモ:** このマニュアルで大文字で示すすべての XML タグと事前定義済みの値は、大文字と小文字が区別されるため、ルールセットファイルでは大文字で入力する必要があります。入力する値も、大文字と小文字を区別する必要があります。

---

## カスタムフィルタのルール処理について

ルールフィルタに一致するメッセージに適用できる処理は次のとおりです。

- **ACTION="ARCHIVE\_ITEM"**。メッセージをアーカイブします。**ACTION=** 句を含まない場合、またはメッセージがいずれのルールにも一致しない場合の、デフォルトの処理です。  
この処理では、アイテムへの保持カテゴリの割り当て (**RETENTION="<retention\_category>"**)、特定アーカイブへのアイテムの送信 (**ARCHIVEID="<archive\_ID>"**)、特定の内容のカテゴリの割り当てなどの追加の処理を指定できます。  
p.81 の「[カスタムフィルタの保持カテゴリの割り当て](#)」を参照してください。  
p.81 の「[カスタムフィルタのアーカイブの指定](#)」を参照してください。
- **ACTION="MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE"**。メッセージをアーカイブせず、もとの場所に残します。



---

**メモ:** MARK\_DO\_NOT\_ARCHIVE としてマークが付けられたメッセージは、もとの場所に残ります。フィルタを Domino ジャーナルの場所に適用する場合、この処理はメッセージ数が少ない場合に使うようにしてください。多くのメッセージが残されると、ジャーナルのパフォーマンスに影響がある場合があります。

---

ルール処理を後で変更する場合は、タスクでマークの付いたアイテムを再処理するように、一時的に Override レジストリの値を 1 に設定できます。

p.69 の「[Domino カスタムフィルタのレジストリ設定](#)」を参照してください。

- ACTION="HARD\_DELETE"。メッセージをアーカイブせず、ごみ箱に移動しないですぐに削除します。

---

**メモ:** すべての Domino Server ジャーナルメッセージから要求された割合でキャプチャするために Compliance Accelerator を使っている場合、選択されたメッセージを削除するカスタムジャーナルフィルタを設定しないでください。これを設定すると、Compliance Accelerator 監視ポリシーの精度が低下します。削除されたメッセージは、キャプチャで利用できないためです。

---

## カスタムフィルタの保持カテゴリの割り当て

RETENTION="retention\_category" オプションは、ルール処理が ACTION="ARCHIVE\_ITEM" の場合のみ適用されます。

retention\_category は、Enterprise Vault で定義された既存の保持カテゴリの名前です。別のルールには別の保持カテゴリを指定できます。

ルールセットファイル内のオプションの指定方法の例を以下に示します。この例では、メッセージ属性フィルタを満たすすべてのメッセージは、アーカイブされ、保持カテゴリ Legal が割り当てられます。

```
<RULE NAME="Example rule2" ACTION="ARCHIVE_ITEM"
  RETENTION="Legal">
  <message attribute filters>
</RULE>
```

## カスタムフィルタのアーカイブの指定

ARCHIVEID="<archive\_ID>" オプションは、ルール処理が ACTION="ARCHIVE\_ITEM" の場合のみ適用されます。archive\_ID は、既存の有効なアーカイブを指定します。

別のルールには別のアーカイブを定義できます。アーカイブを指定しない場合、メールファイルのデフォルトのアーカイブが使われます。

ルールセットファイル内のオプションの指定方法の例を以下に示します。この例では、メッセージ属性フィルタを満たすすべてのメッセージは、指定されたアーカイブに格納されます。

```
<RULE NAME="Example rule" ACTION="ARCHIVE_ITEM"
  ARCHIVEID="15165263832890493848568161647.server1.local">
  <message attribute filters>
</RULE>
```

### 目的のアーカイブの ID を検索する方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールでアーカイブを右クリックします。
- 2 [プロパティ]を選択します。アーカイブの ID が[プロパティ]の[詳細]ページに表示されます。

## カスタムフィルタのメッセージ属性フィルタについて

各ルールには、1 つ以上のメッセージ属性フィルタを含めることができます。各メッセージ属性フィルタでは、メッセージで評価する属性を定義します。ルールに一致するには、メッセージがルールに含まれるすべてのメッセージ属性フィルタを満たす必要があります。つまり、ルールに含まれるすべてのメッセージ属性の間には、AND が暗黙に存在します。ルール内部の属性の順序は重要ではありません。

メッセージ属性は、次の汎用形式でルールに定義されます。

```
<RULE NAME="rule_name" ...>

  <message_attribute [attribute_value_operators]>
    <attribute_value>
      [<attribute_value>]
  </message_attribute>

  [<message_attribute>... </message_attribute>]
</RULE>
```

**message\_attribute** は、一致させるメッセージ属性を定義します。これには、AUTHOR、RECIPIENTS、DIRECTION、SUBJECTS または NAMEDPROP を指定できます。

**attribute\_value** は、一致させるメッセージ属性値を定義します。各属性には、1 つ以上の値を指定できます。

**attribute\_value\_operators** は、特殊な演算子オプションで、属性の値の適用方法を定義できます。AUTHOR、RECIPIENTS、SUBJECTS、NAMEDPROP でフィルタ処理するときに否定一致と肯定一致を定義する場合は、演算子 INCLUDES= と ALLOWOTHERS= が特に便利です。

p.86 の「**INCLUDES** と **ALLOWOTHERS** 演算子を使った複雑なフィルタの作成について」を参照してください。

メッセージ属性 **DIRECTION** を指定した場合は、属性値の演算子を利用できません。

## カスタムフィルタのメッセージの作成者と受信者のフィルタ

メッセージの送信者のアドレス([差出人]のアドレス)と受信者のアドレス([宛先]、[CC]、[BCC]、[非公開]のアドレス)を一致させるために、メッセージ属性 **<AUTHOR></AUTHOR>** と **<RECIPIENTS></RECIPIENTS>** を使うことができます。ルールセットファイルの概略では、メッセージ属性は次のように表されます。

```
<message_attribute>...</message_attribute>
```

---

**メモ:** 属性値の一致では、大文字と小文字が区別されます。

---

次の XML 要素 (ルールセットファイルの概要では **<attribute\_value>** 行で表される) を使うと、一致させる実際のアドレスを SMTP 電子メールアドレス、表示名、または SMTP ドメインとして指定できます。

- **<EA>name@domain</EA>**

この形式は、SMTP アドレスを指定するために使われます。指定する値は、完全な SMTP 電子メールアドレスである必要があります。ここで指定した値がアドレスの部分だけである場合、メッセージは一致しません。ワイルドカード文字を使うことはできません。

アンパサンド文字 (&) が SMTP アドレスに含まれる場合、この文字は次のように置き換える必要があります。

`&amp;`;

アンパサンド文字 (&) は XML で特別な文字であるためです。たとえば、SMTP アドレス `admin&finance@ourcompany.com` は、XML ファイルでは次のように指定する必要があります。

`admin&amp;finance@ourcompany.com`

- **<DISPN>display name</DISPN>**

この形式は、表示名を指定するために使われます。SMTP アドレスの場合と同様に、値はワイルドカード文字が含まれない完全な表示名である必要があります。表示名は多数の異なる形式である可能性があるため、関連する SMTP アドレス用のフィルタを含めることを推奨します。

Domino サーバーメッセージの表示名の例を次に示します。

`<DISPN>Kevin Smith/exampleorg</DISPN>`

すべての必要なメッセージと一致するために、表示名に考えられるすべてのバリエーションを含めるようにしてください。組織単位が表示名に含まれる場合は、それらも指定する必要があります。次に例を示します。

```
<DISPN>Kevin Smith/Sales/exampleorg</DISPN>
```

■ **<DOMAIN>exampledomain.com</DOMAIN>**

この形式は、SMTP ドメインを指定するために使われます。指定する値は、完全なドメインとサブドメインのどちらでもかまいません。たとえば、次のドメイン値を指定するとします。

```
<DOMAIN>ourcompany.com</DOMAIN>
```

次のアドレスが一致します。

- john.doe@ourcompany.com
- jack.doe@hq.ourcompany.com
- jane.doe@uk.hq.ourcompany.com

ただし、次のアドレスは一致しません。

- john.doe@hqourcompany.com

■ **<DL>distribution list name</DL>**

指定した配布リストまたはグループの任意のメンバーに送信されたメッセージに一致させる場合は、この形式を使ってください。たとえば、ルールに次の行があるとします。

```
<DL>ALL SALES</DL>
```

この場合、ALL SALES という配布リストまたはグループの任意のメンバーに送信されたメッセージが一致します。メンバーの名前がメッセージの表示名または SMTP アドレスとして表示されるかどうかは関係ありません。

p.85 の「[カスタムフィルタを使った属性値での配布リストについて](#)」を参照してください。

次に、送信者がドメイン **ourcompany.com** のユーザーで、受信者一覧に **legal@ourcompany.com** または **Notes ユーザー Greg Court** があるすべてのメッセージをアーカイブし、保持カテゴリ **"Legal"** を設定する方法の例を示します。

```
<RULE ... ACTION='ARCHIVE_ITEM' RETENTION='legal'>
  <AUTHOR>
    <DOMAIN>ourcompany.com</DOMAIN>
  </AUTHOR>
  <RECIPIENTS>
    <EA>legal@ourcompany.com</EA>
    <DISPN>Greg Court/ourorg</DISPN>
```

```
</RECIPIENTS>  
</RULE>
```

属性値演算子 **INCLUDES=** と **ALLOWOTHERS=** を使うと、複雑なフィルタを定義できます。

p.86 の「**INCLUDES** と **ALLOWOTHERS** 演算子を使った複雑なフィルタの作成について」を参照してください。

## カスタムフィルタを使った属性値での配布リストについて

特定の **Domino** グループのメンバーに送信されたすべてのメッセージに一致させる場合は、**<DL>** **</DL>** メッセージ属性を使います。次に例を示します。

```
<RECIPIENTS>  
  <DL>ALL SALES</DL>  
</RECIPIENTS>
```

この場合、グループ **ALL SALES** の任意のメンバーに送信されたすべてのメッセージに一致します。

この一致処理が機能するために、管理コンソールでグループの展開が有効になっていることを確認してください (**Domino** ジャーナルポリシーの[詳細]タブの[アーカイブ全般]設定)。

**<EA>**、**<DISPN>**、**<DOMAIN>** の各メッセージ属性を使って配布リストとグループを指定できます。ただし、指定された文字列を含むメッセージだけが一致します。メッセージの受信者を指定した配布リストの個々のメンバーと比較することはありません。

たとえば、**ALL SALES** という **Domino** グループのメンバーが次のとおりであるとします。

- john.doe@ourcompany.com
- ken.brookes@ourcompany.com
- len.scott@ourcompany.com

ルールセットファイルでは、次のメッセージ属性フィルタがルールで指定されているとします。

```
<RECIPIENTS>  
  <DISPN>ALL SALES</DISPN>  
</RECIPIENTS>
```

メッセージの受信者リストに表示名 **ALL SALES** がある場合、このメッセージは前の属性フィルタを満たします。メッセージの受信者リストに表示名 **ALL SALES** がない場合は、受信者リストに配布リストのメンバーの電子メールアドレスが含まれている場合でも、属性フィルタに一致しません。

## INCLUDES と ALLOWOTHERS 演算子を使った複雑なフィルタの作成について

AUTHOR、RECIPIENTS、SUBJECTS、および NAMEDPROP メッセージ属性に複数の値を使い、かつ演算子 INCLUDES= と ALLOWOTHERS= を使って属性値の一致方法を定義すると、より複雑なフィルタを作成できます。

INCLUDES= には次の値を指定できます。

- INCLUDES="NONE" は、属性に指定した値を含まないメッセージに一致することを意味します
- INCLUDES="ANY" は、属性に指定した値を 1 つ以上含むメッセージに一致することを意味します
- INCLUDES="ALL" は、属性に指定したすべての値を含むメッセージに一致することを意味します

INCLUDES= 演算子を指定しない場合は、INCLUDES="ANY" が指定されたと見なされます。

ALLOWOTHERS= には次の値を指定できます。

- ALLOWOTHERS="N" は、フィルタに指定した値だけを含み、その他の値は含まないメッセージに一致することを意味します
- ALLOWOTHERS="Y" は、フィルタに指定した値を含む場合、その他の値が含まれていてもメッセージに一致することを意味します

ALLOWOTHERS= 演算子を指定しない場合は、ALLOWOTHERS="Y" が指定されたと見なされます。

このセクションでは、RECIPIENTS メッセージ属性を併せた INCLUDES= と ALLOWOTHERS= 演算子の使用方法を例示します。

次の例では、受信者リストに一覧表示された 3 つの電子メールアドレスがすべて含まれ (INCLUDES="ALL")、かつこれらのアドレスだけである (ALLOWOTHERS="N") 場合に、メッセージがルールに一致します。

```
<RULE ... >
  <RECIPIENTS INCLUDES="ALL" ALLOWOTHERS="N">
    <EA>john.doe@ourcompany.com</EA>
    <EA>ken.brookes@ourcompany.com</EA>
    <EA>len.scott@ourcompany.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
```

次の例では、一覧表示された電子メールアドレスのいずれかが含まれ (INCLUDES="ANY")、かつそれ以外は含まれない (ALLOWOTHERS="N") 場合に、メッセージがルールに一致します。

```
<RULE ... >
  <RECIPIENTS INCLUDES="ANY" ALLOWOTHERS="N">
    <EA>john.doe@ourcompany.com</EA>
    <EA>ken.brookes@ourcompany.com</EA>
    <EA>len.scott@ourcompany.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
```

次の例では、受信者リストに一覧表示された電子メールアドレスのいずれも含まれない (**INCLUDES="NONE"**) 場合に、メッセージがルールに一致します。一致したメッセージには、受信者リストに他のアドレスが含まれることがあります (**ALLOWOTHERS="Y"**)。

```
<RULE ... >
  <RECIPIENTS INCLUDES="NONE" ALLOWOTHERS="Y">
    <EA>john.doe@ourcompany.com</EA>
    <EA>ken.brookes@ourcompany.com</EA>
    <EA>len.scott@ourcompany.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
```

単一のルール内部で肯定一致と否定一致の両方を指定する場合、複数のメッセージ属性のエントリを含めて、必要に応じて **INCLUDES="NONE"** または **INCLUDES="ALL"** を使えます。次に例を示します。

```
<RULE ... >
  <RECIPIENTS INCLUDES="NONE">
    <EA>john.doe@ourcompany.com</EA>
    <EA>len.scott@ourcompany.com</EA>
  </RECIPIENTS>
  <RECIPIENTS INCLUDES="ALL">
    <EA>Ken.Brookes@ourcompany.com</EA>
    <EA>robert.hill@ourcompany.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
```

この例では、受信者リストに **john.doe@ourcompany.com** または **len.scott@ourcompany.com** が含まれないが、

```
<RECIPIENTS INCLUDES="NONE" ...</RECIPIENTS>
```

**ken.brookes@ourcompany.com** と **robert.hill@ourcompany.com** の両方が含まれる場合に、メッセージが一致します。

```
<RECIPIENTS INCLUDES="ALL" ... </RECIPIENTS>
```

**INCLUDES=** と **ALLOWOTHERS=** の値を異なる組み合わせで使うと、非常に複雑なフィルタを設定できます。

表 5-5 に、次のフィルタ例で演算子 **INCLUDES=** と **ALLOWOTHERS=** に値の異なる組み合わせを設定した場合に、さまざまなメッセージをフィルタした結果を示します。

```
<RULE ... ACTION="ARCHIVE_ITEM">
  <RECIPIENTS INCLUDES="NONE|ANY|ALL"
    ALLOWOTHERS="N|Y">
    <EA>Ann@example.com</EA>
    <EA>Bill@example.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
```

Ann@example.com と Bill@example.com は、一致させる受信者アドレスです。

表 5-5                      さまざまな演算子値の組み合わせを使った場合の効果

| 演算子値セット                               | メッセージ 1:<br>受信者は Ann<br>です | メッセージ 2:<br>受信者は<br>Ann、Bill です | メッセージ 3:<br>受信者は<br>Ann、Bill、<br>Colin です | メッセージ 4:<br>受信者は Bill、<br>Colin です | メッセージ 5:<br>受信者は<br>Colin です |
|---------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|---|------------------------------------|------------------------------|
| INCLUDES="NONE" +<br>ALLOWOTHERS="Y"  | 不一致                        | 不一致                             | 不一致                                       | 不一致                                | 一致                           |
| INCLUDES="NONE " +<br>ALLOWOTHERS="N" | 不一致                        | 不一致                             | 不一致                                       | 不一致                                | 不一致                          |
| INCLUDES="ANY " +<br>ALLOWOTHERS="Y"  | 一致                         | 一致                              | 一致  | 一致                                 | 不一致                          |
| INCLUDES="ANY" +<br>ALLOWOTHERS="N"   | 一致                         | 一致                              | 不一致                                       | 不一致                                | 不一致                          |
| INCLUDES="ALL" +<br>ALLOWOTHERS="Y"   | 不一致                        | 一致                              | 一致  | 不一致                                | 不一致                          |
| INCLUDES="ALL" +<br>ALLOWOTHERS="N"   | 不一致                        | 一致                              | 不一致                                       | 不一致                                | 不一致                          |

表の列見出しに 5 種類のテストメッセージの受信者を示します。簡潔にするため、列見出しで受信者は Ann、Bill、Colin とします。

1 列目は、**INCLUDES=** 演算子と **ALLOWOTHERS=** 演算子に設定されたさまざまな組み合わせを示します。

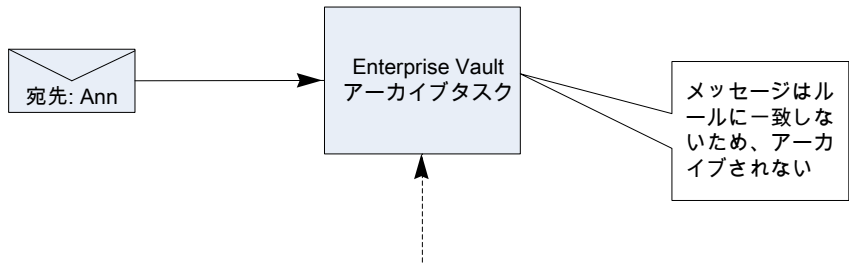


「不一致」は、左列に示される演算子の組み合わせが設定された場合に、列見出しに示された受信者に送信されたメッセージがフィルタルールを満たさないため、アーカイブされない（つまりルール処理が適用されない）ことを意味します。

「一致」は、左列に示される演算子の組み合わせが設定された場合に、列見出しに示された受信者に送信されたメッセージがフィルタルールを満たすため、アーカイブされることを意味します。

図 5-1 と図 5-2 に、表 5-5 のシナリオのうち 2 つで発生する処理を示します。

図 5-1                      メッセージ 1 で INCLUDES="NONE" かつ ALLOWOTHERS="N" の場合

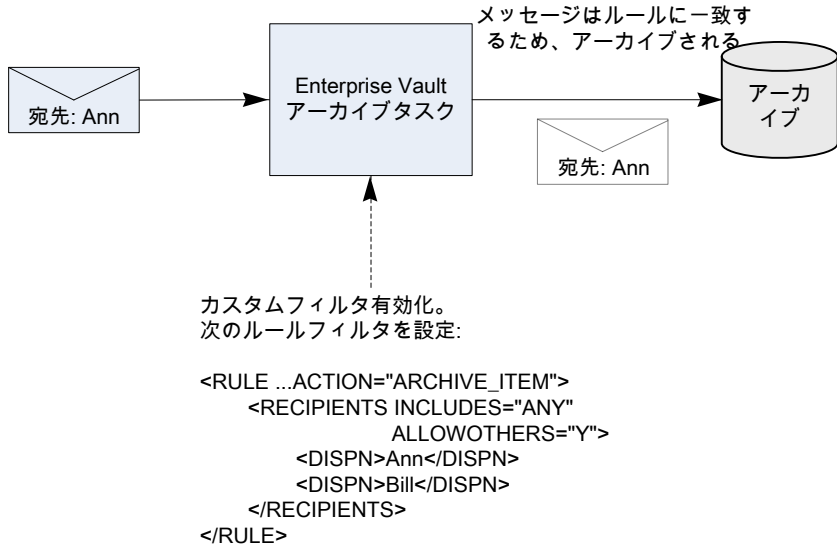


カスタムフィルタ有効化。  
次のルールフィルタを設定:

```

<RULE ...ACTION="ARCHIVE_ITEM">
  <RECIPIENTS INCLUDES="NONE"
    ALLOWOTHERS="N">
    <DISPN>Ann</DISPN>
    <DISPN>Bill</DISPN>
  </RECIPIENTS>
</RULE>
  
```

図 5-2 メッセージ 1 で INCLUDES="ANY" かつ ALLOWOTHERS="Y" の場合



## カスタムフィルタのメッセージ方向でのフィルタ

**<DIRECTION></DIRECTION>** メッセージ属性を使うと、組織に対するメッセージの方向に基づいてメッセージを一致させることができ、ルールで作成者や受信者の詳細を指定する必要はありません。メッセージの方向は、組織の内部、組織からのアウトバウンド、組織へのインバウンドを指定できます。

---

**メモ:** フィルタリングルールが内部メールと外部メールを識別できるようにするには、**InternalSMTPDomains** レジストリ値の内部メールアドレスのリストを指定する必要があります。レジストリ値 ガイドの「**InternalSMTPDomains (Domino)**」セクションを参照してください。

---

**<DIRECTION></DIRECTION>** メッセージ属性では、次の値を 1 つ以上指定できます。

- **INTERNAL="Y"** は、内部アドレスから内部アドレスに送信される場合に、メッセージが一致することを意味します。メッセージの受信者リストには外部アドレスを含めることができません。
- **OUTBOUND="Y"** は、内部アドレスから外部アドレスに送信される場合に、メッセージが一致することを意味します。メッセージの受信者リストには 1 つ以上の外部アドレスが含まれる必要があります。

- **INBOUND="Y"** は、外部アドレスから内部の **SMTP** アドレスに送信される場合に、メッセージが一致することを意味します。メッセージの受信者リストには 1 つ以上の内部の **SMTP** アドレスが含まれる必要があります。

値を指定しない場合のデフォルトは、**"N"** です。何らかのメッセージが一致するには、1 つ以上の値が **"Y"** に設定される必要があります。

次のルール例では、ある内部アドレスから別の内部アドレスのみに送信されたメッセージをアーカイブして保持カテゴリ **"Internal"** を設定します。ある内部アドレスから別の内部アドレスへのメッセージで、受信者リストに外部アドレスも含まれる場合、このメッセージは外部であると見なされます。

```
<RULE NAME="Internal only" RETENTION="Internal" >
  <DIRECTION INTERNAL="Y" OUTBOUND="N" INBOUND="N"/>
</RULE>
```

次のルール例では、組織外部のアドレスとの間で送受信されたメッセージをアーカイブして保持カテゴリ **"External"** を設定します。

```
<RULE NAME="External" RETENTION="External" >
  <DIRECTION OUTBOUND="Y" INBOUND="Y"/>
</RULE>
```

ルールに一致するアイテムのみをアーカイブする場合は、ファイルの最後に次のようなルールを「**catch-all**」ルールとして追加します。

```
<RULE NAME="Do not archive anything else"
ACTION="MARK_DO_NOT_ARCHIVE">
<DIRECTION INBOUND="Y" OUTBOUND="Y" INTERNAL="Y"/> </RULE>
```

このルール例を使って評価される各アイテムでは、いずれかの **DIRECTION** 属性は必ず値「**Y**」に設定されます。そのため、ファイルにある他のルールに一致しないアイテムはこのルールには一致します。関連付けされている処理は、一致するアイテムをアーカイブしないことを意味します。

## カスタムフィルタのメッセージの件名でのフィルタ

**<SUBJECTS></SUBJECTS>** メッセージ属性を使うと、メッセージの件名テキストでメッセージを一致させることができます。**<SUBJECTS>** 属性内部では、一致させる値を次のように定義できます。

- 件名が指定した文字列とまったく同じメッセージを一致させる場合

```
<SUBJ MATCH="EXACT">string</SUBJ>
```

- 件名に指定した文字列が含まれるメッセージを一致させる場合

```
<SUBJ MATCH="CONTAINS">string</SUBJ>
```

- 件名が指定した文字列で始まるメッセージを一致させる場合

```
<SUBJ MATCH="STARTS">string</SUBJ>
```

- 件名が指定した文字列で終わるメッセージを一致させる場合

```
<SUBJ MATCH="ENDS">string</SUBJ>
```

属性値の一致では、大文字と小文字が区別されます。ワイルドカードを使うことはできません。

次の例では、件名が正確に「Welcome New Employee」に完全に一致するか、「Salary Summary for」で始まるか、または「Message Notification」で終わる場合に、そのメッセージをアーカイブせずに削除します。

```
<RULE NAME="Delete" ACTION="HARD_DELETE">
  <SUBJECTS>
    <SUBJ MATCH="EXACT">Welcome New Employee</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="STARTS">Salary Summary for</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="ENDS">Message Notification</SUBJ>
  </SUBJECTS>
</RULE>
```

**INCLUDES="NONE"** 演算子を使うと、件名に特定の文字列が含まれないメッセージに一致させることができます。たとえば、次のルールでは、メッセージの件名に指定された値のいずれも含まないメッセージが一致します。

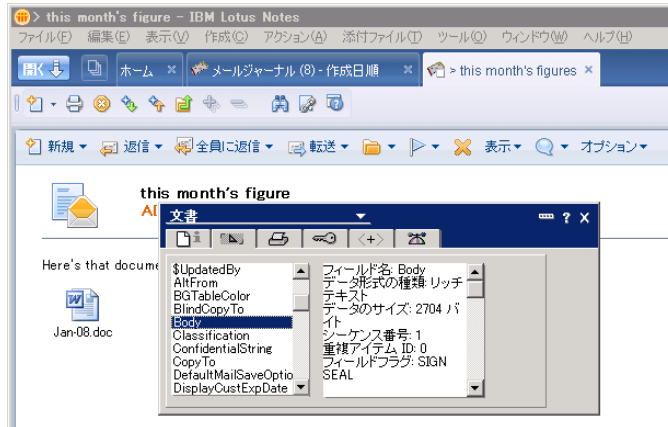
```
<RULE ... >
  <SUBJECTS INCLUDES="NONE">
    <SUBJ MATCH="EXACT">Welcome New Employee</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="STARTS">Salary Summary for</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="ENDS">Message Notification</SUBJ>
  </SUBJECTS>
</RULE>
```

## カスタムフィルタの Domino 名前付きプロパティフィルタ

**<NAMEDPROP> </NAMEDPROP>** メッセージ属性を使うと、メッセージの特定の Domino 名前付きプロパティに割り当てられた値に応じて処理される Domino Server メッセージを選択できます。名前付きプロパティは単一の値でも複数の値でもかまいません。

Notes クライアントでは、図 5-3 に示すようにメッセージの Domino 名前付きプロパティを表示できます。

図 5-3 Domino メッセージプロパティの表示



### メッセージの Domino 名前付きプロパティを表示する方法

- 1 Notes クライアントでメッセージを開き、メッセージを右クリックします。
- 2 メニューから[文書プロパティ]を選択します。
- 3 表示されるダイアログボックスの[フィールド]タブを選択します。

プロパティ名が左側のペインに一覧表示されます。左側のペインのプロパティを選択すると、そのプロパティの詳細が右側のペインに表示されます。

名前付きプロパティフィルタの一般的な形式は、次のとおりです。

```
<NAMEDPROP TAG="Domino_field_name" INCLUDES="operator_value"
  [ALLOWOTHERS="operator_value"]>
  <PROP VALUE="value" />
  [<PROP VALUE="value" />]
</NAMEDPROP>
```

TAG 属性の値は Domino 文書プロパティにあるプロパティのフィールド名です。

INCLUDES= 演算子の値は、"ANY"、"NONE"、または "ALL" です。複雑なフィルタを作成するために演算子 ALLOWOTHERS= を使うこともできます。

p.86 の「[INCLUDES と ALLOWOTHERS 演算子を使った複雑なフィルタの作成について](#)」を参照してください。

各 <PROP> 行は、メッセージの評価時にカスタムフィルタが使うプロパティの特定の値を定義します。

たとえば、サードパーティのアプリケーションが複数の値を持つ Domino 名前付きプロパティ「Location」をメッセージに追加するとします。このプロパティは送信者または受信者の部署や場所を識別します。次のルールの例では、「Location」プロパティに値

「Pittsburgh」または「Finance」が設定されたメッセージに一致するフィルタを示します。一致するあらゆるメッセージは保持カテゴリ「Confidential」でアーカイブされます。

```
<!--Example: Archive items that have Pittsburgh or Finance as values  
for the Location property -->  
<RULE NAME="Location rule" ACTION="ARCHIVE_ITEM"  
RETENTION="Confidential">  
  <NAMEDPROP TAG="Location" INCLUDES="ANY">  
    <PROP VALUE="Pittsburgh" />  
    <PROP VALUE="Finance" />  
  </NAMEDPROP>  
</RULE>
```

## カスタムフィルタのルールセットファイルの例

提供されているサンプルルールセットファイル Default Filter Rules.xml (Example Filter Rules.xml の名前を変更したコピー) を次に示します。カスタムフィルタが有効になるようにレジストリキーが設定されている場合、このファイルは、名前付きのルールセットファイルがないアーカイブ対象をフィルタ処理するために使われます。

```
<?xml version="1.0"?>  
<RULE_SET xmlns="x-schema:ruleset schema.xdr">  
  
  <!-- Example Rule 1: This rule will exclude any email from archiving  
  if it originates from someone in the Employee Benefits distribution  
  list.-->  
  
  <RULE NAME="Benefits correspondence" ACTION="MARK_DO_NOT_ARCHIVE">  
    <AUTHOR>  
      <DISPN>HR Employee Benefits</DISPN>  
    </AUTHOR>  
  </RULE>  
  
  <!--Example Rule 2: This rule will exclude any email from archiving  
  if it is sent to someone in the Employee Benefits distribution list.  
  -->  
  
  <RULE NAME="Benefits correspondence" ACTION="MARK_DO_NOT_ARCHIVE">  
    <RECIPIENTS>  
      <DISPN>HR Employee Benefits</DISPN>  
    </RECIPIENTS>  
  </RULE>
```

```
<!--Example Rule 3: (Available for Exchange Server archiving only)
This rule will move email to the wastebasket if it comes
from any of the sources listed, and is about any of the
subjects listed.-->
```

```
<RULE NAME="Newsletters" ACTION="MOVE_DELETED_ITEMS">
  <AUTHOR INCLUDES="ANY">
    <EA>icweek@ucg.com</EA>
    <EA>WebDirect@ACLI.com</EA>
    <DOMAIN>limra.com</DOMAIN>
  </AUTHOR>
  <SUBJECTS INCLUDES="ANY">
    <SUBJ MATCH="STARTS">Society SmartBrief</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="EXACT">TaxFacts ENews</SUBJ>
  </SUBJECTS>
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 4: Delete mail from known junk-mail sources,
(and others), if it contains certain common spam subjects-->
```

```
<RULE NAME="Junk Mail" ACTION="HARD_DELETE">
  <AUTHOR INCLUDES="ANY" ALLOWOTHERS="Y">
    <DOMAIN>indiatimes.com</DOMAIN>
    <DOMAIN>websavings-usa.net</DOMAIN>
  </AUTHOR>
  <SUBJECTS INCLUDES="ANY">
    <SUBJ MATCH="CONTAINS">enlargement</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="CONTAINS">weight loss</SUBJ>
  </SUBJECTS>
  <SUBJECTS INCLUDES="ALL">
    <SUBJ MATCH="CONTAINS">debt</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="CONTAINS">consolidate</SUBJ>
    <SUBJ MATCH="CONTAINS">loan</SUBJ>
  </SUBJECTS>
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 5: Take default action (ARCHIVE_ITEM) if the
subject matches the composite rule:
```

```
Must start with "MEMO", contain "INTERNAL"
and end in "OurCompany"
```

```
e.g. "MEMO : Contains information internal to OurCompany"
```

```
would match, but "MEMO : do not distribute" would not match.
```

```
Also allocates the message to a content category "Memoranda"-->
```

```
<RULE NAME="Internal Memo" CONTENTCATEGORY="Memoranda">
```

```
<SUBJECTS INCLUDES="ALL">
  <SUBJ MATCH="STARTS">Memo</SUBJ>
  <SUBJ MATCH="CONTAINS">Internal</SUBJ>
  <SUBJ MATCH="ENDS">OurCompany</SUBJ>
</SUBJECTS>
</RULE>

<!--Example Rule 6: Take default action (ARCHIVE_ITEM) on any
email from management members included here. Email from
management will be categorized under "ManagementMail"
and retained as "Important"-->
<RULE NAME="Management" CONTENTCATEGORY="ManagementMail"
RETENTION="Important">
  <AUTHOR INCLUDES="ANY">
    <EA>mike.senior@management.com</EA>
    <EA>jon.little@management.com</EA>
    <EA>jill.taylor@management.com</EA>
  </AUTHOR>
</RULE>

<!--Example Rule 7: Take default action (ARCHIVE_ITEM) if an email
is
addressed to any of the managers AND NO ONE ELSE
The message will be archived in a special archive reserved only
for this kind of email - specified by the ARCHIVEID-->

<RULE NAME="Sent to Management ONLY"
ARCHIVEID="16611B008A3F65749BC4118182E0021461110000evsite.
ourcompany.com">
  <RECIPIENTS INCLUDES="ANY" ALLOWOTHERS="N">
    <EA>mike.senior@management.com</EA>
    <EA>jon.little@management.com</EA>
    <EA>jill.taylor@management.com</EA>
  </RECIPIENTS>
</RULE>

<!--Example Rule 8: Do not archive mail that was sent to someone
outside OurCompany-->

<RULE NAME="External Recipient" ACTION="MARK_DO_NOT_ARCHIVE">
  <RECIPIENTS INCLUDES="NONE">
    <DOMAIN>OurCompany.com</DOMAIN>
  </RECIPIENTS>
```



```
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 9: Archive and give the existing Retention  
Category, Internal, to any email that was sent only to employees  
in OurCompany-->
```

```
<RULE NAME="Internal Recipient" ACTION="ARCHIVE_ITEM"  
RETENTION="Internal">  
  <DIRECTION INTERNAL="Y"/>  
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 10: Use a special retention category for mail  
addressed to any members of the specified DL-->
```

```
<RULE NAME="On the VIP list" RETENTION="VeryImportant">  
  <RECIPIENTS>  
    <DL>TheVIPs</DL>  
  </RECIPIENTS>  
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 11: (Available for Exchange Server archiving only)
```

```
Delete MP3 attachments before archiving-->
```

```
<RULE NAME="DeleteMP3s" ATTACHMENT_ACTION="REMOVE">  
  <FILES>  
    <FILE FILENAME="*.MP3"/>  
  </FILES>  
</RULE>
```

```
<!--Example Rule 12:
```

```
Match against named MAPI properties (defined in  
Custom Properties.xml), or named Domino properties (using  
the Domino field name for a property on an item) -->
```

```
<RULE NAME="Category Match" ACTION="ARCHIVE_ITEM">  
  <NAMEDPROP TAG="CaseAuthor" INCLUDES="ANY">  
    <PROP VALUE="Engineering"/>  
    <PROP VALUE="Support"/>  
  </NAMEDPROP>  
  <NAMEDPROP TAG="CaseStatus" INCLUDES="ANY">  
    <PROP VALUE="Open"/>  
    <PROP VALUE="Pending"/>  
  </NAMEDPROP>  
</RULE>  
</RULE_SET>
```

## カスタムプロパティと内容カテゴリの設定

カスタムプロパティは、カスタムフィルタの拡張機能です。カスタムフィルタによって選択されたメッセージの追加のプロパティをインデックス付けするように **Enterprise Vault** を設定できます。これらのプロパティは、デフォルトの **Enterprise Vault** システムではインデックス付けされない標準プロパティか、他社アプリケーションによって独自にメッセージに追加されたプロパティなどです。

このセクションでは、以下のことを説明します。

- **Enterprise Vault** インデックスに、アイテムの追加プロパティ (他社のアプリケーションによってメッセージに追加されたプロパティなど) を含める方法
- **Enterprise Vault Search** を設定してインデックス付きプロパティを検索できるようにする方法
- 内容のカテゴリを設定する方法

カスタムプロパティ機能はカスタムフィルタの拡張機能で、**Enterprise Vault** がアイテムのアーカイブ時に、他社のアプリケーションによってメッセージに追加された **Domino** サーバーの追加プロパティにアクセスまたはインデックス付けできるようになります。

内容のカテゴリは、アーカイブ時にメッセージに適用される設定のグループです。設定には、適用する保持カテゴリ、使用するアーカイブ、インデックス付けする特定のメッセージのプロパティが含まれます。特定のアーカイブタスクによってアーカイブするすべてのメッセージに内容のカテゴリを適用するように **Enterprise Vault** を設定できます。代わりに、カスタムフィルタをカスタムプロパティとともに使うことにより、選択したメッセージのみに内容のカテゴリを適用するように **Enterprise Vault** を設定することもできます。

**XML** ファイル `Custom Properties.xml` でカスタムプロパティと内容のカテゴリを定義します。このファイルはフォルダ `Enterprise Vault\Custom Filter Rules` に存在する必要があります。このファイルにエントリを追加すると、**Enterprise Vault Search** などの他のアプリケーションでインデックス付きプロパティを利用できるようになります。この後、ユーザーはアーカイブ検索基準にカスタムプロパティを含めることができます。カスタムプロパティファイルのサンプル `Example Custom Properties.xml` が `Custom Filter Rules` フォルダにインストールされています。

アーカイブシステムでフィルタ処理の特別な必要条件がある場合は、**Veritas** が適切なカスタムフィルタを提供します。

表 5-6 カスタムプロパティまたは内容のカテゴリを設定する手順

| 手順   | Action  | 関連情報  |
|------|---|---|
| 手順 1 | 必要なアーカイブタスクのカスタムフィルタレジストリ設定が完了していることを確認します。フィルタ処理を行わずにカスタムプロパティまたは内容のカテゴリを実装する場合でも、これらを設定する必要があります。 | p.69 の「 <a href="#">Domino カスタムフィルタのレジストリ設定</a> 」を参照してください。 |

| 手順   | Action   | 関連情報   |
|------|--|--|
| 手順 2 | XML ファイル Custom Properties.xml を作成します。このファイルを Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダに格納します。   | <p>p.100 の「<a href="#">Custom Properties.xml の一般的な形式について</a>」を参照してください。</p> <p>Custom Properties.xml のエントリにより次のことを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ メッセージのカスタムプロパティのインデックス付け。</li><li>■ 必要な内容のカテゴリの定義。</li><li>■ 専用の検索アプリケーションでカスタムプロパティと内容のカテゴリを表示する方法を定義します。</li></ul> <p>フィルタ処理を実行せずにすべてのメッセージの特定のカスタムプロパティをインデックス付けするように Enterprise Vault を設定する場合、Custom Properties.xml ファイルを作成する必要がありますが、ルールセットファイルは必要ありません。Custom Properties.xml ファイルには、カスタムプロパティの定義とデフォルトの内容のカテゴリを含める必要があります。デフォルトの内容のカテゴリはすべてのメッセージに適用され、Enterprise Vault がインデックス付けするプロパティを定義します。この動作は、IGNORENODEFAULT レジストリ設定を使って変更できます。</p> <p>p.75 の「<a href="#">デフォルトのカスタムフィルタの動作の制御について</a>」を参照してください。</p> |
| 手順 3 | 選択したメッセージのプロパティをインデックス付けしたり、選択したメッセージに内容のカテゴリを適用したりする場合は、XML ルールセットファイルで必要なフィルタルールやフィルタ処理を作成します。これらは 1 つ以上の XML ルールセットファイルに格納されます。このファイルも Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダに格納する必要があります。 | p.68 の「 <a href="#">カスタムフィルタの設定</a> 」を参照してください。  |
| 手順 4 | カスタムプロパティとフィルタを有効にしたアーカイブタスクを再起動します。   |  |

## Custom Properties.xml の一般的な形式について

Domino サーバーメッセージの追加のプロパティに、Enterprise Vault でアクセスしてインデックス付けを行うには、プロパティを Custom Properties.xml ファイルで定義する必要があります。このファイルは、カスタムフィルタが有効になっているアーカイブタスクを実行しているコンピュータの Enterprise Vault¥Custom Filter Rules フォルダに作成します。インストールしたファイル Enterprise Vault¥Custom Filter Rules¥Example Custom Properties.xml に、このファイルの例が示されています。このファイルには次のセクションを定義します。

- **<CONTENTCATEGORIES></CONTENTCATEGORIES>** のセクションでは利用可能な内容のカテゴリを定義します。内容のカテゴリは、アーカイブするときにアイテムに適用される設定のグループです。インデックス付けするカスタムプロパティを含めることもできます。  
p.104 の「[内容のカテゴリについて](#)」を参照してください。
- **<CUSTOMPROPERTIES></CUSTOMPROPERTIES>** のセクションでは、Enterprise Vault が利用可能なメッセージの追加プロパティを定義します。  
p.102 の「[カスタムプロパティでの追加 Domino メッセージプロパティの定義](#)」を参照してください。
- **<PRESENTATION></PRESENTATION>** このセクションでは、内容のカテゴリやカスタムプロパティを専用のサードパーティアプリケーションで表示する方法を定義します。  
p.108 の「[サードパーティのアプリケーションでのカスタムプロパティの表示方法の定義](#)」を参照してください。

---

**メモ:** これらのセクションの順序には意味があります。

---

以下に、ファイルの一般的な形式の概略を示します。

```
<?xml version="1.0"?>
<CUSTOMPROPERTYMETADATA xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance"
    xsi:noNamespaceSchemaLocation="customproperties.xsd">
<!-- 1. DEFINITION OF CONTENT CATEGORIES AVAILABLE -->
    <CONTENTCATEGORIES>
        <CONTENTCATEGORY> ... </CONTENTCATEGORY>
        [<CONTENTCATEGORY> ... </CONTENTCATEGORY>]
    </CONTENTCATEGORIES>

<!-- 2. DEFINITION OF CUSTOM PROPERTIES AVAILABLE -->
    <CUSTOMPROPERTIES>
        <NAMESPACE> ... </NAMESPACE>
```

```
[<NAMESPACE> ... </NAMESPACE>]
</CUSTOMPROPERTIES>

<!-- 3. DEFINITION OF PRESENTATION PROPERTIES AVAILABLE -->
<PRESENTATION>
  <APPLICATION>
    <FIELDGROUPS>
      <FIELDGROUP> ... </FIELDGROUP>
      [<FIELDGROUP> ... </FIELDGROUP>]
    </FIELDGROUPS>
    <AVAILABLECATEGORIES>
      <AVAILABLECATEGORY> ... </AVAILABLECATEGORY>
      [<AVAILABLECATEGORY> ... </AVAILABLECATEGORY>]
    </AVAILABLECATEGORIES>
  </APPLICATION>
  [<APPLICATION> ... </APPLICATION>]
</PRESENTATION>
```

次のセクションで、ファイル内のすべての必須要素とオプション要素の説明の概略を示します。

p.112 の「[カスタムプロパティの要素と属性の概略](#)」を参照してください。

ファイルを修正したときは、常に関連付けされたアーカイブタスクを再開する必要があります。分散環境では、カスタムプロパティが有効なタスクを実行している各コンピュータに更新したファイルをコピーし、関連付けされたタスクを各コンピュータで再開する必要があります。

Enterprise Vault Search を使ってカスタムプロパティを検索する場合は、IIS マネージャの Enterprise Vault アプリケーションプールも再起動する必要があります。

Enterprise Vault Search でカスタムプロパティを検索する場合は、Custom Properties.xml ファイルで指定したとおりに、検索条件にプロパティ名を入力する必要があります。検索条件のプロパティ名の大文字と小文字の区別はファイルのプロパティ名と一致する必要があります。カスタムプロパティに入力する値も大文字と小文字を区別する必要があります。

## Custom Properties.xml の妥当性の検証について

Enterprise Vault をインストールすると、Custom Filter Rules フォルダに customproperties.xsd が格納されます。これが Custom Properties.xml の妥当性を検証するための XML スキーマです。

次のように、Custom Properties.xml ファイルの最初の

CUSTOMPROPERTYMETADATA エントリで、スキーマファイルを参照する必要があります。

```
<?xml version="1.0"?>  
<CUSTOMPROPERTYMETADATA xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/  
XMLSchema-instance"  
    xsi:noNamespaceSchemaLocation="customproperties.xsd">
```

ファイルに非 **ANSI** 文字が含まれる場合は、最初の行で適切なエンコーディングが設定されていることと、ファイルが適切なエンコーディングで保存されていることを確認してください。

関連付けされたタスクがメッセージの処理を開始するときに、**XML** の妥当性の検証が行われます。無効な部分がある場合はタスクが停止するため、エラーを修正してからタスクを再起動する必要があります。

構文エラーによるタスクの中断を回避するため、タスクがアクセスする前に、**XML** ファイルの妥当性を検証することを推奨します。**Liquid XML Studio** の **GUI** の **XML** エディタなど、他社のツールを使うことができます。

<http://www.liquid-technologies.com/XMLStudio/Free-Xml-Editor.aspx>

このツールを使う場合、次のように名前空間を指定します。

```
x-schema:customproperties.xsd
```

---

**メモ:** このマニュアルで大文字で表示されているすべての **XML** タグや事前定義済みの値は大文字と小文字が区別されるため、ファイルでは大文字で入力する必要があります。入力する値も、大文字と小文字を区別する必要があります。

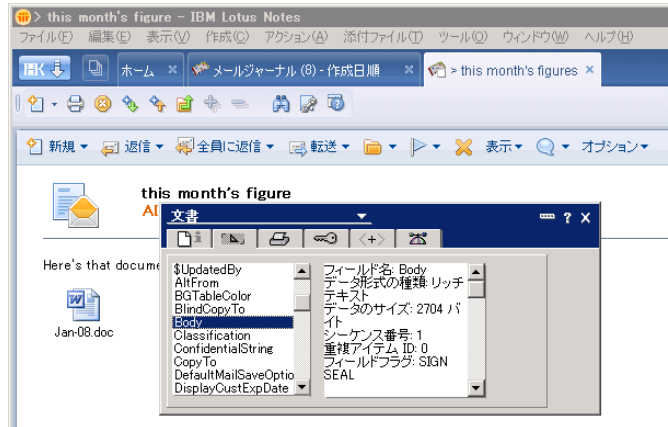
---

## カスタムプロパティでの追加 Domino メッセージプロパティの定義

**Enterprise Vault** インデックスに **Domino** メッセージのカスタムプロパティを含めるには、**Custom Properties.xml** で必要なプロパティを定義します。

**Notes** クライアントでは、[図 5-4](#) に示すようにメッセージの **Domino** プロパティを表示できます。

図 5-4 Domino メッセージプロパティの表示



### Domino メッセージプロパティを表示する方法

- 1 Notes クライアントでメッセージを開き、メッセージを右クリックします。
- 2 メニューから[文書プロパティ]を選択します。
- 3 表示されるダイアログボックスの[フィールド]タブを選択します。

プロパティ名が左側のペインに一覧表示されます。左側のペインのプロパティを選択すると、そのプロパティの詳細が右側のペインに表示されます。

Domino メッセージプロパティを Enterprise Vault で利用可能にするには、Custom Properties.xml の <CUSTOMPROPERTIES> セクションで定義します。このセクションで定義したプロパティは、内容のカテゴリとプレゼンテーションのセクションで参照できます。

プロパティは <NAMESPACE> 要素を使ってグループ化されます。通常、特定のアプリケーションによってアクセスされるプロパティは同じ名前空間で定義されます。

次のカスタムプロパティセクションの概略では、Domino プロパティの定義方法を示します。

```
<!-- 2. DEFINITION OF CUSTOM PROPERTIES AVAILABLE -->
```

```
<CUSTOMPROPERTIES>
```

```
  <NAMESPACE TYPE="LOTUS">
```

```
    <PROPERTY NAME="Domino_prop_name" LOTUSTYPE="Domino_data_type"
TAG="EV_prop_name" SEPARATOR="separator_characters" />
```

```
    [<PROPERTY ... />]
```

```
  </NAMESPACE>
```

```
</CUSTOMPROPERTIES>
```

TYPE="LOTUS" により、プロパティを Domino プロパティとして識別します。

各 <NAMESPACE> 要素では、次のように <PROPERTY> 要素の中で NAME 属性と TAG 属性を使ってプロパティが定義されています。

- NAME="Domino\_prop\_name" で、値として Notes 文書プロパティで表示されるプロパティ名を指定します。この値は、Notes クライアントに表示される値と正確に一致する必要があります。
- LOTUSTYPE="Domino\_data\_type" はプロパティデータの種類を識別します。次のタイプがサポートされます: "TEXT"、"NUMBER"、"TIME"。  
Enterprise Vault では、"NUMBER" プロパティは整数としてインデックス付けされます。
- TAG="EV\_prop\_name" は、Enterprise Vault 内のプロパティを識別します。4 文字以上の英数字記号 (A から Z、a から z、0 から 9) を含める必要があります。スペース文字とアンダースコア文字は含めることができません。プロパティ TAG に割り当てられた値は XML ファイル内で一意にする必要があります。TAG 値を使ってプロパティを相互参照できますが、ファイル内の他のエンティティを識別するために同じ値を使うことはできません。
- SEPARATOR="separator\_characters" には、セパレータとして扱う 1 つ以上の文字を指定します。この属性で指定したすべての文字は、区切り記号として個別に使用され、Domino プロパティに割り当てられた文字列を分割します。たとえば、コロンとセミコロンの両方を区切り記号として使用する場合は、SEPARATOR を「;:」に指定します。Enterprise Vault その後、Domino プロパティをこれらの区切り記号の 1 つの出現箇所で分割し、個別に各々の分割されていた値をインデックス付けします。

## 内容のカテゴリについて

Custom Properties.xml の <CONTENTCATEGORIES> セクションでは、フィルタ処理されたメッセージに適用する内容のカテゴリを定義します。

内容のカテゴリは、アーカイブするときにアイテムに適用される設定のグループです。

設定には、次の情報を含めることができます。

- アイテムに割り当てる保持カテゴリ
- アーカイブ先
- Enterprise Vault がインデックス付けするメッセージの追加プロパティの一覧

<CONTENTCATEGORIES> 要素では、複数の内容のカテゴリを定義することができます。

ルールセットファイルでは、ルールに関連付けされた処理として、ルールを満たすメッセージへの特定の内容のカテゴリの割り当てを含めることができます。Custom Properties.xml の内容のカテゴリの定義では、内容のカテゴリのデフォルト設定が提供されます。特定のルールについてこれらの一部を上書きできます。



p.106 の「カスタムプロパティを設定する場合のルールでの内容のカテゴリの割り当てについて」を参照してください。

次の例は、**Litigation** という内容のカテゴリのエントリを示しています。

```
<!-- 1. DEFINITION OF CONTENT CATEGORIES AVAILABLE -->

<CONTENTCATEGORIES DEFAULT="Litigation">
  <CONTENTCATEGORY NAME="Litigation" RETENTIONCATEGORY="Litigation"
    ARCHIVEID="15165263832890493848568161647.server1.local">
    <INDEXEDPROPERTIES RETRIEVE="Y">
      <PROPERTY TAG="CaseAuthor"/>
      <PROPERTY TAG="CaseStatus"/>
    </INDEXEDPROPERTIES>
  </CONTENTCATEGORY>
</CONTENTCATEGORIES>
```

- **<CONTENTCATEGORIES></CONTENTCATEGORIES>** では、ファイルの内容のカテゴリのセクションを定義します。

- **DEFAULT** 属性は、デフォルトとして使われる内容のカテゴリを指定します。このデフォルトは、カスタムフィルタが有効なすべての種類のアーカイブに適用されます。この属性は、カスタムフィルタが使われている場合はオプションですが、ルールセットが存在しない場合は、**IGNORENODEFAULT** レジストリ設定が設定されていない限り必須です。

ルールセットファイルでフィルタが設定されており、デフォルトの内容のカテゴリが指定されている場合は、いずれのルールにも一致しないアイテムは、デフォルトの内容のカテゴリでの設定に従ってアーカイブされます。デフォルトの内容のカテゴリが指定されていない場合、フィルタルールセットファイルで一致ルールが指定されていれば、内容のカテゴリは 1 つのアイテムにのみ適用されます。

適用可能なルールセットファイルが存在しない場合、Custom Properties.xml の **<CONTENTCATEGORIES>** 要素で **DEFAULT** 属性を使って、デフォルトの内容のカテゴリを指定する必要があります。内容のカテゴリの設定は、**IGNORENODEFAULT** レジストリ設定が設定されていない限り、アーカイブするすべてのメッセージに適用されます。

アーカイブタスクの処理は、ルールセットファイル、カスタムプロパティ、内容のカテゴリ、**IGNORENODEFAULT** レジストリ設定の組み合わせで決まります。

- **<CONTENTCATEGORY>** 要素は特定の内容のカテゴリを定義します。少なくとも 1 つの内容のカテゴリを定義する必要があります。
- 内容のカテゴリの **NAME** は、ファイルのプレゼンテーションセクション、カスタムフィルタルールセットファイルのルール、Enterprise Vault Indexing Service などの外部サブシステムで、この内容のカテゴリを識別するために使われます。名前は 5 文字以上にする必要があり、含めることができるのは英数字記号 (A から Z, a から z, 0 から 9) だけです。スペース文字とアンダースコア文字は含めることができません。

ファイルのプレゼンテーションセクションに内容のカテゴリが含まれている場合、この特定の内容のカテゴリを使ってアーカイブされたすべてのアイテムを検索するために、内容のカテゴリ名で検索することが可能になります。

- **RETENTIONCATEGORY** はオプションで、この内容のカテゴリを使ってアーカイブされた各アイテムに保持カテゴリを割り当てることができます。保持カテゴリは **Enterprise Vault** にすでに存在している必要があります。
- **ARCHIVEID** はオプションで、アイテムのアーカイブ先を指定できます。アーカイブが存在し、有効になっている必要があります。アーカイブの ID を見つけるには、管理コンソールでアーカイブのプロパティを表示し、[詳細]タブをクリックします。
- **<INDEXEDPROPERTIES>** 要素は必須で、**Enterprise Vault** がインデックス付けする追加プロパティをグループ化します。
- **RETRIEVE** 属性はオプションで、アーカイブ検索結果とともに定義したプロパティが返されるかどうかを決定します。デフォルトでは、プロパティは検索結果とともに表示されません (**RETRIEVE="N"**)。
- **<PROPERTY>** 要素は、インデックス付けする追加プロパティごとに必要です。
- **TAG** 値は、カスタムプロパティセクションで指定されている関連付けされた **Enterprise Vault TAG** 値と一致している必要があります。  
p.102 の「[カスタムプロパティでの追加 Domino メッセージプロパティの定義](#)」を参照してください。

## カスタムプロパティを設定する場合のルールでの内容のカテゴリの割り当てについて

カスタムプロパティを使用するときは、ルールセットファイルのルールで内容のカテゴリを割り当てることが、フィルタルールに一致するメッセージに対する処理を指定する望ましい方法です。内容のカテゴリのデフォルト設定は `Custom Properties.xml` の内容のカテゴリセクションで定義します。

ルールセットファイルでは次のように内容のカテゴリを割り当てます。

```
<RULE NAME="Example rule" ACTION="ARCHIVE_ITEM"
  CONTENTCATEGORY="content_category_name">
  <message attribute filters>
</RULE>
```

「`content_category_name`」の値は、`Custom Properties.xml` で指定されている必要な内容のカテゴリの名前です。

ルールセットファイルでは、**ACTION="ARCHIVE\_ITEM"** の場合にのみ内容のカテゴリを割り当てることができます。

## デフォルトの内容のカテゴリ設定の上書き

ルールでは、内容のカテゴリを割り当て、デフォルトの内容のカテゴリ設定の一部を上書きできます。たとえば、インデックス付けするすべてのカスタムプロパティ、保持カテゴリ、アーカイブ先を定義する内容のカテゴリが存在する場合、必要に応じて、異なるルールで内容のカテゴリを割り当て、アーカイブまたは保持カテゴリの値を上書きできます。

たとえば、**Litigation** という内容のカテゴリが **Custom Properties.xml** で次のように定義されているとします。

```
<CONTENTCATEGORY NAME="Litigation" RETENTIONCATEGORY="Litigation"
  ARCHIVEID="15165263832890493848568161647.server1.local">
  <INDEXEDPROPERTIES RETRIEVE="Y">
    <PROPERTY TAG="AUTHOR01"/>
    <PROPERTY TAG="CASESTATUS"/>
  </INDEXEDPROPERTIES>
</CONTENTCATEGORY>
```

これはルールセットファイルで次のように参照できます。

```
<RULE NAME="Example rule1" ACTION="ARCHIVE_ITEM"
  CONTENTCATEGORY="Litigation">
  <message attribute filters>
</RULE>
<RULE NAME="Example rule2" ACTION="ARCHIVE_ITEM"
  CONTENTCATEGORY="Litigation"
  ARCHIVEID="1516526383289049384890493848.server2.local">
  <message attribute filters>
</RULE>
```

この内容のカテゴリで定義された追加プロパティは、両方のルールでインデックス付けされます。2 つ目のルールでは同じ内容のカテゴリが使われていますが、このルールに一致するアイテムは異なるアーカイブに格納されます。

---

**メモ:** 既存の設定を変更する前に、各種類のアーカイブに対して設定されているデフォルトの動作を理解しておく必要があります。Custom Properties.xml の内容のカテゴリの **DEFAULT** 属性と **IGNORENODEFAULT** レジストリ設定を確認してください。

---

p.75 の「[デフォルトのカスタムフィルタの動作の制御について](#)」を参照してください。

## サードパーティのアプリケーションでのカスタムプロパティの表示方法の定義

ファイルのプレゼンテーションセクション <PRESENTATION> では、利用可能な内容のカテゴリやカスタムプロパティを専用のアーカイブ検索エンジンなどの外部アプリケーションで表示する方法を定義します。

プロパティの表示を基本のプロパティ定義と別にすることで、カスタムプロパティの詳細をユーザーインターフェースに柔軟にマップできます。これにより、複数言語のサポートも容易になります。

プレゼンテーションセクションのエントリでは次の内容を定義します。

- 指定のアプリケーションで表示可能なカスタムプロパティ
- アプリケーションでプロパティをグループ化して表示する方法
- アプリケーションで利用可能な内容のカテゴリ
- 各内容のカテゴリをアプリケーションで表示する方法

表示の情報は、アーカイブ済みアイテムのカスタムプロパティにアクセスが必要なアプリケーションごとに定義できます。

以下に、**Web** 検索アプリケーションでカスタムプロパティを表示する方法の定義を示したプレゼンテーションセクションの部分的な例を示します。

```
<!-- 3. DEFINITION OF PRESENTATION PROPERTIES AVAILABLE -->

<PRESENTATION>
  <APPLICATION NAME="engsearch.asp" LOCALE="1033">
    <FIELDGROUPS>
      <FIELDGROUP LABEL="Case Properties">
        <FIELD TAG="CaseAuthor" LABEL="Author" CATEGORY="Litigation">
        </FIELD>
        <FIELD TAG="CaseStatus" LABEL="Status" CATEGORY="Litigation">
        </FIELD>
      </FIELDGROUP>
      <FIELDGROUP LABEL="Client Properties">
        <FIELD TAG="Client" LABEL="Client Name" CATEGORY="ClientAction">
        </FIELD>
        <FIELD TAG="Topic" LABEL="Message Topic" CATEGORY="ClientAction">
        </FIELD>
      </FIELDGROUP>
    </FIELDGROUPS>

  <AVAILABLECATEGORIES>
    <AVAILABLECATEGORY CONTENTCATEGORY="Litigation" LABEL="Litigation">
```

```
</AVAILABLECATEGORY>
<AVAILABLECATEGORY CONTENTCATEGORY="ClientAction" LABEL="Client
Action">
</AVAILABLECATEGORY>
</AVAILABLECATEGORIES>
</APPLICATION>

<APPLICATION NAME="jpnsearch.asp" LOCALE="1041">
<FIELDGROUPS>
<FIELDGROUP LABEL="...">
<FIELD TAG="CaseAuthor" LABEL="..." CATEGORY="Litigation"></FIELD>
<FIELD TAG="CaseStatus" LABEL="..." CATEGORY="Litigation"></FIELD>
</FIELDGROUP>
<FIELDGROUP LABEL="...">
<FIELD TAG="Client" LABEL="..." CATEGORY="ClientAction"></FIELD>
<FIELD TAG="Topic" LABEL="..." CATEGORY="ClientAction">
</FIELD>
</FIELDGROUP>
</FIELDGROUPS>
<AVAILABLECATEGORIES>
<AVAILABLECATEGORY CONTENTCATEGORY="Litigation" LABEL="...">
</AVAILABLECATEGORY>
<AVAILABLECATEGORY CONTENTCATEGORY="ClientAction" LABEL="...">
</AVAILABLECATEGORY>
</AVAILABLECATEGORIES>
</APPLICATION>
</PRESENTATION>
```

この例では、2 つのバージョン (英語 (U.S.) バージョン (ロケール "1033") と日本語バージョン (ロケール "1041")) のアプリケーションエントリを示しています。この場合は、両方のバージョンに同じ要素と属性を指定していますが、2 つ目のバージョンの LABEL 値 (例では省略) には日本語を指定します。

次の点に注意してください。

- 各アプリケーションで利用可能なプロパティは、<APPLICATION> 要素を使ってグループ化されます。
- NAME 属性でアプリケーションを識別します。
- LOCALE 属性の値は、呼び出すアプリケーションによって定義されます。この例では、アプリケーションで使う言語の標準 Microsoft ロケール ID を使うと仮定しています。1033 は英語 (U.S.) を表します。例の 2 つ目のアプリケーション jpnsearch.asp でも Microsoft ロケール ID を使います。1041 は日本語を表します。

アプリケーション検索ページでは、内容のカテゴリで定義しているグループでカスタムプロパティが表示されます。つまり、特定の内容のカテゴリを選択するとその内容のカテゴリでカスタムプロパティが表示されます。

次の点に注意してください。

- **<FIELDGROUPS>** 要素は、表示するカスタムプロパティのすべてのグループを定義するために使います。
- 各グループは **<FIELDGROUP>** 要素で定義します。**LABEL** 属性で、アプリケーションで表示されるプロパティのグループのタイトルを指定します。**LABEL** 属性の値は、アプリケーションで重複がないようにする必要があります。
- **<FIELD>** 要素はグループで表示される各プロパティを定義します。  
**TAG** 属性の値は表示するプロパティを識別します。ここで指定する値は、ファイルの **<CUSTOMPROPERTIES>** セクションのプロパティの関連付けされた **TAG** 値と一致する必要があります。  
**CATEGORY** 属性の値は、このプロパティを関連付ける内容のカテゴリを定義します。検索基準でこの内容のカテゴリを選択すると、プロパティのフィールドを表示できます。**CATEGORY** で指定する値は、ファイルの内容のカテゴリセクションで指定した内容のカテゴリの関連付けされた **NAME** 値と一致する必要があります。また、**CATEGORY** は **<AVAILABLECATEGORIES>** 要素で定義されたものと同一である必要があります。  
**TAG** は **<FIELDGROUP>** 内で重複がないように、また **TAG** と **CATEGORY** の組み合わせは **<APPLICATION>** 要素内で重複がないようにする必要があります。  
**LABEL** は、そのカスタムプロパティに対してユーザーインターフェースで表示する名前を定義します。
- **<AVAILABLECATEGORIES>** は、アプリケーションで選択可能な内容のカテゴリをグループ化します。各内容のカテゴリは、**<AVAILABLECATEGORY>** 要素を使って定義します。**CONTENTCATEGORY** 属性の値は、ファイルの内容のカテゴリセクションで指定した内容のカテゴリの名前と一致する必要があります。**LABEL** 属性は、ユーザーインターフェースで内容のカテゴリの表示に使う名前を定義します。

## サンプル検索アプリケーションでのカスタムプロパティの表示

このセクションでは、サンプルのプレゼンテーションセクションのエントリが専用のアーカイブ検索アプリケーションでどのように表示されるかを示します。カスタムプロパティやユーザーインターフェースでこのプロパティを表示する方法の詳細を含む **Custom Properties.xml** ファイルを検索アプリケーションで使うと想定します。

図 5-5 に、サンプルのカスタムプロパティと内容のカテゴリが表示された検索条件を示します。

図 5-5 サンプルの検索ページに表示されたプロパティの表示例

|              |                        |                      |                         |
|--------------|------------------------|----------------------|-------------------------|
| ボルト          | <アーカイブ 1> ▼            |                      |                         |
| 件名           | 次のどれか 1 つ以上を含む ▼       | <input type="text"/> |                         |
| 作成者          | 次のどれか 1 つ以上を含む ▼       | <input type="text"/> |                         |
| 内容           | 次のどれか 1 つ以上を含む ▼       | <input type="text"/> |                         |
| 受信者          | 次のどれか 1 つ以上を含む ▼       | <input type="text"/> |                         |
| 日付           | <input type="text"/>   | から                   | <input type="text"/> まで |
| 期限切れ日        | <input type="text"/>   | から                   | <input type="text"/> まで |
| ファイル拡張子      | <input type="text"/>   |                      |                         |
| 保持カテゴリ       | <input type="text"/> ▼ |                      |                         |
| フォルダ         | <input type="text"/>   |                      | 参照...                   |
| 内容のカテゴリ      | Litigation ▼           |                      |                         |
| ケースのプロパティ    | 作成者:                   | <input type="text"/> |                         |
|              | 状態:                    | <input type="text"/> |                         |
| クライアントのプロパティ | クライアント名:               | <input type="text"/> |                         |
|              | メッセージトピック:             | <input type="text"/> |                         |

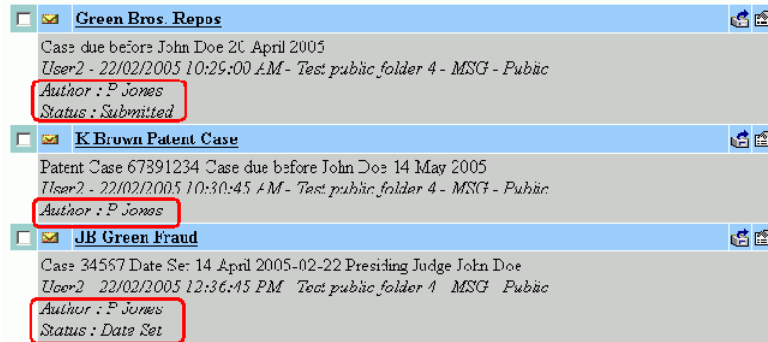
この例では、検索に利用可能な内容のカテゴリが[内容のカテゴリ]ドロップダウンボックスに表示されています。これらは <AVAILABLECATEGORIES> 要素を使って定義したものです。

内容のカテゴリを検索すると、選択した内容のカテゴリとアーカイブしたすべてのアイテムが返ります。

[Case Properties]と[Client Properties]セクションには、選択した内容のカテゴリに関連付けられたカスタムプロパティの各グループ (FIELDGROUP) が表示されます。カスタムプロパティ値の検索では、アーカイブ済みアイテムのカスタムプロパティのインデックスエントリを検索します。

Litigation という内容のカテゴリの定義で RETRIEVE= " Y" と設定した場合は、定義済みのカスタムプロパティが検索結果アイテムに表示されます。

図 5-6 検索結果に表示されるカスタムプロパティの例



Custom Properties.xml ファイルの内容が変更されると、検索で異なる結果が返される可能性があります。たとえば、1 つの内容のカテゴリを使ってアイテムをインデックス付けし、その内容のカテゴリに含まれるプロパティが変更された場合は、以降の検索で返るカスタムプロパティが異なります。もとのプロパティで検索できるように、もとの内容のカテゴリはそのままにして新しい内容のカテゴリを作成してください。

## カスタムプロパティの要素と属性の概略

表 5-7 は、Custom Properties.xml のすべての要素と属性をまとめたものです。

「必須」列の値は、IGNORENODEFAULT レジストリ設定が使われていないことを想定しています。

表 5-7 Custom Properties.xml ファイルの XML 要素と属性

| 要素                | 属性       | 必須  | 説明  |
|-------------------|----------|-----|---|
| CONTENTCATEGORIES |          | はい  | ファイルの内容のカテゴリセクションを定義します。  |
|                   | DEFAULT= | いいえ | 値は、デフォルトとして使われる内容のカテゴリの名前です。すべてのアイテムのカスタムプロパティをインデックス付けする場合に必要です。 |
| CONTENTCATEGORY   |          | はい  | アーカイブ済みアイテムに割り当てられる設定のグループを定義します。                                 |
|                   | NAME=    | はい  | 値は、ルールセットや表示インターフェースがカテゴリを識別するための重複のない名前です。                       |



| 要素                | 属性                 | 必須  | 説明   |
|-------------------|--------------------|-----|--|
|                   | RETENTIONCATEGORY= | いいえ | 値は、アーカイブ済みアイテムに割り当てられる保持カテゴリを示します。保持カテゴリは <b>Enterprise Vault</b> にて設定されている必要があります。          |
|                   | ARCHIVEID=         | いいえ | 値は、アイテムを格納するアーカイブの ID を示します。 <b>Enterprise Vault</b> 管理コンソールのアーカイブのプロパティ値です。                 |
| INDEXEDPROPERTIES |                    | はい  | 内容のカテゴリの追加プロパティセットを定義します。  |
|                   | RETRIEVE=          | いいえ | 値は「Y」または「N」です。このセットのプロパティが検索結果で表示されるかどうかを示します。デフォルトは「N」です。                                   |
| PROPERTY          |                    | はい  | この内容のカテゴリを割り当てられたアイテムに対して、インデックス付けする追加プロパティを定義します。   |
|                   | TAG=               | はい  | 値は、プロパティの <b>Enterprise Vault TAG</b> です。  |
| CUSTOMPROPERTIES  |                    | はい  | ファイルのカスタムプロパティセクションを定義します。   |
| NAMESPACE         |                    | はい  | カスタムプロパティのグループを含む <b>NAMESPACE</b> を定義します。   |
|                   | TYPE=              | はい  | 値は「LOTUS」プロパティの種類です。   |
| PROPERTY          |                    | はい  | カスタムプロパティを定義します。   |
|                   | NAME=              | はい  | 値は <b>Notes</b> クライアントのメッセージプロパティで表示されるプロパティの ID 情報です。<br><br>値は <b>NAMESPACE</b> 内で重複できません。 |
|                   | LOTUSTYPE=         | はい  | 値は、 <b>Domino</b> プロパティのデータの種類「TEXT」、「NUMBER」、「TIME」のいずれかです。                                 |

| 要素           | 属性        | 必須  | 説明   |
|--------------|-----------|-----|--|
|              | TAG=      | はい  | TAG は Enterprise Vault 内のプロパティを識別します。4 文字以上の英数字記号 (A から Z、a から z、0 から 9) を含める必要があります。スペース文字とアンダースコア文字は含めることができません。値は XML ファイル内で重複できません。<br><br>TAG 値はインデックスに格納されるプロパティ名です。 |
| PRESENTATION |           | はい  | ファイルのプレゼンテーションプロパティセクションを定義します。  |
| APPLICATION  |           | はい  | 指定するアプリケーションが使うフィールドのグループを定義します。   |
|              | NAME=     | はい  | 値は、この定義内のフィールドを使うアプリケーションの名前です。  |
|              | LOCALE=   | はい  | 値は、呼び出すアプリケーションが言語を定義するために必要な内容によって異なります。たとえば、アプリケーションを実行する環境の Microsoft 標準ロケール ID 番号を使います。  |
| FIELDGROUPS  |           | はい  | アプリケーションが利用可能なフィールドグループを定義します。   |
| FIELDGROUP   |           | はい  | 表示インターフェースでのフィールドの論理グループ。  |
|              | LABEL=    | いいえ | 値は、このフィールドグループを表すためにアプリケーションで表示されます。ラベルはアプリケーション内で重複できません。   |
| FIELD        |           | はい  | カスタムプロパティを参照するフィールドを定義します。   |
|              | LABEL=    | はい  | 値は、このカスタムプロパティを表すためにアプリケーションのユーザーインターフェースで表示されます。  |
|              | CATEGORY= | はい  | 値は、アプリケーションの AVAILABLECATEGORIES で指定される内容のカテゴリの名前です。   |

| 要素                  | 属性               | 必須 | 説明  |
|---------------------|------------------|----|---|
|                     | TAG=             | はい | 値は、カスタムプロパティの TAG です。タグは FIELDGROUP 内で重複できません。  |
| AVAILABLECATEGORIES |                  | はい | アプリケーションが利用可能な内容のカテゴリを定義します。                    |
| AVAILABLECATEGORY   |                  | はい | 内容のカテゴリを定義します。                                  |
|                     | LABEL=           | はい | 値は、ユーザーインターフェースでの内容のカテゴリの表示方法を定義します。            |
|                     | CONTENTCATEGORY= | はい | 値は、ファイルの内容のカテゴリセクションで指定された、必要な内容のカテゴリの NAME です。 |